

流元 剛行 金本 流宗 世宗 観宗 榎書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
電話(291)2488-9 振替東京3-3552
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入
電話(231)1990 振替京都1-113

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 0-36393
購読料 1年 700円
郵送の場合 1年 1200円
部 70円

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

- (1月)
15日(日・祝) 清観会大会 (来場歓迎)
21日(土) 正風会20周年記念大会 (来場歓迎) (番組⑤面)
22日(日) 正風会20周年記念大会 (来場歓迎) (番組⑥面)
29日(日) 柳原富司忠職分20周年記念能 (有料) (番組⑥面)
- (2月)
5日(日) 名古屋宝生会定式能 (有料) (番組⑥面)
12日(日) 名古屋観世会定式能 (有料) (番組⑥面)
19日(日) 名古屋観世九皇会定期能 (有料) (番組⑥面)
26日(日) 春鼓会大会 (来場歓迎)
- (3月)
5日(日) 梅大龍四壺 (来場歓迎) (番組⑥面)
12日(日) 梅大龍四壺 (来場歓迎) (番組⑥面)
19日(祝) 梅大龍四壺 (来場歓迎) (番組⑥面)
26日(日) 梅大龍四壺 (来場歓迎) (番組⑥面)
- (4月)
2日(日) 梅大龍四壺 (来場歓迎) (番組⑥面)
8日(土) 梅大龍四壺 (来場歓迎) (番組⑥面)
9日(日) 梅大龍四壺 (来場歓迎) (番組⑥面)
15日(日) 梅大龍四壺 (来場歓迎) (番組⑥面)
16日(日) 梅大龍四壺 (来場歓迎) (番組⑥面)
22日(土) 梅大龍四壺 (来場歓迎) (番組⑥面)
23日(日) 梅大龍四壺 (来場歓迎) (番組⑥面)
29日(祭) 梅大龍四壺 (来場歓迎) (番組⑥面)
30日(日) 梅大龍四壺 (来場歓迎) (番組⑥面)
- (5月)
3日(祝) 梅大龍四壺 (来場歓迎) (番組⑥面)
5日(祝) 梅大龍四壺 (来場歓迎) (番組⑥面)
6日(土) 梅大龍四壺 (来場歓迎) (番組⑥面)
7日(日) 梅大龍四壺 (来場歓迎) (番組⑥面)
10日(水) 梅大龍四壺 (来場歓迎) (番組⑥面)
14日(日) 梅大龍四壺 (来場歓迎) (番組⑥面)

(演能変更の節はご了解下さい)

五十六世梅若六郎 襲名披露能 能「大般若」上演

5月6日 熱田能楽殿

観世流シテ方、梅若紀彰氏は、先代五十五世六郎の物故十年を機に昨年七月、家の名である六郎を襲名、この披露能が七月二十三、二十四の二日間、東京・国立能楽堂で催され、さらに九月から京都大阪、九州で催されたが、きたる五月六日(土)熱田神宮能楽殿で、五十六世梅若六郎襲名披露能として、能「大般若」上演される。「大般若」の三番が上演される。(二月十八日開催予定を変更)「大般若」は六郎師により復曲、昨年七月に国立能楽堂で四回目的上演が行われている。当日は午後一時開演。

名古屋宝生会定式能 番組

ことしの名古屋宝生会定式能は二月五日を初回として四回公演が行われる。
。第一回 二月五日(日) 番組⑥面掲載
。第二回 六月十八日(日) 内藤 泰二 宝生 英照
。第三回 九月十七日(日) 辰巳 潤次郎
。第四回 十一月十九日(日) 戸田 和 佐野 朋 当山 興道
。第四回 十一月十九日(日) 倉本 雅 鬼頭 嘉男

能楽協会名古屋支部の謡初式

能楽協会名古屋支部(内藤泰二支部長)は、一月三日午前十一時から恒例の新年謡初会を熱田神宮能楽殿で支部所属楽師五十人が参加して開催した。

神戸新春能

1月16日 神戸文化ホール 神戸市、神戸市民文化振興財団神戸文化ホール主催、能楽協会神戸支部後援の「神戸新春能」は一月十六日(月・休日)神戸文化ホールで開催される。午前十一時始。素謡「神歌」藤井 久雄 能「針木」吉井 順一 能「羽衣」藤井 徳三 狂言「呼声」茂山千五郎 能「恋重荷」観世 左近 当日券(一階)六千五百円(二階)四千円。

新年御挨拶

名古屋観世会

元正改メ 観世左近

清和 芳宏 芳伸

中日文化センター特別教室 観世元昭

幽詠会 片山九郎右衛門

法蘭西梅若研能会 橋梅若香会

梅若万三郎

大槻清韻会 大槻秀夫 大槻文藏

梅若盛義 梅若盛義

名古屋観衛会 山本博道

鳳鳴会 武田志房

名古屋観世九皇会 有賀滋之 加藤保彦 青藤武弘 高木美智 高橋昭一

井上嘉久

藤井久雄 完楽徳三 治人三

幽花会 片山慶次郎

名古屋淡交会 橋岡慈観

武田詠楽会 武田小兵衛 武田欣司 武田邦弘

財団法人鎌倉能舞台 中森晶三 中森貫太

山本眞賀

竹翠会若松宏守

二十三(月)第一線で活躍する若い能楽師を招いて「能の音楽を楽しむ」つどいを能楽舞台で開催する。

広くよびかけ参加を歓迎している。参加費は、正会員千円、臨時会員は二千円。申込みは、能楽友の会、田中(T二四〇〇番)

ひきつづいて楽屋で内藤支部長から六十三年度の支部主催演能の遂行について報告と協力感謝のことばがあり、長谷晴男熱田神宮能楽殿運営委員長は、能楽殿の運営と改修等についてあいさつ、また五月からの新役員人事の報告と本年度の支部主催による演能日程が発表された。

おしなからうらなひ急かたて痛まらぬ胸中。その中入が殊によかつた。へこの山姥が一節を、とツレを向き、へ夜すがら謡ひ給はばその時、と背を向けて運び出し、へ

本店 熱田区神戸町三四 電話(61)86868
本宮東門店 熱田区神宮一・二 電話(68)55980

(2)

月刊 (毎月一回10日発行)

(第3種郵便物認可)

友の楽能

能

1989年1月10日

【第265号】

10日発行

玉月雅日記

比翼連理

えと文 二井栄逸

天にあらば願わくは、比翼の鳥とならん。
地にあらば願わくは、連理の枝とならん。

右は、能、楊貴妃のロンギ前の一節であるが、白楽天の作った長編の叙事詩、長恨歌(ちやうごんか)の中の一節でもある。

能の作者は、楊貴妃の一生を文学化した白楽天の長恨歌を根拠材料として、楊貴妃を作った。そして楊貴妃は、かすかすの名能役者によつて演じられ、みがかれ、現在のような美しい能となった。

整(かづら)能の中でも特に品位の要求される重曲として、楊貴妃は、定家の式子内親王、小原御幸(大原とも)の建礼門院と並んで三夫人ともよばれている。能では、楊貴妃の史実等は、一

種の神仙談的なものとし、玄宗への恩慕を懐旧の情に託して、艶麗

無双の美人の姿を仙女として表現し、男女の欲を中心に、気品と情趣を専らとしたものにしていく。皇帝の命を受けて常世の園蓬菜宮に楊貴妃をたずねた方士は形見の物を乞うと、楊貴妃は玉のかんざしをわたすのであるが、方士はそれよりも闇中の秘語をしるしにという。

比翼の鳥というのは、伝説上の鳥で、雌雄各一目・一翼で常に一体となって飛ぶというものである。翼をならべて飛ぶ鳥のこともいう。



(64・1・4記)

1989年1月・2月 放送予定

- 【1月】NHK・FM能楽鑑賞 (午前8時~9時)
- 22日(日) 観世流「海士」片山九郎右衛門
 - 29日(日) 金春流「東北」桜間金太郎
- 【2月】NHK・FM能楽鑑賞 (午前8時~9時)
- 5日(日) 観世流「定家」観世鏡之丞
 - 12日(日) 宝生流「瓶」渡辺三郎
 - 19日(日) 観世流「船橋」関根祥六
 - 26日(日) 喜多流「百萬」喜多節世
- ◎NHK・教育テレビ (午前9時~10時)
- 2月11日(祝) 一調「笠之段」謡・粟谷菊生(喜多流)
 - 小鼓・幸義太郎(幸清流)
 - 能「隅田川」(宝生流)
 - シテ三川泉、ワキ森茂好ほか

観能 心理劇の面白さ 壺泉会の「隅田川」

た。むつかしいところですね。しかしこの後のすばらしい終曲を前に、目をつぶるよりはほかないでしよう。

中日文化センター 謡曲・仕舞教室 (名古屋栄) 岐阜・四日市

正衣斐正会

後菊扇会

新年御挨拶

- 熱田神宮能楽殿運営委員会
- 委員長 熱田神宮権宮司 長谷晴男
 - 総務部長 熱田神宮権宣 岡地幸男
 - 庶務部長 熱田神宮権宣 竹内正憲
 - 会計部長 熱田神宮権宣 松井清
 - 庶務部長 熱田神宮権宣 高橋半次郎
 - 庶務部長 熱田神宮権宣 殿島修二
 - 庶務部長 熱田神宮権宣 鬼頭喜太郎
 - 庶務部長 熱田神宮権宣 井上松次郎
 - 庶務部長 熱田神宮権宣 西村欽也
 - 庶務部長 熱田神宮権宣 内藤泰二
 - 庶務部長 熱田神宮権宣 梅田邦久
 - 庶務部長 熱田神宮権宣 福井啓次郎
 - 庶務部長 熱田神宮権宣 藤田六郎兵衛
 - 庶務部長 熱田神宮権宣 寛 敏一

新年御挨拶

- 邦謡会 梅田邦久
- 須部一甫
- 清沢美和
- 今沢美和
- 本田 融
- 名古屋市昭和区山里町一〇三 電話(〇三三)八三二一三二一八五
- 西宮市甲陽園目神山町一〇一七八 電話(〇七九八)二四二五八
- 初陽会 武田宗和
- 壺泉会 泉嘉夫
- 名古屋市昭和区山里町一〇三 電話(〇三三)八三二一三二一八五
- 西宮市甲陽園目神山町一〇一七八 電話(〇七九八)二四二五八
- 下田雄三 大坂市東区高麗橋五三三 雄嶺会中部地区連合会
- 名古屋和石会
- 一宮花会
- 岐原雄会
- 下原雄会
- 萩原雄会
- 高山雄会
- 倭山之屋社中
- 松音会 泉泰孝
- 泉雅一郎
- 東京都杉並区宮前四一九一四 電話(〇三三)三三三二八二八〇番
- 大垣浦声会 大垣市竹島町善念寺 住所 京都市左京区下鴨芝本町五八
- 浦田保利
- 名古屋修諷会 上田観正会能楽堂 社団法人観正会 上田観正会
- 上田拓貴 弘
- 久田観正会 大倉流小鼓 松月会 松野会 松野会 松野会 松野会 松野会
- 千代 名古屋市中区東水切町四ノ四三 電話(〇三三)九八一一三六四三番
- 梅若修一
- 芳園会 稻生芳雄 半田市船入町三十一 電話(〇五九九)〇八一五
- 猶惠会 熊沢恵美子 名古屋市中区平和ケ丘3-176 日車マンション四〇四
- 幸福会 近藤幸江 岡崎市鴨田本町十一番地ノ三 電話(〇五六四)二五二九
- 賀水会 加賀敏彦 千代 名古屋市中区森下二丁目七〇九 電話(〇三三)七七一一八九四五番
- 緑名会 田中武 尾張旭市城山町三ツ池六一九八 電話(〇五六一)五〇三三〇四番
- 水雲会 水藤元三 松和会 中村和男 各務原市那加桜町2丁目15番地 電話(〇五八三)二七九四番
- 洗心会 奥村富久子 千代 京都市左京区永観堂西町二〇 電話(〇七五)七七一〇七六七番
- 大西智久 千代 豊中市北桜塚2-10-3
- 春鶯会 梅若善高 千代 豊中市新千里南町三丁目18-12 電話(〇六)八三二一七八五四
- 千代 東京都足立区綾瀬二丁目18-2 電話(〇三三)六〇四一七四〇九
- 名古屋橋岡会 名古屋市中区九屋町五ノ三五 山田紀子方

[1月] 22日 (1) 29日 (1) [2月] 5日 (1) 12日 (1) 19日 (1) 26日 (1) ○NHK 2月11日

観能 心理劇の面白さ 壺泉会の「隅田川」

これは一種の心理劇です。突然どういってもおわかりになりませんが、十二月十一日熱田で行われた壺泉会の「隅田川」の事です。演者は泉澤大です。彼は毎年十二月にリサイタルを開き、その都度新機軸を出して、話題をよぶ人気楽師の一人です。今度の「隅田川」は黒塗空に笹を手にしたおさだまの狂女姿で、サン、カケリ、イロエ(小書「彩色」)華平の歌への感傷から、フト気づいて「あの白い鳥は」と問いかける間、成功から都鳥船中、幕前まで、一貫して憂いに沈んだシテでしたが、その場の場の違った愛の色の合い(ニニアン、心のかけり)をこまかく目立たぬように、しかもハッキリと演じわけて見事でした。私が心理劇というゆえんです。つまり型を一人歩きせず抑制がきいてるので

す。たとえば、都鳥の段の終り乗せさせた「渡し守」のところが、調子にのりすぎて「乗せよう」といふばかりに狂ったように突きつける人もありますが、泉は「乗せよう」といふ言葉の裏に、悲しみが透けて見えます。愛を言えば「早くも来るものかな」は今ひとつ深い思い入れ(旅愁)がはしかつた。

ところで、いつも問題になるのが子方を出すか出さないか、です。これはともどもどちでもよいこと、演者の解釈次第です。近來はどちらかという出すが多いようですし、又その方が無難なようにも思います。心理劇的演出の泉は当然出さずが、母に「あれは我が子が、母にでましますか」と互に手に手を取り交せば、「」のあたりでは、やきこちなく、不消化の印象が残りました。

た、むつかしいところで、すね、かしこは後のすばらしい終曲を前に、目をつぶるよりほかにないでしょう。

最終場面、幕の前に立ちつくす母が、花々とした草をいとおしげに育てるところ、「残りも少しあるべきは空しくして」に始まる有名な名文中の名句「人間うれるの花盛り」そのままに、指の間にからうれいの花が匂いであるように、その不思議な明るさ、はなやかに、美しく、しかも、冷や冷やとしたリアルな感が橋掛り消えてゆくシテの後姿にまで残り、陶然とした日本酒のよいこちをさます。知性の風、とでもいいますか。西歌の悲劇にも似た牙えたドリオドの打ちかた。これこそ泉ならではの醍醐味といえましょう。こまめて私にはやっぱのこまかい技巧、工夫の一切が、この終末を染えあらしめるための準備行動であったのかと、思知らされたような気がしました。これは又一種の救済劇ですね。(M)

霜月の舞台から 名古屋和泉会別会

竹尾邦太郎

「唐人子宝」和泉流現行曲二五四番完演を目指す宗家元秀が取り上げた稀曲中の稀曲で、年齢習い(還暦過ぎてからの恋)六番の内の一である。能「唐船」のもじりである。能「唐船」のもじりである。以下梗概と大方の装束も付記して参考に供する。

シテ唐人(元秀)を、唐から親を求めて渡来した唐子(淳子・祥子)の事を仄聞し、太郎冠者(祐一)と日本子(今若(元弥))を引き具して出ると、櫻々樹園を懸断するが、拒絶されると悲嘆のうちに自殺を試み、唐子二人も刺し退ると言う。しかし、太郎冠者の執り成して無事帰園を許されると唐からの貨物を贈り、悦びの舞を舞って帰る。

シテ唐人は唐頭巾・白大髷・小格子厚板・丸紋下袴に撞目杖を

つく。アド園守は洞烏帽子・大髷・白鉢巻・素袍袴・小サ刀。唐子二人は緑取りがそれぞれ金と赤の色の唐頭巾にそれぞれ紺と緑の唐笠を着て、笛(六郎兵衛)の地詰襦袢袖、下衣はもんべ状のもの。背に唐剣を担ぐ。太郎冠者・次郎冠者(靖海)・日本子は太郎冠者出立(いでたち)。宗家一家と井上家三代の競演である。さて、全般には曲自体が充分にこなれていない印象を受けた。それは、「九州の何某」と名乗る貫録づけだけで次郎冠者を登場させたあたり、唐子・日本子の母親に言及することがないのが筋立てを少々強引にしているからだと思う(因に、魔流の流流台本では登場人物はシテ・主・太郎冠者・唐子の四人。物語りも主が太郎冠者にシテの無奉公を詰問するところから話が始まり、主とシテとの直々の対話から更に唐子の、母と

志堅固とみて剃髪も済み、すったもんだの末に僧名も付いて衣一重を着てきて、という段になって血相変えて飛び出すわい、妻君(弘之)・あつさり責任転嫁して憚らない礼之助の、無骨朴訥な印象とは裏腹の無節操ぶり、忿懣やる方のない松次郎がよと見せたそれみたことか、といった相好が光った。(25分)

「奈須与市(藤)」元秀の次女祥子、十世藤九郎名跡継承を記念する披露である。稽古を充分に積んだ自信に溢れ、臆するところ無く写すもかくやと思われ清々しい若武者ぶりだった。後見は姉淳子。(14分)

「風狸」狸を獲って臨時収入を得ようとする太郎冠者(シテ淳子)と、恐ろしく給金の安さや気に掛けているのである主(アド祥子)との理をめぐるエピソード。姉妹の可憐さがたぶん反映し、シテが小ぶりに縫いぐるみの狸を腰にぶら下げ、それがちよろりとし、アドが勧めの酒の飲みっぷりは型だけで、たべ覚える程の美(じつ)は無い。本来が男の芸能である狂言に、女として伍してゆこうとするその健気(けなげ)さは大いに買いが、当分は珍らしさが付きまともかも知れない。それを突き抜けたところに道は拓けるだろうが、苦しい道であることに変わりはないだろう。姉妹共演の場合はまだしも、例えば相手は異性で且つ美男型(びなんかつら)・女装の扮装)の場合はどうなるのか。間狂言の場合はどうかか(宋社ノ神のように面を掛ける曲はともかく、この辺りの者はこの辺りの女に変化してゆくのだろうか)。この道の深奥を思うとき、健闘を祈るや切(せつ)。(28分)

「弓矢太郎」シテ元弥。大法螺吹きの臆病者。こけ威しの弓矢たばさむ勇姿を茶化された華句の肝試しは、天神講の連歌の寄り合いの日に天神の森へ鬼を見届けに行くこと。その暗合も面白い。毒を以て毒を制するならば、鬼を以て鬼を制するの理屈。鬼に扮したシテに、鬼に扮して驚かさそうとしたアド元秀が逆逆驚き、更には立衆全員が驚される皮肉(④面)。

同	小鼓方	幸清流	福井啓次郎
同	笛方	藤田流	藤田六郎兵衛
同	大鼓方	大倉流	寛 鋏一

小嶋方 電話七五一二八八〇番
誠交会 奥 善 助
東京都世田谷区三軒茶屋二一〇一三三
電話(〇三)四三三二二六三三七番

松月会 久田舜一郎
都 前 野 郁 子
松 会 山 幸 親
千 名古屋市北区東水切町四ノ四三
電話(〇三)九八一三三六四三番

千 名古屋市守山区藤孝二丁目七〇九
電話(〇三)七七二八八四九五番

中日文化センター
謡曲・仕舞教室 名古屋(栄)
岐阜・四日市

翠 謡 会
生 駒 里 翠
名古屋市名東区社方丘3ノ15003
電話(〇五二)七〇三三三三七七番

重陽会 菊 池 重 郷
大山市大山宇相生五九一六
電話(〇五六八)〇四四一〇一

観修会 祖 父 江 修 一
多治見市日ノ出町2丁目
電話(〇五七二)〇三三六五六

清風会 今 村 嘉 勇
岩倉市東新町下境52-1
電話(〇五七)〇七三三八

宝 生 英 雄
宝 生 英 照

名古屋巽会
辰 巳 孝

内 藤 泰 二

佐 野 由 於

正 風 会
衣 斐 正 宜
千 名古屋市昭和区御器所3ノ13119
御器所パークマンション802号
電話(〇五二)五八六一二二〇番

衣斐正直後援会
千 名古屋市中村区名駅三三二六二六
電話(〇五二)五八六一二二〇番

倉 本 雅
千 名古屋市東区中町一ノ13126
電話(〇七八)四四二五四六五番

宝 生 流 嘉 宝 会
千 名古屋市昭和区川名本町二ノ五
電話(〇五七)〇七三三八

吉 田 俊 彦

竹 腰 勝 一

司 宝 会
千 名古屋市天白区島田二丁目三〇一
島田橋住宅三三〇電話(〇三)七三七二

金 剛 永 謹

廣 田 後 援 会
廣 田 陸 一

廣 田 幸 稔

豊 嶋 能 会
豊 嶋 三 千 春

菊 扇 会
後 援 会
廣 田 泰 三 能

金剛流 景 雲 会
国際能楽研究会(I・N・I)
千 名古屋市守山区藤孝二丁目七〇九
電話(〇三)七七二八八四九五番

新居能面の会
宇高通成後援会
千 名古屋市左京区高野泉町四〇
TEL(〇五)七〇一〇七九三
名古屋事務所 前田英安 方
TEL(〇三)八五一三三三四

宇 高 通 成

金剛流
松 野 恭 憲
松 野 洋 樹

千 名古屋市右京区鴨島泉町一八三
TEL(〇三)四六二二二四八番

金剛流
周 星 会・名 古 屋 周 星 会・岐 阜
吉 川 周 子

金 春 信 高
金 春 安 明

千 167 東京都杉並区南荻窪3ノ17-16
電話(〇三)三三二二二五七番

金 春 欣 三

本 田 光 洋

東 京 都 中 野 区 上 高 田 二 丁 目 二 五 七 二
電 話 〇 三 三 三 八 六 二 六 四 番

東 京 都 杉 並 区 成 田 東 四 丁 目 35-20
電 話 〇 三 三 一 五 七 三 八 二 番

東 京 都 杉 並 区 南 荻 窪 3-17-16
電 話 〇 三 三 三 二 二 五 七 番

③面和泉金別会つづき
 を元弥は悪戯心一杯に大人共
 を追い散らして溜飲を下げて
 いた。成長期の元弥、一年毎
 に遅く頼もしくなってきた
 が、和泉流他家との積極的な
 交流も望みたい。(42分・11
 月27日)
 付記 十二月号の「宝生
 会」の能評について辰巳孝氏
 より私信を頂戴し、「三輪は
 白色の曲見(作大和)で、黒
 塚はムードとして黒色がかつ
 た梨子地の深井を用いまし
 てありました。」
 演能のこと。すでに「なご
 や文化情報」(六三・十二
 年)に、名古屋の文化展
 望と結び付けて小篇を寄せま
 したので、それに触れること
 もありますが以下に、昨年東
 西からの来演では、泉清(元
 正、昨年十二月家の名「左近」
 を名のる。幸あれ。なお括弧
 内の氏名は姓を省く)。二人
 静(元昭・清和)。大社(元
 昭)。遊行(元昭)。雲林
 (信高)。氷室(鬼実入てる
 ちか)。清経(光洋、父上
 本田秀男退善)。碓(半能。
 安明。鬼頭八郎退善)に葛城
 (鎮之丞)。山姥(九郎右衛
 門)など秀逸。それに一調山
 姥(語英雄・太鼓元信)。舞
 囃子(シテ鎮之丞・太鼓
 助川竜夫八披キ)。も忘れて
 はなるまい。狂言は、呼声
 (圭五郎・弥太郎)。金藤左
 衛門(千五郎)に宗論(万之
 丞・万作)がよかった。元秀
 氏は昨秋も稀曲に挑みました。
 唐人子宝は能唐劇と同巧異
 曲。みられなかつた能三・四
 番のことはお許しを。
 名古屋勢は能では梅田・久
 田・長田三氏の活躍が目立つ
 葵上の古い演出(泉嘉夫、
 同氏の四田川はみず)や三山
 の復曲(栄夫・鎮之丞の二回
 観世流)も注目を引きました。
 狂言では名古屋和泉会は東京
 より来演・主宰の元秀氏とそ
 の三人の子たちが中心に、昨
 年は現三宅藤九郎名跡継承記
 (念)。やまのまい会・野村又三
 郎氏は後継者信行君との舞台
 がようやく一番で通用するよ
 うになつてきました。共に数
 年後が楽しみです。狂言
 共同社は長らく在京の井上祐
 一氏(松次郎氏長男、現在京

た)、との御教示を頂いた。
 不明を恥じ、拙評の当該部分
 を謹んで訂正させて頂く。な
 お、同号「井筒」シテ惠美子
 の所要時間(1時間43分)が
 抜けました。
 名動勢)が婦名。その組み合
 せが名古屋の狂言を豊かにし
 ます。昨年の二千石がそれ
 す。なお味わいこそちがえ、
 春二回の無布施経(松次郎
 ▲風格高しV。又三郎八とま
 かく分りやすいV)が佳演で
 あつたことを添えます。
 次に、名古屋城内の連夜の
 催しは盛会でありました由。
 二・三の区(教育センター)
 の能楽講座も、文化センター
 の方はどうだったでしょうか。
 演能に先き立つ演者(シテ)
 の解説が昨年も行われ、演能
 に役立っているようです。他
 方徳川美術館所蔵の能面・装
 束が秋に開かれ(三越)名
 古屋の中心街に愛好者を集め
 ました。目玉のあの唐織、紅
 地で柳にけりあがりVの模様
 は目を奪います。かつて喜之
 氏(先代)にお話しましたと
 ころ、花筐に使えてほしいよ
 うとのことでした。もちろん後
 シテだと思えます。水衣の下
 に、また秋には能と平曲の会
 もありました。平曲が伝わる
 名古屋では他地方よりも容易
 にできる催しです。
 名古屋能楽史に好資料が生
 れました。内藤泰二氏著わす
 「眼・名古屋から」の好著で
 す。眼と言うのはなかなか意
 味が深く、世阿弥もこれを伝
 書の要所に用いています(同
 氏の名・芸術特賞受賞記念出
 版)。学生能は昨年三三回を
 迎え、青春を能と狂言で試
 (た)めし楽しむ。
 能の周辺を一つ。名古屋を
 どりのやきもち地蔵。狂言川
 上を素材に民話風。これだけ
 みれば佳品の部に入らうが、
 川上の方が味わいが深い。古
 典の壁は固いのでしょうか。
 長文になる新運動、東海三県
 については別記します。
 (野村広二)

信玄袋
 一六三年回顧
 新しい年を迎えて、名古屋
 の能界、東海三県の催しがい
 よいよ充実するようお祈りし
 ます。
 まず始めに能の古語を。
 「生死去来(しょうじくら
 い)／棚頭傀儡(ほうとうの
 かいらい)／一線断時(いつ
 せんたゆるとき)／落々落々
 (らくらくらくらく)」。こ
 れは生死に輪廻する人間の有
 様をたとへたり。「傀儡
 真に動く物にあらず、操りた
 る糸の態(わざ)なり」。申
 楽も、種々の物まねは作りた
 る物なり。「これを待つ物は
 心なり」「かえすがえす心を
 糸にして」「万態を結(つな
 ぐ)べし。如此(かく)のごとく
 ならば、能の命あるべし。こ
 れは世阿弥のことは(花鏡・
 万能箱一心事の抜粋)で、私
 の座右の銘です。
 今年は己の歳。「きこのこ
 え／おのれつちのと／下につ
 き(己)／いすでに上(己)」。
 しみはみなつく(己)」。こ
 の三十一文字は「己・己・
 己」の三字の読み方の八通り
 を短歌に詠みこんだものです。
 中学(旧制・明倫)一年のと
 き因習の先生、実は伊藤左
 中先生から教わり、今も重宝
 しています。そして今年の干
 支は己巳。
 六三年の回顧。
 今は能の古典のむつかしさと
 現代文明(文化)のきらびや
 かな多様性が入り組み、伝統
 の中でうまく生きることを一
 段とむつかしくしています。
 そういう中で多彩な名古屋の
 幾つかに目を注ごう。まず
 ▲熱田Vの演能。劇場能。野
 外能。新運動(企畫)。能の
 周辺。それに東海三県の色々
 の催し。五つにわかれて活発

正風会二十周年記念大会
 一月二十一日(土)午前十時始
 熱田神宮能楽殿
 番組(二日)

新任
 山月池田
 宇崎千尋 芳樹 長谷川正嗣
 新美忠夫 絹ヶせ 榎原 芳房
 足立尚子 松 風 竹内 千智

大倉正之助
 前川光隆
 前川光長

能と狂言に親しむ会
 能楽講座
 飯島佐之六

新年御挨拶
 春敲会
 金春晃実
 廣瀬瑞弘
 〒467 名古屋市瑞穂区東栄町三二二四
 電話(〇五二)一八四一四七四五

伊勢金春会
 中村富次
 伊勢市宮町一四一七
 電話(〇五九)二四五六番

大阪喜多会
 和島富太郎
 〒665 宝塚市宝塚一丁目12-1
 電話(〇七九)七〇八六三〇

喜多六平太
 喜多流十六世宗家
 社団法人能楽協会理事長
 喜多六平太

名古屋金春会
 林鉄郎
 近藤修彦
 渡部道三

長田駿後援会
 長田駿
 〒514-22 津市高野尾町三三五一四六
 電話(〇五九)〇六九七番

高安会
 西村欽也
 飯富雅久
 杉江元

京都・高安流
 岡次郎右衛門
 向日市上植野町地田一ノ五四
 電話(〇三三)九三四一四〇六

谷田宗二朗
 〒603 京都市北区衣笠街道野町31-7
 電話(〇三三)三三三三(三三三)三三三

幸友会
 福井啓次郎
 福井良久
 福井良治
 柳原富司忠
 桂後藤孝一郎

森好会
 森常好
 〒151 東京都渋谷区代々木四一三八-12
 電話(〇三三)3701-4609

宝生欣哉
 〒106 東京都練馬区小竹町一五〇-五
 電話(〇三三)九九七二(七三三)七三三〇
 〇三(九五五)四七九五

九州高安流同人会
 飯富良人
 飯富徹
 大山要二郎
 山崎俊輔
 横田富生

福王茂十郎
 〒662 西宮市名次町六番十二号
 電話(〇七九)八〇七七二

高安流岡同門会
 清水利宣
 高坂康弘
 森晴蔵
 北野三郎
 塩田耕三
 中川山弘
 伊藤久湖
 清水雅信

藤田六郎兵衛
 名古屋市中区堀下二丁目一〇番九号
 電話(〇五二)五七一五七六三

幸圓次郎
 〒164 東京都中野区中央四一四七一
 電話(三三八)九九四一三番

柳原富司忠
 〒466 名古屋市昭和区山里町七四
 八事パーク・マンション五二一五
 電話(八三三)一〇三二番
 名古屋市中区栄 朝日神社内
 (丸善前)

龍吟会
 藤田六郎兵衛

富耀会
 柳原富司忠
 小鼓教室
 名古屋市中区栄 朝日神社内
 (丸善前)

飯島佐之六
 〒920 金沢市香林坊2-18-18

幸友会
 福井啓次郎
 福井良久
 福井良治
 柳原富司忠
 桂後藤孝一郎

野中正和
 〒174 東京都板橋区宮本町五七一
 電話(五五八)八四二七番

幸友会
 福井啓次郎
 福井良久
 福井良治
 柳原富司忠
 桂後藤孝一郎

森本重一
 〒116 東京都中野区丸山二二二四
 都立丸山アパート二二二二〇号
 電話(三三七)五六七二番

飯島佐之六
 〒920 金沢市香林坊2-18-18

柳原富司忠職分二十周年記念能

一月二十九日(日) 正午始
熱田神宮能楽殿

能 柳原富司 忠

舞子翁 片山九郎右衛門 福井啓次郎 藤田六郎兵衛

舞子高 八段之舞 砂 觀世 曉夫 幸 正 正 正 正

一調雲 林院 泉 嘉夫 福井 良久

舞子屋 島 梅田 邦久 野中 正和 森本 重一

一調放下 僧 觀世 觀之丞 飯富 雅也 飯富 雅也

能 卒都婆小町 西村 欽也 飯富 雅也

狂言 蝸 牛 野村 又三郎 井上 礼之助 幸 義太郎

一調笠之段 山本 博通 河村 信重 山本 順之 山本 勝一

半能石 橋 高安 勝久 河村 大 鬼頭喜太郎 鹿取 希世

後見 泉 中川 雅章 地謡 須部 幸親 小島 善一 英

武田 邦弘 地謡 高橋 和男 山本 邦久 梅田 邦久

柳原富司 忠 柳原富司 忠 柳原富司 忠

入場券 指定席一万円、自由席六千円、学生席三千円

★会員券申込先 熱田神宮能楽殿・出演券部

熱田四六 名古屋市中区和区山里町七四

八事パーク・マンション五二一五

柳原富司 忠 (052-831-0311)

名古屋宝生会定式能(第三十二期)

二月五日(日) 午後一時始

熱田神宮能楽殿

弓八幡 佐藤 耕司 飯富 雅也 河村 真之介 鹿取 希世

佐藤 耕司 飯富 雅也 河村 真之介 鹿取 希世

飯富 雅也 河村 真之介 鹿取 希世

河村 真之介 鹿取 希世

鹿取 希世

友社 18-18 8 4 3 9 3 0 0 0 0 0 0

友社 18-18 8 4 3 9 3 0 0 0 0 0 0

友社 18-18 8 4 3 9 3 0 0 0 0 0 0

友社 18-18 8 4 3 9 3 0 0 0 0 0 0

友社 18-18 8 4 3 9 3 0 0 0 0 0 0

友社 18-18 8 4 3 9 3 0 0 0 0 0 0

友社 18-18 8 4 3 9 3 0 0 0 0 0 0

友社 18-18 8 4 3 9 3 0 0 0 0 0 0

名古屋観世会定式能(初回)

二月十二日(日) 十一時始
熱田神宮能楽殿

能 柳原富司 忠

舞子翁 後見 玉井 博祐 地謡 加賀山 敬治 藤田 正代 寺部 一威 稲川 克孝

舞子高 北ヶ七 内藤 泰二 地謡 辰巳 満次郎 辰巳 満次郎 辰巳 満次郎

一調雲 稻川 寿一 鬼頭 嘉男 飯富 雅也 吉田 定男 森本 重一

舞子屋 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

一調放下 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

能 卒都婆小町 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

狂言 蝸 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

一調笠之段 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

半能石 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

後見 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

武田 邦弘 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

柳原富司 忠 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

入場券 指定席一万円、自由席六千円、学生席三千円

★会員券申込先 熱田神宮能楽殿・出演券部

熱田四六 名古屋市中区和区山里町七四

八事パーク・マンション五二一五

柳原富司 忠 (052-831-0311)

名古屋観世会定式能(初回)

二月十二日(日) 十一時始

熱田神宮能楽殿

素袍落 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

羽衣 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

和合之舞 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

雲林院 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

野守 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

名古屋観世九阜会定期能(初会)

二月十九日(日) 午前十一時始
熱田神宮能楽殿

能 柳原富司 忠

舞子翁 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

舞子高 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

一調雲 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

舞子屋 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

一調放下 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

能 卒都婆小町 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

狂言 蝸 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

一調笠之段 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

半能石 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

後見 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

武田 邦弘 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

柳原富司 忠 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

入場券 指定席一万円、自由席六千円、学生席三千円

★会員券申込先 熱田神宮能楽殿・出演券部

熱田四六 名古屋市中区和区山里町七四

八事パーク・マンション五二一五

柳原富司 忠 (052-831-0311)

名古屋観世九阜会定期能(初会)

二月十九日(日) 午前十一時始

熱田神宮能楽殿

二人静 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

通小町 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

磁石 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

雲林院 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

附祝言 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

名古屋梅猶会定期能

三月五日(日) 午前十一時始
熱田神宮能楽殿

能 柳原富司 忠

舞子翁 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

舞子高 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

一調雲 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

舞子屋 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

一調放下 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

能 卒都婆小町 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

狂言 蝸 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

一調笠之段 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

半能石 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

後見 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

武田 邦弘 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

柳原富司 忠 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

入場券 指定席一万円、自由席六千円、学生席三千円

★会員券申込先 熱田神宮能楽殿・出演券部

熱田四六 名古屋市中区和区山里町七四

八事パーク・マンション五二一五

柳原富司 忠 (052-831-0311)

名古屋梅猶会定期能

三月五日(日) 午前十一時始

熱田神宮能楽殿

二人静 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

遊法 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

野行 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

白姥 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

附祝言 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也 飯富 雅也

若い御二人の門出に
ふさわしい結婚式場
名古屋若宮八幡社
各種会合や宴会にも御利用下さい
(駐車場完備)
名古屋市中区栄3丁目35-30 電話(241)0810

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 0-36393
購読料 1年 700円
郵送の場合 1年 1200円
— 部 70円

演能カレンダー
(熱田神宮能楽殿)

月	日	演目	備考	
2月	19日(日)	名古屋親世九奉会定期能	(有料) (番組①面)	
	26日(日)	春 鼓 会 大 会	(来場歓迎) (番組①面)	
	5日(日)	梅 猶 会 定 期 能	(有料) (番組①面)	
3月	12日(日)	梅 猶 会 狂 言	(来場歓迎) (番組②面)	
	19日(日)	大 龍 吟 会	(来場歓迎) (番組②面)	
	21日(祝)	大 泉 吟 交 流 会	(関係者のみ)	
	26日(日)	大 泉 吟 交 流 会	(来場歓迎) (番組③面)	
	2日(日)	大 泉 吟 交 流 会	(来場歓迎)	
4月	8日(土)	大 泉 吟 交 流 会	(有料) (番組④面)	
	9日(日)	大 泉 吟 交 流 会	(来場歓迎)	
	15日(土)	大 泉 吟 交 流 会	(来場歓迎)	
	16日(日)	大 泉 吟 交 流 会	(有料) (番組④面)	
	22日(土)	大 泉 吟 交 流 会	(来場歓迎)	
	23日(日)	大 泉 吟 交 流 会	(来場歓迎)	
	29日(祭)	大 泉 吟 交 流 会	(来場歓迎)	
	30日(日)	大 泉 吟 交 流 会	(来場歓迎)	
	5月	3日(祝)	大 泉 吟 交 流 会	(来場歓迎)
		5日(祝)	大 泉 吟 交 流 会	(来場歓迎)
6日(土)		大 泉 吟 交 流 会	(有料)	
7日(日)		大 泉 吟 交 流 会	(有料)	
10日(水)		大 泉 吟 交 流 会	(来場歓迎)	
14日(日)		大 泉 吟 交 流 会	(来場歓迎)	
20日(土)		大 泉 吟 交 流 会	(有料)	
21日(日)		大 泉 吟 交 流 会	(有料)	
6月	4日(日)	大 泉 吟 交 流 会	(有料)	
	5日(日)	大 泉 吟 交 流 会	(来場歓迎)	
	11日(日)	大 泉 吟 交 流 会	(有料)	
	18日(日)	大 泉 吟 交 流 会	(有料)	
	25日(日)	大 泉 吟 交 流 会	(来場歓迎)	

(演能変更の際はご了承下さい)

大阪府、大阪市および府教委、市教委主催の六十三年度「大阪文化祭賞」は、能・狂言部門で、観世流シテ方大槻文蔵氏、同・梅若万紀氏が本賞を受賞した。

大阪文化祭賞は、十月一日から十一月三十日まで大阪文化祭に参加した能・狂言、文楽、演劇、洋楽の各部門で百四十一件の参加から本賞十一件、奨励賞九件が選ばれている。

なお授賞式は去る一月十二日、大阪東区の大坂キヤッスルホテルで行われた。

〔授賞理由〕
大槻文蔵氏、申楽大和座スペンサル公演能における「融」の演技、梅若万紀氏、第四十二回梅若万紀夫能の大坂公演における「松風」の演技。

大槻文蔵氏 梅若万紀氏 受賞

大阪文化祭賞 能・狂言部門

中日名匠鑑賞能

能「隅田川」「通小町」「融」
3月18日愛知文化講堂

中日新聞社主催、文化庁後援の重要無形文化財「中日名匠鑑賞能」は、三月十八日(土)名古屋・栄の愛知文化講堂で催される。

中日五流能の伝統をひきついで演目には小替つきで、観世流能三番狂言「通小町」雨夜之伝(観世元昭)
能「通小町」雨夜之伝(観世元昭)
狂言「黄鵠」(茂山正義、茂山千五郎)
能「隅田川」彩色(観世左近)
能「融」思立之出・酌之舞(片山九郎右衛門)

午後一時開演、前売り券は中日サービスセンター、百貨店ブレイガイド、能楽師宅、中日新聞販売店など。(番組④面掲載)

愛知県・名古屋市へ
48万9千円
歳末助け合い協賛能
義捐金寄贈

能楽協会名古屋支部(内藤泰二支部長)主催の歳末助け合い運動協賛能は十二月四日、熱田神宮能楽殿で行われたが、この催能による義捐金として、名古屋支部では愛知県、名古屋市にそれぞれ二十四万四千六百円ずつ合計四十八万九千二百円を寄贈した。

なお愛知県知事、名古屋市長から感謝状が名古屋支部に贈られている。

4月8日に 岐阜・鶴舞能

能「嵐山」上演

岐阜護国神社大祭奉納能「鶴舞(うかがり)能」は、四月八日、(土)岐阜長良川畔の護国神社境内で催される。

能「嵐山」(シテ関谷兼、ツレ北洞節子、村中恵美子、ワキ西村欽也)、舞囃子「高砂」はか連調、独調、仕舞など。午後四時開演。

春 能 鼓

二月二十六日(日)午前十一時始
熱田神宮能楽殿

舞囃子	素齋	連吟	舞囃子	舞囃子	舞囃子	舞囃子	舞囃子	舞囃子	舞囃子
班	法	忠	松	山	山	山	山	山	山
貴	師	度	風	姥	姥	姥	姥	姥	姥
女	師	度	山	山	山	山	山	山	山
村	師	度	山	山	山	山	山	山	山
野	師	度	山	山	山	山	山	山	山
幸	師	度	山	山	山	山	山	山	山
三	師	度	山	山	山	山	山	山	山
三	師	度	山	山	山	山	山	山	山
三	師	度	山	山	山	山	山	山	山

名古屋梅猶会定期能

三月五日(日)午前十一時始
熱田神宮能楽殿

舞囃子	素齋	連吟	舞囃子	舞囃子	舞囃子	舞囃子	舞囃子	舞囃子	舞囃子
班	法	忠	松	山	山	山	山	山	山
貴	師	度	風	姥	姥	姥	姥	姥	姥
女	師	度	山	山	山	山	山	山	山
村	師	度	山	山	山	山	山	山	山
野	師	度	山	山	山	山	山	山	山
幸	師	度	山	山	山	山	山	山	山
三	師	度	山	山	山	山	山	山	山
三	師	度	山	山	山	山	山	山	山
三	師	度	山	山	山	山	山	山	山

弓 八幡 衣斐 正宜 佐藤 耕司
高安 杉江 飯富 雅介
河村 真之介
柳原 富司忠
鹿取 龍夫
希世

野 雲 屋 仕
守 林 島 舞
院 院 関 舞
ク ケ 根 舞
七 九 根 舞
杉 山 九 根 舞
浦 元 三 郎 地 謡
元 三 郎 杉 浦 元 三 郎
徳 芳 宏 徳 芳 宏 徳 芳 宏

〔要員券〕
(当日券 四千円)
名古屋南区元塩町一丁目一七(加藤保彦方)
TEL052(六二二)三六五九
主催事務所名古屋親世九奉会

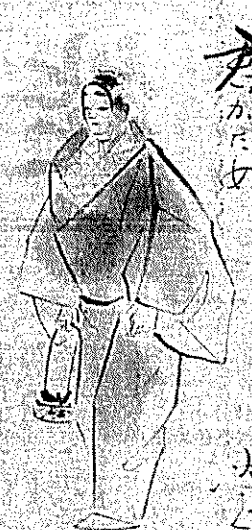
喪中のた
河 河
村 村
真 之
介 大

春の雅日記

もの芽

えと文 二井栄逸

俳句特有の季節に、もの芽、言葉が好きなのでよく使う。という言い方がある。私は、このもの芽、というのは、春に萌



君かたの
春の芽
若菜の芽、若葉を摘むことを
若菜摘みといひ、茶人や花人は早
春の野に出でて、せり、なづな、
ごきよら、はこべ、ほとけのざ、
すずな、すずしろ、と七草をさが
しもとめて摘草をする。
摘みとつた若菜は、陰暦正月七
日(八日の日)粥に入れて食べる。
これを七草粥といふ。

え出る色々な芽の総称で、そこは
かたなく詩情がたどたどしく。
草のなかには、こがらしの吹き
すさみ冬枯れのなかに、いちばん
早く青い小さな芽を出すはこべ
や、雪割草の芽、又、樹にあつて
は、クラ、ミズキ等、どれを見て
も生命力にみちあふれている。
セリ科の多年草で、海辺に多いあ
した葉は、若葉を摘んでも、もう
翌日には芽を出すところから、明
日葉の名があるように春の息吹き
が強い。

早春、枝からまったく別ものみ
たいな感じの赤い芽を出すはたん
若菜色にえんじを交ぜたようなウ
ドの芽も素晴らしい。

日当りのよい山の辺の道のはと
りを通ると、ノイバラが、冬の内
から赤みをさした芽が見えそめて
いたりして楽しい。

七種の芽や、若葉を摘むことを
若菜摘みといひ、茶人や花人は早
春の野に出でて、せり、なづな、
ごきよら、はこべ、ほとけのざ、
すずな、すずしろ、と七草をさが
しもとめて摘草をする。
摘みとつた若菜は、陰暦正月七
日(八日の日)粥に入れて食べる。
これを七草粥といふ。

新しく萌え出た若草の間にまじ
って、春まで枯れずに残っている
去年の草のことを古葉又は古草と
いふ。

若草に向つては希望に満ちた新
しい親しみを待つのに対して、古
草に向つては、何となく去年のこ
とをなつかしみ、いたわるような
感情がわいてくる。
一節一節に自然に對するいつく
しみが秘め込まれていて讀んでい
ても楽しい。

(平成元・二・五)

梅若六郎家能面・能装束 特別展「能の華」

徳川美術館で 5月13日から

徳川美術館、朝日新聞主催によ
り、きたる五月十三日から六月十
日まで、梅若六郎家所蔵の能面
能装束など百三十点が徳川美術館
で、特別展「能の華」として公開
展示される。

出品内容は「能面」重要文化財
重要美術品を含む約六十点。
「能装束」桃山時代から江戸中
期を中心に約六十点。
「髪帯・腰帯・冠・冠」など約
三十点。

この特別展「能の華」は、丹波
篠栗の旧家・シテ方親世流梅若六
郎家第五十六世宗家が名跡六郎を

1989年2月・3月 放送予定

〔2月〕NHK・FM能楽鑑賞 (午前8時~9時)

19日(日) 観世流「船橋」関根 祥六
26日(日) 喜多流「百萬」喜多 節世

〔3月〕NHK・FM能楽鑑賞 (午前8時~9時)

5日(日) 観世流「芦刈」梅若 六郎
12日(日) 宝生流「高野物狂」武田 喜永
19日(日) 放送休止
26日(日) 金剛流「墨染桜」豊嶋 訓三

◎NHK・教育テレビ (午前9時~10時)

祝日能 3月21日(祝)

《名演ふたたび》

宝生流「鉢木」近藤 乾三
観世流「恋重荷」観世 雅雪
および「能楽界の話題」

第19回 大蔵狂言会なごや会

三月十二日(日)午後一時十五分始

熱田神宮能楽殿

蚊相撲	小舞景	痺痢	雁磔	船渡	土筆	栗焼	法師ケ母	附祝言	龍吟会
出口茂雄	清 善竹十郎	池上麻衣子	森 貴寛	立川 一枝	村松 泰子	松川 佳澄	丹羽 節	主催 大蔵狂言会	三月十九日(日)午前十時開演
牛本 道子	中村 つや	池上紗緒梨	高倉 昌子	増本 寿代	大蔵 基嗣	牛田 敬明	善竹 幸五郎	事務所 名古屋西區白菊町3-33	熱田神宮能楽殿
牛本 敬明	河村 弘祐		河村 清太郎	河村 文字	計盛 昌行子	大蔵 基英	善竹 弥太郎	丹羽 節方	

壺泉会大会

三月二十六日(日)午前十時始

熱田神宮能楽殿

中之舞	融五段	運管盤	高砂	船弁慶	神楽	安宅	葛城	一調蟬	盛久	早舞	天鼓	郡乱	狸々	西王母	采女	天鼓	養老	杜若	鶯
石黒 寛子	中村 幸男	吉田 琴子	中村 幸男	河村 真之介	河村 真之介	河村 真之介	河村 真之介	河村 真之介	河村 真之介	河村 真之介	河村 真之介	河村 真之介	河村 真之介	河村 真之介	河村 真之介	河村 真之介	河村 真之介	河村 真之介	河村 真之介
吉田 定男	吉田 定男	吉田 定男	吉田 定男	吉田 定男	吉田 定男	吉田 定男	吉田 定男	吉田 定男	吉田 定男	吉田 定男	吉田 定男	吉田 定男	吉田 定男	吉田 定男	吉田 定男	吉田 定男	吉田 定男	吉田 定男	吉田 定男

紅梅記

一年末年始

一月半は庭の紅・白の梅開く。

はなるまい。天下泰平・国土安穩、
王法と仏法と神道とに始まって、
病氣平癒、悪靈退散、和歌音楽の
話、五位尊のこと、恋の物語り、
平家物語八景扇巻、名刺紙上に

あらは言うことなし。右により按
ずるに西の金剛殿、東の観世鏡之
丞岡氏が現在実力第一番の双壁で
あろう。二月五日岡氏の定家(ワ

えしたい。キリエ・エレイン(主
傭み給)。

訂正、恒玄袋一月号、「今年

一 特別「能の華」は、丹波猿楽の旧家・シテ方親世流梅若六郎家第五十六世宗家が名跡六郎を

紅梅記

一年末年始

一月半ば庭の紅・白の梅開く。同月七日早朝天皇崩御。元号(年号)が昭和から平成へいよいよとなる。昭和は明暗のうち中学から七十代の今日までの私が歩んだ山谷平坦の道です。長く続く能楽邦楽愛好と運々として進まない文芸復興研究の思いに埋まる。この病気のとき剣舞へけんがいの童子が平癒祈願のため天皇の枕元に深夜あらわれたのではと想った。

はなるまい。天下泰平・国土安寧。王法と仏法と神道とに始まって、病氣平癒、悪霊退散、和歌音楽の語、五位尊のこと、恋の物語り、平家物語八瀬頂巻V、名剣献上に崇徳院のことなど喜びも悲しみも怒りも。史実と作りごと、分野も大きく、シテ・子方・ツレと扱いも広い。

一月二十九日。小鼓方幸清流・柳原富司忠氏雲歴二十周年記念能。この二十年の推移の中に柳原氏の二十一年の能界の中心を内心研・親世流夫貴賞の友枝喜久夫氏(喜)・老後の花見事、そのさまよし。左右から見る姿美し。カメラはこの曲では胸のあたりを中心に、草子洗ではみおろすように振り、オモテは大体みこたえがあったが照明には一考を。昨年の三日も草紙洗(宝)であった。二日と十六日は狂言。十六日は三宅藤九郎氏の八庵の梅V(再放送、昭五五初演。同氏は正月より藤九郎改メ七世庄市を名のる、幸あれ)。

あらは言ひことなし。右により按ずるに西の金剛殿、東の親世流之丞両氏が現在実力第一の双壁であらう。二月五日同氏の定家(ワキ・曉夫)をきく。前半特によし。付、この項は本紙親能独語の筆者M氏こと前田満穂氏が卒都婆を期待されながら一月三十一日急逝されましたので、まず同氏にお伝

昭和63年度名古屋市芸術賞受賞者
名古屋市教育委員会(清水武教育長)は、名古屋芸術賞選考委員会の答申にもとずき昭和六十三年度名古屋市芸術賞の受賞者として次の六氏を決定、発表した。

能を楽しむ会公演
宇高通成後援会の活動
シテ方金剛流・宇高通成後援会は、従来の演能のほかに「能を楽しむ会」やエンジイ能(能楽研究講座)を京都、名古屋、松山で行い、ことし六年目を迎えるが、中部地区関係として次の活動が予定されている。

重要無形文化財 中日名匠鑑賞能

三月十八日(土)午後一時開演

愛知文化講演堂
観世 清和
観世 元昭
観世 元昭
観世 元昭

能通小町

観世 清和
観世 元昭
観世 元昭
観世 元昭

狂言黄

観世 清和
観世 元昭
観世 元昭
観世 元昭

竹生島

観世 清和
観世 元昭
観世 元昭
観世 元昭

仕舞

観世 清和
観世 元昭
観世 元昭
観世 元昭

鞍馬天狗

観世 清和
観世 元昭
観世 元昭
観世 元昭

能隅田川

観世 清和
観世 元昭
観世 元昭
観世 元昭

祝日
19日 26日 3日 12日 19日 26日
祝日

御来場歓迎
主権龍吟会

壺泉会大会
三月二十六日(日)午前十時始
熱田神宮能楽殿

三宅庄市を襲名
昨年、米寿を機に三宅藤九郎の名跡を直孫和泉祥子(和泉流宗家)和泉元秀(二女)に継承させた九世三宅藤九郎氏は、ことし一月、三宅家七世庄市の名を襲居名として襲名した。

前田満穂氏逝去
本紙「親能独語」を寄稿
朝日カルチャーセンター顧問、前田満穂氏は一月三十一日午前十時五分、脳こうそくのため名古屋市昭和区の聖徳病院で逝去。享年八十一歳。

壺泉会大会
草子洗小町 長坂 和子
芭蕉 柴田うた子
玄 象 加藤 定子
遊小町 柳 橋本 泰子
菊 慈童 中沢 修
西行 桜 八神由季代
素恋 重荷 官部 悟 篠田 三郎

能融
思立之出
間
野村又三郎

能融
思立之出
間
野村又三郎

能融
思立之出
間
野村又三郎

特別席 前売九千円(当日一万円)
A席 前売八千円(当日九千円)
B席 前売六千五百円(当日七千五百円)
C席 前売四千円(当日五千円) 全指定席

能融
思立之出
間
野村又三郎

能融
思立之出
間
野村又三郎

友社 118-18 84 393 0000 70円

能催上演

はじめ「名古屋城夏まつり新能」 「セントラルパーク新能」の上演 県下では「犬山城新能」「津島新能」また岐阜では「鶴舞新能」さら に「長良川新能」の演能があるが

壺泉会大会 三月二十六日(日)午前十時始 熱田神宮能楽殿

萌謡会(第九回) 四月二日(日)午前十時半始 熱田神宮能楽殿

4月の演能案内

観世会定式能(三回)

四月九日(日)十二時半開演

熱田神宮能楽殿

弱法師

片山慶次郎 西村 欽也 後藤孝一郎 鹿取 希世

伯養

河村 和貴 梅若 六郎 井上松次郎

西行

善知鳥 山本 勝一 地謡 中村 和男

船弁慶

河村 和貴 梅若 六郎 江崎金治郎 福井啓次郎 鬼頭 好信

附祝言

主催名古屋観世会

青陽会定式能(第233期)

四月二十二日(土)正午始 熱田神宮能楽殿

俊成忠度

前野 郁子 地謡 瀬戸三津子

雲雀山

生駒 里翠 地謡 今沢 美和

玉木 孝男

吉田 定男 後藤孝一郎 竹市 学

村 杉江

元 後藤孝一郎 井上松次郎

後見 前野 郁子 地謡 瀬戸三津子 加藤 幸親 中川 雅章 加賀 敏二

頼政

梅田 邦久 地謡 今村 嘉男 高橋 啓一

春日龍神

高橋 啓一 地謡 今村 嘉男 喜男 弘政

川

飯富 雅介 河村真之介 藤田六郎兵衛

櫻

後見 生駒 里翠 地謡 前野 郁子 加賀 敏二

天鼓

飯富 雅介 鬼頭 英二 鬼頭 好信

附祝言

主催青陽会

陸月の舞台から

「青陽会」 竹尾 邦太郎

柳原富司忠職分20周年記念能

「青陽会」 竹尾 邦太郎

素謡「神歌」

シテ信至・ツレ 幸男・地頭邦久。新春勇頭に相応しい真摯懸命の舞台がいかにも荘重厳肅で清々しかった。(11分)

高砂・八段ノ舞

シテ徹二。小書で松立木が出る。真一一声の出は些か遅滞してもどかしかったが、以後立ち直り、居合せもどつしりと、就中、中入に両袖を掲げ、ハ沖の方へ出でにけり、と、満帆の勢いで橋懸に突き進む気魄にスケールの大きさを見せ、また追い風に吹き上げられるような送り笛(希世)の間歌が風の呼吸を表現して素晴らしい。アイ括一は士島帽子・括袴・掛褌、所ノ者に

はじめ「名古屋城夏まつり新能」

「セントラルパーク新能」の上演 県下では「犬山城新能」「津島新能」また岐阜では「鶴舞新能」さら に「長良川新能」の演能があるが

壺泉会大会

三月二十六日(日)午前十時始 熱田神宮能楽殿

萌謡会

四月二日(日)午前十時半始 熱田神宮能楽殿

能催上演

はじめ「名古屋城夏まつり新能」 「セントラルパーク新能」の上演 県下では「犬山城新能」「津島新能」また岐阜では「鶴舞新能」さら に「長良川新能」の演能があるが

友社

118-18 84 393 0000 70円

能催上演

はじめ「名古屋城夏まつり新能」 「セントラルパーク新能」の上演 県下では「犬山城新能」「津島新能」また岐阜では「鶴舞新能」さら に「長良川新能」の演能があるが

「野守」シテ一政。垣々とした前が仲々よい。例えば、へあるよと見えて、と、面を切らぬ推しはまさに朴訥な野の好意で飄々とした味わいがある。ただ杖の扱いは元氣過ぎる。後シテは唐笠・赤頭・小ベシ見。どことなくユーモラスな鬼で土の香りがするようだった。(1時間11分・1月14日・音助会)

「卒都婆小町」シテ鎮之丞。秋の黄昏時、流離(さすらい)人の深い疲労は、「余りに苦しう候程に」と笠を脱ぐと杖をつき、大鼓の前で杖を肩に当てる静かに下居した。高橋の有無は当然演出に開くが、鎮之丞は始終型少なく控え目で、精神のありようは内向的である。面は柔和な楚。襟白二・古びのついた露文白摺袴に無紅段縫腰巻、浅黄襦袢水衣。縫箔の八重桜と若松の文様が小町の色香を僅かに留める。所謂卒都婆問答は、シテに昂然としたところはなく、叱責と頭上になり過ぎすかに終始クモラセ、反論も独り咳くように思えた。しかし、最後の「台(うてな)になし」、最後語気鋭く、もういい加減にしなさい、の気持が強く表われ、握りしめた杖は小刻みに震えた。またロキ以下地との掛合には、今日大都市で見られるペーパーバッグ・レディ(幾つもの紙袋に身の廻り一切を詰め込み、盛り場や駅などを徘徊する女乞食。気位も高いという)を彷彿とさせて面白かった。地の、(面ばかりも)隠されば、でやうと立つと、(今は路頭にさそらひ、と杖を捨てて狂イ。物着は風折烏帽子に茶の長袴、ハ浄衣の袴かいてと、と拍子踏むとイロエになった。ハ狩衣の袖をうち被いて、とワキ正で左袖被くと扇で面を隠し、翁の型をして廻りながら袖を戻すと、ハ雨の夜も、と直シ、ハ軒の玉水とくとくと、と招き馴し、百夜通いの、ハ九十九夜になりたり、を左手遠く離して見詰めるのが遠い昔を思出す緑とならしたか、突然の胸苦しさにとらたがり、ガクガクといった態に下居した。キリに立つと、ハ黄金の膚濃やかに、と左手ツマミ扇で常座に行き、ハ握り、と握みながら右手に替え、ハ道に入ろうよ、と合掌すると更に返して扇を開き、ワキ正見ると一足詰り離子が留めた。キリの扇の開閉は何か象徴的に小町の悟道を暗示するようだった。ワキ欽也(若流傳)、離子は六郎兵衛・富司忠・正富、地は順之、暁夫の缺仙会を主力に邦久・邦弘ら、後見は九郎右衛門・善助。(1時間46分)

能楽大会のビデオ撮影は西川企画へ! 舞姿の勉強と記念に是非どうぞ! 当社のビデオ撮影はNHKのテレビ放送番組を20年間制作してきた 専門技術により、きつとご満足いただける自信があります。 西川企画

東山整形外科 外科・せいかい外科・皮膚、泌尿器科 TEL 781-7835 東山公園駅下車 オークランドビル2F

正しいメガネでしあわせを..... 日進堂メガネの日進堂 名古屋市西区那古野2-20-23(円頓寺本町) TEL (571) 6181-3

紅梅記

大葬と昭和回顧

と観世流四強

山茶花から梅、桃から椿へと重復しながら、季節の移り変わりは微妙。二月末庭でうぐいすが一雨鳴く。きれいに。

寒い心は春の能でなごむ。

X X X X

二月二四日昭和天皇大葬の日、八舞場版の儀をテレビでみる。謡歌(るい)か、和参(わごん)の一つで奏される。和参の低い音でつぶやくように流れるように歌われる。はつきり聞えない。新聞(中日・東京二四日夕刊)には、古事記、日本武尊が亡くなった時に妻が日本武尊の生まれ変わった白鳥を追ってさまよう様子を歌ったとある。古事記、撰行天皇、倭建命(岩波文庫)のくだりをおらためてひらく。「なづきの田の」「浅小竹入あさじの原」「海処らうみがけ行けば」「浜つ千鳥」しるして、以下「この四歌八うたは皆その御葬へみはふりVに歌いき、故八かれV、今に至るまでその歌は天皇の大御葬に歌うる云々」と続く。その死のあたり文学性高い。能のことは先月に。

X X X X

昭和から平成になり、昭和回顧特集の新聞・文芸誌にまじって、「昭和の文学」(四十の短篇、新潮社)が出、また文学界は「芥川賞特集」、オール読物Vは「直木賞特集」を出し、共に受賞作品(作者)を通じて昭和文学を回顧(どちらも文芸春秋、三冊とも三月号)。演劇では、第五回劇団結成四十周年を迎えて尾上梅幸氏が「平成歌舞伎を若手で、私たちが昭和は終った」(朝日、一・一十八演劇欄)と。音楽・演劇・映画の回顧が東京新聞の芸能欄(夕刊)に掲載中。文化(芸術)の記録も政治・経済・社会と一緒の年表でみる。文化年表そのものはどうであろう(注、かつて朝日新聞が昭和二〇から五五位までの文化中心の年表を一頁大で作る。貴重)。さて昭和能楽史(年表)はまだみなない。これも堂本正樹氏がその著「能・狂言の芸」(東京書籍)で

中目文化センターが企画
中日文化センターでは「能・狂言の鑑賞」講座を企画、四月から六月まで六回にわたり、第一線の評論家、能楽師によるセミナーで

鎌倉八建長七Vより昭和八五五Vまでの年表を末尾に付す。大切な資料、便宜。他の八年表V別記。

X X X X

観世会(初回)。二月十二日、昭和六年が平成元年の観世能となる。「翁」。翁観世左近、三番奥野村又三郎、千歳観世芳宏ほか。左近氏になって始めての名古屋舞台が翁。すがすがしく豊か。千歳みずみずし。後見片山九郎右衛門氏。若い雛子方起用が効を奏す。観世元昭・嵐山白頭。間狂言は猿、茂山千之丞は京都勢。シテ消く高く、強くはげし。後半の姿見事。猿おもしろし。これを猿ことばにうせば何と言おうのであろう。翁も嵐山も今年の観世暦一四月を飾る。元昭氏は六三年度の芸術選奨を受けられる。めでたし。

なお今日の能をみ終って、左近、元昭・嶺之丞・九郎右衛門四強時代の到来を喜ぶ。この到来を三十年代からじっと待ち望んだ。なおまた舞臺子羽衣の観世清和氏は六三十一月の同じく高砂の同族夫氏とともに真直ぐでふくよかな舞い振りがよい。色々のことを考えさせた観世能であった。

X X X X

本。難見。吉田哲哉「ただし」著。受贈。

吉田氏は在京都。金剛会会長、京都能楽養成会会長。傘寿を迎えられ同書を刊行する。金剛謙之輔・巖初代V氏に就かれ、昭和四九年鶴岡小町を舞う。能楽にわくわく佳面所持され、千家老分、清元のたしながみ深い。名古屋風に申せば「大通へだいふうの人」か。本の表紙と扉の次頁にある「難見」の二字は初代巖氏の御選。その書とその写しを載せらる。同氏執筆は「難見Vにはじまり終り頃八老女物Vの章をおく。全篇風格に富む。次に金剛巖氏(現)・観世元正氏(現左近)始め親しい方々の寄稿集あり。春風秋雨の清趣を語る。また千家室氏の序文冒頭を飾る。金剛流・京都能楽史の好資料です。私家版。昭六三・十二月刊。

おかしみの美し尾張の狂言装束。季刊銀花・第七七号。狂言の特賞。狂言共同社の歴史を簡単に

4月の演能案内

四月十五日(土) 午前九時始
熱田 神宮 能楽 殿

説明しながら、肩衣の絵柄(模様)のすばらしさを鑑賞する。第二部で狂言一代Vを井上松次郎氏、八狂言の世界Vを佐藤友彦氏が語る。全二三頁。松次郎氏曰く「それぞれ職業があつたりして、そうこそせ(注、あくせ)せんで生活できるもんでねえ、それ共同社で生活するのんびり年回を迎える。

付、五月七日井上家狂言追善会催さる。花子・井上祐一(松次郎長男、長らく在京)。(野村広二)

名古屋猶謡会春の大会

四月十五日(土) 午前九時始
熱田 神宮 能楽 殿

連吟小	菅	ツレ 酒井 和男
通小町	小川 孝	シテ 野村 正彦
杜	若	安藤 恭子
杜	若	服部 幸子
若	服部 幸子	中村喜代子
野	矢口 節男	小林 博政
野	矢口 節男	服部 武
若	服部 幸子	池内光之助
若	服部 幸子	梅若 盛彦

素羅 熊	野	安藤 恭子
野	矢口 節男	小林 博政
若	服部 幸子	中村喜代子
野	矢口 節男	池内光之助
若	服部 幸子	梅若 盛彦
野	矢口 節男	小林 博政
若	服部 幸子	中村喜代子
野	矢口 節男	池内光之助
若	服部 幸子	梅若 盛彦

舞臺子 高	砂 井上 種子	吉田 定男
歌	占クセ	野々垣芳子
歌	占クセ	野々垣芳子
歌	占クセ	野々垣芳子
歌	占クセ	野々垣芳子
歌	占クセ	野々垣芳子
歌	占クセ	野々垣芳子
歌	占クセ	野々垣芳子
歌	占クセ	野々垣芳子

春の邦謡会

四月十六日(日) 午前九時半始
熱田 神宮 能楽 殿

卒都婆小町	奥田 敏子	後藤 孝一郎	巖山六郎兵衛
若	菊池 敏子	吉田 定男	鬼頭喜太郎
若	菊池 敏子	吉田 定男	鬼頭喜太郎
若	菊池 敏子	吉田 定男	鬼頭喜太郎
若	菊池 敏子	吉田 定男	鬼頭喜太郎
若	菊池 敏子	吉田 定男	鬼頭喜太郎
若	菊池 敏子	吉田 定男	鬼頭喜太郎
若	菊池 敏子	吉田 定男	鬼頭喜太郎
若	菊池 敏子	吉田 定男	鬼頭喜太郎

独吟 玉	取	西矢 義雄
拾	木村 ひで	梅田 邦久
小袖曾我	成田 知弥	成田 英生
大向	飯冢 雅介	河村裕一郎
高安	勝久 元	藤田六郎兵衛
飯冢 雅介	勝久 元	藤田六郎兵衛
飯冢 雅介	勝久 元	藤田六郎兵衛
飯冢 雅介	勝久 元	藤田六郎兵衛
飯冢 雅介	勝久 元	藤田六郎兵衛
飯冢 雅介	勝久 元	藤田六郎兵衛

観世流・金剛流 宗家本流元 檜書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
電話 (291) 2488-9 振替東京3-3552
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入
電話 (231) 1990 振替京都1-113

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 0-36393
購読料 1年 700円
郵送の場合 1年 1200円
郵送の場合 部 70円

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

4月	22日(土)	青陽会定式能	(有料)
	23日(日)	久幸友親正能	(来場歓迎) (番組①面)
	29日(祭)	賀水会・三交能	(来場歓迎) (番組①面)
5月	3日(祝)	芳興会大能	(来場歓迎) (番組②面)
	5日(祝)	梅若六郎追善狂言	(有料) (番組②面)
	6日(土)	井上家追善狂言	(有料) (番組③面)
	7日(日)	梅若六郎追善狂言	(有料) (番組③面)
	10日(水)	中観世九能	(来場歓迎) (番組③面)
	14日(日)	中観世九能	(有料) (番組③面)
	20日(土)	中観世九能	(有料) (番組③面)
	21日(日)	中観世九能	(有料) (番組③面)
	28日(日)	中観世九能	(有料) (番組④面)
6月	4日(日)	清熱観世能	(有料)
	5日(日)	清熱観世能	(有料)
	11日(日)	清熱観世能	(有料)
	18日(日)	清熱観世能	(有料)
	25日(日)	清熱観世能	(有料)
7月	2日(日)	名古屋観世九能	(有料)
	8日(土)	名古屋観世九能	(有料)
	9日(日)	名古屋観世九能	(有料)
	15日(土)	名古屋観世九能	(有料)
	16日(日)	名古屋観世九能	(有料)
	23日(日)	名古屋観世九能	(有料)
	30日(日)	名古屋観世九能	(有料)
8月	5日(土)	名古屋観世九能	(有料)
	26日(土)	名古屋観世九能	(有料)
	27日(日)	名古屋観世九能	(有料)

(演能変更の節はご了解下さい)

63年度芸術選奨 文部大臣賞 観世元昭氏受賞

文化庁では、昭和六十三年度の芸術選奨文部大臣賞、同新人賞を決定、能楽界から観世流シテ方・観世元昭氏(五二)が受賞、三月二十二日東京・上野の日本芸術院会館で授賞式が行われた。

大臣賞は十六人で、女優の有馬稲子さん(五九)も受賞。

芸術選奨文部大臣賞は、演劇、映画、文学、放送など芸術の各分野で昨年一年間に特に優れた業績をあげた人に贈られる賞で、観世元昭氏の授賞理由は次のとおり。

(授賞理由) 秋の閉門会(九月十日、観世能楽堂)の能「芭蕉」

人間国宝に 茂山千五郎氏

文化財保護審議会(斎藤正会長)は三月二十四日、重要無形文化財保持者(人間国宝)として七人を能楽界として大蔵流狂言方・茂山千五郎氏(八二)が認定されている。

本名茂山七五三(しげやま・しめ)六十九歳。幼少より祖父の十世父の十一世の薫陶を受け、四十年に十二世を襲名、以後第一線で活躍、円熟した境地をみせている。

熱田まつり奉納能

観世流能「鶴亀」
宝生流能「般若」
6月5日熱田能楽殿で

那古野神社で 奉納新能

5月28日 能「経正」上演
名古屋市中区の那古野神社ではきたる五月二十八日、観世九草会主催により「新能」が催される。

同神社での新能は昭和五十九年から行われ、今回は、四回目を午後七時から能「経正」(シテ観世喜之、ウキ西村欽也)。なお当日は午前十時から午後六時まで九草会・高橋一社中ほかによる舞囃子、仕舞、連時が奉納される。

久田観正会春の素謡会

四月二十三日(日)午前十時始
熱田神宮能楽殿

仕舞高	砂	山内ふき
羽	衣キリ	梅村展子
連吟	川クセ	平野裕子
富士太鼓	名市観正会	名市観正会
村	今川	猛
山	近藤とこ代	
野	服部喜美子	
川クセ	村松	綾
齋藤利子		
横井余史子	市野美代子	
安藤録郎		
神谷功		
水野島忠子	村松	綾
大脇寿美子		
田中雅子		
星野路子		
横井余史子		
嘉夫		
小田切敏子		
泉		
久田徹二		
今尾正治		
岩田実		
今川猛		
久米宏枝		

三交水会春の会

四月三十日(日)午前九時始
熱田神宮能楽殿

仕舞	綱キリ	竹井喜信
五之段	瀬戸	綾子
連吟	小袖	曾我
橋岡	慈観	
瀬戸	勝治	
安井	清治	
日比野	清栄	
川後	初男	
近藤	正登	
秋田	恵美子	
伊藤	好子	
小田	久子	
原田	恵子	
戸松	花枝	
加藤	恒子	
衣キリ	森田恵美子	
加藤	悦子	
小田	久子	
中村	立子	
天野和貴子		
水谷佳津子		
高橋	千恵子	
伊藤	悦子	
高橋	悦子	
伊藤	悦子	
中野	末子	
川島	利雄	
近藤	正登	
桜井	律子	
中田	明子	
吉田	悦子	
小池	恵子	
中田	恵子	

幸友会春の会

四月二十九日(祝)午前十時始
熱田神宮能楽殿

仕舞	山	小汐保
村キリ	早川	浄
加々見	正	
西沢	悦子	
岩田	実	
今川	猛	
久米	宏枝	
山	久米	宏枝
早川	浄	
加々見	正	
西沢	悦子	
岩田	実	
今川	猛	
久米	宏枝	

御来場歓迎

四月二十九日(祝)午前十時始
熱田神宮能楽殿

仕舞	山	小汐保
村キリ	早川	浄
加々見	正	
西沢	悦子	
岩田	実	
今川	猛	
久米	宏枝	
山	久米	宏枝
早川	浄	
加々見	正	
西沢	悦子	
岩田	実	
今川	猛	
久米	宏枝	

仕舞 綱キリ 竹井 喜信 綾子
五之段 瀬戸 綾子
連吟 小袖 曾我
安井 清治
日比野 清栄
朝岡 初男
後藤 正登
近藤 正登
瀬戸 勝治
大原 御幸
伊藤 悦子
仲野 末子
山野 幸子
水村 一枝
木野 綾子
大前 数枝
矢次 種子
瀬戸 綾子
鍋木 多美子

「巻網」シテ十喜雄。舞クセに外輪でツツと進む運歩は天衣無縫と言おうか大胆不敵と言おうか(かまら)も意識していないよ(28分)

番目録の中で、臨前という事を常に考えている。と述べられた。

「翁」の後、天女を女神に擬する心持だったのだろうか。(28分)

(住所変更)
下田雄三氏 新任所 吹田市千里山東四一三六一六(2565)
電話 〇六一三三五五二七五

志月雅日記

車あらそい

えと文 二井栄逸

月明のなかにゆれ動く樹々の影。何かはげしいものの叫び声。目をさますと夜明けの空に有明の月がゆれている。

交錯する深淵のような光芒。今、私は大作の制作にとりかかっているが、このような断片的な夢を見るのは、創作活動のせいかもしれない。

私には昔からそのような光景があった。

身は小車の進む方も無しと答えて立て置きたる。車の前後にはぼつと寄りて、人々がええに取附きつつ人だまの奥に、押し進められて物見車の力もなき身の程を思い知られたる……と、はげしい型とて私を私は今三十号に完成させようとしている。

能面のバックを厚手にぬるのはいくれない。奥深く、透明感がほしい。支笏湖の水底を思い出しながら、何度も薄く絵具もかけた。

葵上の曲では、すさまじいまでにねたみの姿を見せる六条御息所(ろくじょうみやまさと)であるが、野宮の曲になると、捨てら

れるさびしき、優れたものに辱しめられるつらさに、女性の苦しさや悔みを示すのである。

月明の輝く野にあらわれた、六条御息所の姿は、源氏に疎まれながらも、自分がこのところにもついていた時、密かに光源氏が会いに来たことや、加茂の祭に車争いをし、葵上にはつかしめをうけた口惜しさを語るものであった。

その執念を、きらびやかな衣の奥に、どのように秘めようかと考える。

金糸の輝きによって、白地の長絹が、オレンジ色に見えるのもすばらしい。

私の夢は、秘すれば花。秘せざれば花なるべからず、その夢をどうのように秘めようかと思いついてからすでに長い歳月が過ぎていた。

今、この野宮が完成すると、この作品は私の手元からはなれてゆく。一生に一度かぎり、一期一会の喜びをかみしめるひとときであるかも知れない。

(平成元年四月二日記)



茶

紅梅記

前田満穂氏の思い

れが不思議と酒席へ二人で連れ立ったことは無かった。

前田さんは早大で哲学を専攻。当時有名流行のデイルタイの文化論の話をたびたびした。私は英文

(①面より賀水会・三幸会春の会番組つづき)

連吟二人 静

新之段

大原御幸

番外 船
後シテ瀬戸三津子
前シテ加賀 敏彦

水谷さよ子
加藤礼子
長崎よし子
近藤八千代
猪飼 普子
山田スミ子
若杉不二子
伊藤さち子
仲野 末子
山口 幸子
岩塚 敬子
津賀 一枝
水野 静子
大前 数枝
矢野 種枝
瀬戸 綾子
鈴木 美枝

天 鼓
西村 敏也
吉田 定男
後藤 孝一郎
野村又三郎
鬼頭喜太郎
藤田六郎兵衛

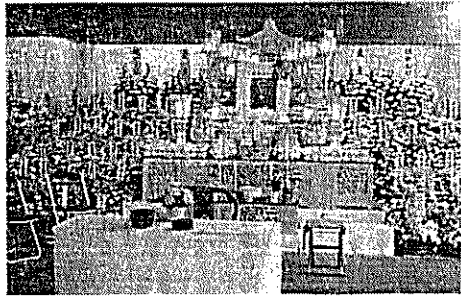
賀水会 敏彦
加賀 敏彦
三交 賀水
瀬戸三津子
橋岡 慈観

〔御来場歓迎〕 補佐
主催 三 加賀 敏彦
三交 賀水
瀬戸三津子
橋岡 慈観

「日本に出会う」
ナゴヤローヤルで
藤田六郎兵衛氏公演

能と人との出会いの場々を求めて、能楽普及をアピールし多面的な活躍をつづける笛方藤田流家元・藤田六郎兵衛氏は、笛が誘(いざな)う幽玄な能の世界を「日本に出会う」のテーマで、四月二十二日(土)午後七時からテニス倶楽部ナゴヤローヤル(愛知県東郷町踏輪吉田八八―一四五)で演奏する。会員券五千円。

この企画はナゴヤローヤル・パフォーマンス・アート・サークルの一環で、「六百年という時代のフィルターを通して余分なものを切り捨て、照明、音響という人工的なエネルギーではなく、最も原始的な人間という動物的エネルギーのみで上演していく「能」の笛を聞いて頂きたい」と藤田氏は語っている。



ワシマド写真

前田明氏逝去

先代親世左近氏夫人
観世愛子さん逝去

4日 告別式を執行

親世流二十四世宗家・先代親世左近氏夫人の愛子さんは、四月二日午前九時五十分、脳こうそくの

祖父初代井上菊次郎七十回忌 二代目井上菊次郎五十回忌 追善狂言会

芳扇会大会

五月三日(祝)午前十時始
熱田神宮能楽殿

発声仕舞 胡蝶
鞍馬天狗 高木美智子
並之段 奥川恒治
植松有磨 堀木文雄
加藤 幾子
林 幸世
黒岩 美代
中谷久美生
久保田真夫
大森英三郎

東 戸 野田 道子
野村 敏也
河村総一郎
藤田六郎兵衛

東 戸 野田 道子
野村 敏也
河村総一郎
藤田六郎兵衛

東 戸 野田 道子
野村 敏也
河村総一郎
藤田六郎兵衛

東 戸 野田 道子
野村 敏也
河村総一郎
藤田六郎兵衛

東 戸 野田 道子
野村 敏也
河村総一郎
藤田六郎兵衛

東 戸 野田 道子
野村 敏也
河村総一郎
藤田六郎兵衛

東 戸 野田 道子
野村 敏也
河村総一郎
藤田六郎兵衛

東 戸 野田 道子
野村 敏也
河村総一郎
藤田六郎兵衛

東 戸 野田 道子
野村 敏也
河村総一郎
藤田六郎兵衛

東 戸 野田 道子
野村 敏也
河村総一郎
藤田六郎兵衛

東 戸 野田 道子
野村 敏也
河村総一郎
藤田六郎兵衛

東 戸 野田 道子
野村 敏也
河村総一郎
藤田六郎兵衛

東 戸 野田 道子
野村 敏也
河村総一郎
藤田六郎兵衛

五十六世 梅若六郎襲名披露能

五月六日(土)午後一時開演
熱田神宮能楽殿

高 八段之舞
観世 清和
福井啓次郎
藤田六郎兵衛

菊 童
西村 敏也
河村総一郎
清水 皓祐
松田 弘之

田 村 観世 喜之
清水 皓祐
松田 弘之

花 菅
西村 敏也
福井啓次郎
松田 弘之

末広かり 野村又三郎
井上礼之助

卒都婆小町 梅若 恭行

大 般 若
宝生 欣哉
清水 皓祐
藤田六郎兵衛

1989年4月・5月 放送予定

〔4月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)

23日(日)喜多流「柏崎友枝喜久夫」
30日(日)宝生流「蟬丸」(再) 近藤 乾三

◎教育テレビ
4月29日(祝)午前9時
観世流能「船井慶」(再) 観世 元昭

〔5月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)

7日(日)観世流「藤戸野村四郎助観三」
14日(日)宝生流「小袖曾我」「鐘越」近藤 乾三
21日(日)観世流「西王母」「鶴橋」岡田 恭三
28日(日)金剛流「頼政」「花月」広田 泰三

◎教育テレビ・TV祝日能(午前9時より)

3日(水)喜多流「田村喜多郎三万」
4日(木)宝生流「大江山渡野」
5日(金)和泉流「狂言」二

(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

第二回たまも会

五月十日(水)午後零時三十分始
熱田神宮能楽殿

田 村 見所の皆様も御座います。御唱和願わしう存じます。(終了予定 四時半頃)

紅梅記

前田満穂氏の思い

出、続己巳の歌

正月から咲いた紅と白の梅が三月下旬には新芽を出す。これが来年の花をつける芽出しである。三月は肥し月。その三月末八熱田Vの桜の花だよりをきく。早し。二六日の謡曲放送は墨染桜(豊嶋訓三、現行金剛流のみ、NHK)。なお近頃頃の「素粒子」欄(朝日夕刊、三行集)は西行桜・熊野から引く。物方流転。古典・文芸詩句が巧みに警句を飾ること多し。

本紙能楽独語のM氏と前田満穂(ハミツ)氏永眠のこと。先月号で触れたが、あらためて思い出に寄せて一文を草したい。

前田さんは親しみをこめて「まんばさん」と呼ばれた。あの細い目がよけい細くなり、口元に笑(丸)みをたよわせたやわらかい物腰に親近感を覚えた。またこれがM氏の身上と申せましよう。キリスト教の罪儀であったが、前田さんのキリスト教信者は知りませんでした。そうと知れば、キリスト教を通して西洋文物の語をかわせばよかった。しかしあのやさしい目(まな)差し、態度からすれば、それはキリスト教の愛(キリシヤ語のエロスではなく、アガペーである)に通ずるものがあつたと考へたい。日本のこととキリスト教精神がごんと溶け合い調和したのであろうか。

前田さんとは、私がNHKでの番組編成・資料室(長)時代、同氏が新東海(朝日系)時代の戦後間もない頃のこと。お城内のNHKから今の朝日のある処までよく歩いた(朝日平家物語執筆のため吉川英治氏や谷川徹三先生に平曲の聴聞のお世話をしたのもその頃)。あるとき能評(評判記)を書いてみてはとすめられ、それが現在の私を形づくるそもその始まりとなった。舞台はまだ大油の前・商工会議所ホールにあった。それから松坂屋、八熱田Vと移って四十年余。長いおつきあいである。能(狂言)のことと私生活も。そ

れが不思議と酒席へ二人で連れ立ったことは無かった。前田さんは早大で哲学を専攻。当時有名流のディルタイの文化論の話をたびたびした。私は英文学(立教)であったが、神学生とギリシヤ語、哲学科でディルタイを聴講した(金子武蔵教授・故人)。それと谷川徹三先生からディルタイやアランのことを学んでいた。M氏と話が合ったらしい。新東海のあると、朝日に戻り、朝日CCにうつられ、その後には能楽道通いで一層往き来がはげしくなる。八熱田Vへお誘いし、今度は私の方が「能楽の友」への寄稿をおすすめしたのがなつかしい。

祖父初代井上菊次郎七十回忌 二代目井上菊次郎五十回忌 追善狂言会

観世流二十四世宗家・先代親世左近氏夫人の愛子さんは、四月二日午前九時五十分 脳こうそくの

五月七日(日)正午始 熱田神宮能楽殿 狂言小舞

通 井上松次郎 今枝 靖雄 地謡 佐藤 友彦 歌村 鴻助

舎 弟 小柳 悠志 井上松次郎

花 子 井上 祐一 佐藤 友彦 大野 弘之

無布施 井上 元秀 和泉 元弥

腰 祈 井上 精浩 井上松次郎 大野 弘之

能石 梅田 邦久 河村 総一郎 鬼頭 喜太郎 西村 欽也 藤田 六郎兵衛

後見 小島 幸親 本田 和男 高橋 雅一 須部 甫 中村 一政 橋本 雅夫 加賀 敏彦 相父 江修一

後援 狂言 共 同 社 事務所 名古屋市中区橋下町一丁目七十五番 井上 電話 〇五二四一四三〇番

取扱所 松坂屋・三越・名鉄・中日各ブレイガイド

指定席 三、〇〇〇円 自由席 二、〇〇〇円

各出演者名・朝日新聞企画部 松坂屋・三越・名鉄・中日各ブレイガイド

後援 狂言 共 同 社 事務所 名古屋市中区橋下町一丁目七十五番 井上 電話 〇五二四一四三〇番

能和葉狩 主催名 古屋 巽 会 愛知那東郷町和合ヶ丘二十一丁目一五戸田 和方 TEL 〇五六三一九一四八七

第二回たまも会

五月十日(水)午後零時三十分始 熱田神宮能楽殿

能楊貴妃 金児 晶子 西村 欽也 鬼頭 喜太郎 後藤 孝一郎 鹿取 希世

仕舞草紙 洗 安井 たかえ 山田 郁子 山田 知賢 山田 謙三

雲雀山 竹内 喜代香 鬼頭 喜太郎 後藤 孝一郎 鹿取 希世

連吟 盛 高橋 三郎 鬼頭 喜太郎 後藤 孝一郎 鹿取 希世

鞍馬天狗 高橋 三郎 鬼頭 喜太郎 後藤 孝一郎 鹿取 希世

藤 安井 たかえ 久保 正治 山田 謙三

黒塚 伊藤 晶子 山田 謙三

野宮 岡野 三郎 鬼頭 喜太郎 後藤 孝一郎 鹿取 希世

連吟 千手 高橋 三郎 鬼頭 喜太郎 後藤 孝一郎 鹿取 希世

仕舞紅葉 砂 高橋 三郎 鬼頭 喜太郎 後藤 孝一郎 鹿取 希世

連吟 大原御幸 高橋 三郎 鬼頭 喜太郎 後藤 孝一郎 鹿取 希世

仕舞籠 金子あき子

連吟 阿漕 高橋 三郎 鬼頭 喜太郎 後藤 孝一郎 鹿取 希世

198 [4月] NH 23日(日)喜宝 30日(日) 〇教育テレビ 4月29日(流)世 〔5月〕NH 7日(日)観宝 14日(日)観金 21日(日)観世 28日(日)観世 3日(水)喜宝 4日(木)喜宝 5日(金)喜宝 (放送)

名古屋観世九臈会定期能(第二回)

五月二十日(土)午後一時始 熱田神宮能楽殿

素踊 飼 佐々木 勝輝 小林 喜久 加藤 保彦

能海士 駒瀬 慎也 駒瀬 直也

能雨月 戸 吉田 妙 中所 宜夫 観世 喜之

〔要会員券〕 主催事務所名古屋観世九臈会 (当日券 四千円)

第32回狂言やるまい会公演 五月二十一日(日)午後一時三十分始 熱田神宮能楽殿

三番叟 大矢 高義 千才 井上礼之助

隠狸 和泉 元秀

玉之段 橋本 雅夫 橋本 磯道 山中 義澄 観世 曉夫

磁石 野村 三郎 野村 三郎 野村 三郎

能船弁慶 西村 欽也

入場料 S席 六千円(正面指定席) A席 五千円(脇正面指定席) C席 三千円(階上自由席) 学生割引二千円(階上自由席) 入場券取扱所 名鉄・三越・中日ビル各ブレイガイド および能楽殿受付

狂言やるまい会事務所 名古屋市中区正木三丁目16番25 野村方 電話 〇五二(三三)一七五五番

狂言やるまい会事務所 名古屋市中区正木三丁目16番25 野村方 電話 〇五二(三三)一七五五番

名古屋観衛会春の大会

五月二十八日(日)午前十時始

熱田神社 能楽殿

Table listing various dance performances (e.g., 素舞神歌, 草子洗小町, 須磨源氏) with names of performers and sponsors.

弥生の舞台から 梅猶会

竹尾邦太郎

「那耶」シテ恵美子の誕生は、黒頭の蓬髪めいた、いさかからぶれた哲学青年の印象は、むしろ深遠で個性、ニヒルな青白きインテリの雰囲気を感じさせていた。台上、下居してしめじみ杖を見結め、時の枕に感慨を催して仮寝の夢を結ばんと横臥するところ、杖が首の辺りにあり、のけぞり気味で窮屈そうだった。このため起き上る時は少々ぎこちなかったが、台上の態度はなかなか立派。へ、東に、と、薄く左を、へ、西に、はグッと右を見る対照が、(日月)選し、と両手を上げて挙げる型によく似た。台上の楽(がく)をのびのびと舞い、左袖ゆたり返す悠揚が好ましい。空下りには柱につかまってい拍子二つ踏むのが、足を外すの一寸勢いをつけるようなそんな印象を受けた。ワカ以後地との掛合に舞い続け、へ喜びの歌を、と正先で唐團扇を高々と上げる歓喜の表情以下唐團扇の扱ひもダイナミックに、へ万木千草も一日に花咲けり、と、びっくりした様にワ

翠謡会伊勢神宮奉納記念番組

五月二十一日(日)正午始

Table listing performances for the Ise Shrine dedication program, including names of performers and roles.

二人静・立出ノ一

先ずツレ菜摘女・鬼一が何事も無く出て地前下居すると、名宣笛(六郎兵衛)でワキ勝手神社主・欽也が風折・白大口・纏狩衣の姿で登場し、ツレに供物の若菜を摘むように言う。ツレは後見座で手籠を取る。ツレは後見座で手籠を取る。ツレは後見座で手籠を取る。

も、とシテが背後から左手をツレの右肩に置き、へ身こそは沈めて、と両者沈んで下居する辺りは形影相伴って美しかった。トメはシテ常座、ツレは一ノ松、親子戯演が微笑ましい一曲だった。(一時間25分)

中日文化センター

名古屋(栄)・岐阜・四日市

Table listing cultural activities and performances at the Nippon Cultural Center, including names and dates.

能の音楽「ツクスマ」

横濱に來港するクイーンエリザベス2世のシアターで、特別企画として「能の音楽」が公演される。

横濱に來港するクイーンエリザベス2世のシアターで、特別企画として「能の音楽」が公演される。この公演は「クイーンエリザベス2世」のツクスマと名づけられ、藤田流笛方・藤田六郎兵衛が主催。五月十四日、午前八時朝食、シブニング、十時チェックアウト。(ツクスマ)は能の世界の専門用語で能の音楽は基本的には八拍子であるが、その中で一息でとる一番長い間をツクスマという。企画、問い合わせは三井物産中部支社運輸事業グループ(電話〇五二一五八四二二四)

友社 18-18 84 393 円円 000

名古屋総鎮守 若宮八幡社 能舞台様式の神楽殿

名古屋観衛会春の大会 五月二十八日(日)午前十時始

能班 芥栄雄 西村 欽也 飯富 雅介 寛原 敏一 藤田 六郎兵衛

Advertisement for Nippon Sports, featuring logos for Nippon News and Nippon Sports, along with contact information for various branches.

謡曲本専門店
創業75年
株式 東文堂書店
会社
名古屋市中央区栄三丁目28番16号 (〒460)
(松坂屋南一丁) 電話 (052) 241-1059番

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋 0-36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

— 郵送の都合部 70円

附 祝 言
〔御来場歓迎〕

主 催 名 古 屋 観 衛 会
指 導 山 本 勝 一

連 吟 誓 願 寺
米倉貞次
後石原園夫
木村正子
早川正也
山田正也
石川正也
福嶋正也
板野正也
小野正也
日野正也
大野正也
順元正也

名古屋総鎮守 若宮八幡社 能舞台様式の神楽殿

仁徳天皇千七百年記念で造営

名古屋総鎮守・若宮八幡社(名古屋市千種区栄三十三五)は仁徳天皇を祭神として今より千二百七十余年前の大宝年間文武天皇の勅により勧請され、大祭の若宮まつりは、かつて祇園まつりとして親しまれてきたが、ことしは仁徳天皇の生誕千七百年にあたり、今年(十一月上旬予定)千七百年式年祭を執り行うとともに、記念事業として神楽殿ならびに献花席を造営する計画がすすまれている。計画によると神楽殿の造営は能舞台の様式を取り入れ、演能にも活用される設計で氏子、崇敬者の関心をあつめている。

紫綬褒章 宝生英雄氏 受章

政府は四月二十九日付で平成元年春の褒章受章者を発表したが、宝生流十八代宗家宝生英雄氏が紫綬褒章を受章された。紫綬褒章は、学問・芸術・スポーツなどの文化的分野で業績をあげた功労者に贈られる。宝生宗家が授与されるについては「わが国学術芸術等の向上発展のため顕著な功績」を受章理由にあげている。伝達式は五月十五日午前十時五十分から東京青山会館二階さくらの間で行われる。なお能楽関係での紫綬褒章受章者は故三宅要(昭和三十六年)故安福春雄(昭和四十六年)故宝生弥一(昭和四十七年)について、古川久(昭和四十八年)幸月次郎(昭和四十九年)藤田大五郎(昭和五十一年)森茂好(昭和五十八年)横道萬里雄(昭和五十八年)茂山千五郎(昭和六十年)栗谷新太郎(昭和六十二年)の各氏を受章している。

春の叙勳

勲五等双光旭日章 笛方・森田流 寺井 啓之氏

明治四十五年三月三十一日生
れ。昭和四十二年日本能楽会会員
住所 東京都千代田区一番町一五
ノ七。
大正六年十月十一日生れ。昭和
四十年日本能楽会会員。
住所 東京都練馬区豊玉北六ノ
一一ノ四。

勲五等双光旭日章 シテ方・宝生流 渡辺 三郎氏

金沢の加賀百万石まつり協賛新
館は、六月十四日(水)中央公園
特設舞台で行われる。能「小鏡
治」(シテ佐野由於)ほか狂言、
舞臺子、仕舞など。

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

[5月]	20日(土) 観世九皇会定期能 (有料)	21日(日) 狂言やるま会公演 (有料)	28日(日) 名古屋観衛大会 (来場歓迎) (番組①面)								
[6月]	4日(日) 清熱田まつり能 (有料) (番組①面)	5日(月) 熱田まつり能 (有料) (番組②面)	11日(日) 観世会定式能 (有料) (番組③面)	18日(日) 観世会定式能 (有料) (番組④面)	25日(日) 観世会定式能 (有料) (番組⑤面)						
[7月]	2日(日) 名古屋観衛大会 (有料) (番組⑥面)	8日(土) 観世会 (有料)	9日(日) 観世会 (有料) (来場歓迎)	15日(土) 観世会 (有料)	16日(日) 観世会 (有料)	23日(日) 名古屋官庁楽團宝生流大会 (来場歓迎)	30日(日) 観世会定式能 (有料)				
[8月]	5日(土) 名古屋新能(於神楽殿前) (有料)	26日(土) 衣笠正宣後援会能(第5回記念会) (有料)	27日(日) 久田徹二リサイタル (有料)								
[9月]	2日(土) 山金本追善会 (有料)	3日(日) 大観世会 (有料)	9日(土) 大観世会 (有料)	10日(日) 大観世会 (有料)	15日(祝) 大観世会 (有料) (来場歓迎)	16日(土) 大観世会 (有料)	17日(日) 大観世会 (有料)	23日(祝) 大観世会 (有料) (来場歓迎)	24日(日) 大観世会 (有料)	27日(水) 大観世会 (有料)	30日(土) 中日文化センター芸術発表会 (来場歓迎)
(演能変更の節はご了解下さい)											

名古屋観衛会春の大会

五月二十八日(日)午前十時始

熱田神宮能楽殿

舞臺子 菊 熊	舞臺子 通小町 川久保彰礼	舞臺子 鼓 豊住 雅子	舞臺子 天 鼓 豊住 雅子	舞臺子 紅 葉 狩 山中 節子	舞臺子 竜 田 鈴村 とみ	舞臺子 竜 田 鈴村 とみ	舞臺子 紅 葉 狩 山中 節子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子
仕舞 菊 熊	仕舞 通小町 川久保彰礼	仕舞 鼓 豊住 雅子	仕舞 天 鼓 豊住 雅子	仕舞 紅 葉 狩 山中 節子	仕舞 竜 田 鈴村 とみ	仕舞 竜 田 鈴村 とみ	仕舞 紅 葉 狩 山中 節子	仕舞 須磨源氏 伊藤 秀子	仕舞 須磨源氏 伊藤 秀子	仕舞 須磨源氏 伊藤 秀子	仕舞 須磨源氏 伊藤 秀子	仕舞 須磨源氏 伊藤 秀子	仕舞 須磨源氏 伊藤 秀子	仕舞 須磨源氏 伊藤 秀子	仕舞 須磨源氏 伊藤 秀子	仕舞 須磨源氏 伊藤 秀子	仕舞 須磨源氏 伊藤 秀子	仕舞 須磨源氏 伊藤 秀子	仕舞 須磨源氏 伊藤 秀子	仕舞 須磨源氏 伊藤 秀子
舞臺子 菊 熊	舞臺子 通小町 川久保彰礼	舞臺子 鼓 豊住 雅子	舞臺子 天 鼓 豊住 雅子	舞臺子 紅 葉 狩 山中 節子	舞臺子 竜 田 鈴村 とみ	舞臺子 竜 田 鈴村 とみ	舞臺子 紅 葉 狩 山中 節子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子	舞臺子 須磨源氏 伊藤 秀子

清韻會能

六月四日(日)午後一時始

熱田神宮能楽殿

藤 戸	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山
藤 戸	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山
藤 戸	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山	雲雀山

後援 中日新聞社
電話(052)703-1571
名古屋市中東区社が丘三丁目
電話(052)703-1571



五月雅日記

喝 食

えと文 二井栄逸

昔はあまり好きでなかった喝食(かつしき)がこの二、三年前から好きな能面の一つになった。なぜか自分でも分らない。喝食は、前髪を描いた青年の面である。

使用されるのは四番目物の能であるが、四番物は種類が多く、狂乱物、遊狂物、執念物、人情物、現在物、というように分類される。その中の遊狂能に使用されるのがこの喝食である。

曲目でいえば、花月、自然居士、東岸居士等の能に使用されるが、その風貌から、童子の替りとして使われたことがあった。

それは、何年前の中目五流能であったのか忘れたが、今の六平太先生が、長也先生時代に大江山を

ご健在であった実先生(第十五世家元)のご指示で、大江山の前にテに大喝食をおつけになったことを覚えていた。何かおどろかすようなケールが大きく感じられ、素晴らしいな、と思った。

喝食の名前は、昔の喝食行者からつけられたのだと思う。

中世の時代には、居士といつて出家しないので仏道の修業をする男



子にいた。すべて喝食すがたをしていて、人々は喝食行者とよんでいた。

もどりを結んで後へ垂れ、肩の下辺で切った姿で、能では、この喝食行者を模して作った美青年の面喝食であり、髪は喝食髪である。

「喝」は唱える意で、種家で大衆謡の後の、大衆に食事を大声で報じる役柄のことであった。

この喝食の面をつける遊狂物といふのは、中世の頃、独特のひらがりをさせた遊狂精神ともいえるであろう一種の思想的な生き方に終始した人々のドラマを描いたものである。

私がこの喝食を好きになったのはどうもこの前髪をかいた青年の面にたまたま、やや虚無的なさびしさの気も知れない。

又、現実の醜さから逃がれようとする意志を反映したような面上にはかき浮ぶ明瞭に醒めた知的な明るさであるかも知れない。

(平成元年、四、三〇)

那古野神社新能

5月28日 観世九皇会が奉納

名古屋市中区的那古野神社では、前号既報のとおり五月二十八日、名古屋観世九皇会主催により奉納新能が催されるが、番組は次のとおりである。午後六時半開始。観能無料。終了予定八時頃。

なお当日は高橋一社中ほか

奉納新能番組

- | | | |
|------|-----|------------|
| 連吟 | 竹生島 | 加藤 保彦 |
| 仕舞 | 高砂 | 吉田 妙 |
| 東 | 北ヶケ | 高木美智子 |
| 天 | 鼓 | 中野 宜夫 |
| 船 | 弁慶 | 高橋 一 |
| 火入れ式 | | 那古野神社司 |
| 挨拶 | | 宮地 俊彦 |
| | | 那古野神社奉賛会会長 |
| | | 青山 房三 |

紅梅記

春の能、放送

しきあり。この二番と臨(片山九郎右衛門)のご能楽タイムズの五月号に載る。

四月、観世会の羽法師(片山慶次郎)の各、白子(片山慶次郎)の

能 経

観世 喜之 西村 敏也 藤田六郎兵衛

後見 青木 武弘 高橋 邦光 加藤 保彦

駒瀬 直也 坪井 正幸 祖父江 修一

牛島 康晴 中野 宜夫

能「頼政」百萬

梅猶会定期能(第二回)

梅猶会では、五月二十七日大阪能楽会館で本年度第二回の定期能を開催する。午後一時開始。

舞臺子「須磨源氏」(小田文三) 素謡「三輪」(船沢恵美子、森勝子)

仕舞「兼平」(橋本雅一)「土蜘蛛」(シテ梅若善久、ツレ梅若善久)「鞍馬天狗」(菊池重徳)

能「頼政」(梅若善高、ワキ清水利宜、笛・左河雅義、小鼓・成田達志、大鼓・上野義雄、間・網谷正美)

後見・井上生香、池内幸三郎、

大阪

若六郎披露能にあわせて能面能装束展(同十三日より徳川美術館)。

井上家狂言追善会(翌七日)・親子孫三代の狂言と小舞。石橋(梅)

二日奈良春日興福寺新能。下旬橋岡久馬氏団長の海外能一行北米へ。成功と途次安全を祈る。追加、三月観世愛子様永眠。先代左近氏夫

熱田まつり奉納能

六月五日(月)午後一時半開演

熱田 神宮 能楽殿

- | | | |
|---------|-------|-----------|
| カメ生駒 里翠 | 能 | 熱田 神宮 能楽殿 |
| ツル今沢 美和 | 今村 嘉男 | |
| 後見 泉 嘉夫 | 野村又三郎 | |
| 清沢 一政 | 中村 和男 | |
| 松山 幸親 | 加藤 保彦 | |
| 後見 泉 嘉夫 | 田中 敏彦 | |
| 清沢 一政 | 梅田 邦久 | |
| 松山 幸親 | 中川 雅章 | |
| 後見 泉 嘉夫 | 河村真之介 | |
| 清沢 一政 | 福井啓次郎 | |
| 松山 幸親 | 鹿取 希世 | |
| 後見 泉 嘉夫 | 野村又三郎 | |
| 清沢 一政 | 中村 和男 | |
| 松山 幸親 | 加藤 保彦 | |
| 後見 泉 嘉夫 | 田中 敏彦 | |
| 清沢 一政 | 梅田 邦久 | |
| 松山 幸親 | 中川 雅章 | |
| 後見 泉 嘉夫 | 河村真之介 | |
| 清沢 一政 | 福井啓次郎 | |
| 松山 幸親 | 鹿取 希世 | |

附 祝 言

主権能楽協会名古屋支部

〔入場無料〕

吉田書店、出演楽師宅又は当日受付。

連絡所 豊中市新千里南町三一八―一二、梅若善高方、梅猶会定期能連絡所、電話〇六一八三―一七八五。

津市民能

5月25日 津市お城ホール

津市民能は五月二十五日(木)津市お城ホールで開演。喜多流能「花月」観世流能「葉上」が上演される。午後六時開始。

宝生流仕舞「玉露」(衣裳愛)「鞍馬天狗」(衣裳郷志)

喜多流能「花月」(シテ長田親、ワキ西村敏也、笛・藤田六郎兵衛)

〔住所変更〕

広田陸一氏転宅

金剛流広田陸一氏は昨年八月から新築のため仮住所であったが、このほど完成、四月から転宅した。新住所 京都市左京区下鴨東高木町二四番地(〒606) 電話〇七五―七八一―一八八五

観世会定期能 (三回)

六月十一日(日)十二時半開演

熱田 神宮 能楽殿

- | | | |
|----------|-------|-----------|
| 小島 一英 | 能 | 熱田 神宮 能楽殿 |
| 橋岡 慈徳 | 飯富 雅也 | |
| 後見 山本 順之 | 大野 弘之 | |
| 山本 順之 | 中村 和男 | |
| 後見 山本 順之 | 今村 嘉男 | |
| 山本 順之 | 加賀 敏彦 | |
| 後見 山本 順之 | 梅田 邦久 | |
| 山本 順之 | 中川 雅章 | |
| 後見 山本 順之 | 河村真之介 | |
| 山本 順之 | 福井啓次郎 | |
| 後見 山本 順之 | 鹿取 希世 | |
| 山本 順之 | 野村又三郎 | |
| 後見 山本 順之 | 中村 和男 | |
| 山本 順之 | 加藤 保彦 | |
| 後見 山本 順之 | 田中 敏彦 | |
| 山本 順之 | 梅田 邦久 | |
| 後見 山本 順之 | 中川 雅章 | |
| 山本 順之 | 河村真之介 | |
| 後見 山本 順之 | 福井啓次郎 | |
| 山本 順之 | 鹿取 希世 | |

千 手

附 祝 言

〔要員券〕

当日券 八千円

主権名古屋観世会

〔終了 四時半頃〕

1989年5月・6月 放送予定

- | | | |
|---------------------------|---------------------------|----|
| (5月) NHK・FM能楽鑑賞 (午前8時~9時) | 観世流「西王母」「梅」橋岡 慈徳 | 観三 |
| 21日(日) | 金剛流「頼政」「花月」広田 陸一 | 重雄 |
| 28日(日) | (6月) NHK・FM能楽鑑賞 (午前8時~9時) | |
| 4日(日) | 観世流「通」盛 坂井 音 | 重雄 |
| 11日(日) | 宝生流「山」純 大坪 十喜 | 汎久 |
| 18日(日) | 金春流「生田」「土蜘蛛」高橋 一 | |
| 25日(日) | 観世流「都」大 西 智久 | |
- ※テレビはありません
- (放送予定につき変更の節はご理解下さい)

名古屋観世九皇会定期能

七月二日(日) 午前十一時始

火入れ式
那古野神社宮司
宮地 俊彦
那古野神社奉賛会会長
青山 房三

紅梅記

春の能、放送

四月半ばから卯の花が咲き出す。大きな椿に寄り添うように、脚(うずくま)って、白く小さな花を鈴なりにみせる。卯の花点の茶会もある由(故井口海仙氏の著)。四月は梅の若枝がのびる。春の能は観世六番、金剛一番を楽しむ。

「近頃はいかか」「低処高思、淡的微妙、いや微妙まではいきませんが」「なるほど」さらに「本もよく読みます。用あって西洋中世哲学を久々ですが復習しましたよ。谷川徹三先生の八茶碗の美しさVと言う一文を手にして、ふと能の美しさはどこにあるのか、もつと能の美しさはない、美しい能があるのだと断じた文芸評論家がいまいたが、あらためてこれを考えてみました」「それで」「むつかしいですね。よい能をみればこれだと分るのですが、それも刻々と流れ消えていきます。その(万物)流転・流動の中に真の姿、美しさ・美しいものを捉えるだけです。それがこの頃は録音で何度もみられることになりました。これでは低処高思でなくて低処低思です。付、「低処高思」は主治医のM博士の著作のうち同名の佳篇あり。

この春も観世能が多い。それに挟んで金剛能一番(船弁慶白波ノ伝、宇高通成)は今年の名古屋では千金の値がする。金春能は九月にあるが毎年催すのは大層努力が要ると切に思う。蓋し最近では京都や奈良に行かないので一回・一度の能会が私には大切です。以下順を追う。
三月は山姥白頭(梅若修一)で、後シテの面が耳せりまで裂けていた。特別謡(シテ)の緩急抑揚のほげしい箇所が二回。重厚さよりもむしろ変化の妙味をみる。中日能通小町(観世元昭・岡清和)は切りでワキ僧に合掌の二人の姿が佳。左近・岡田川は結晶の固い美

能「種破」(梅若修一、ワキ清水利宣、笛・左鴻雅義、小鼓・成田遠志、太鼓・上野義雄、間・網谷正美。
後見・井上生香、池内幸三郎、

演能案内

第卅三期・第二期 名古屋宝生会定式能

六月十八日(日)午後一時始
熱田 神宮 能楽殿

弱法師 高安 勝久 吉田 定男 森本 重一
井上 祐一 柳原 富司忠
後見 戸田 博和 北村 大孝 辰巳 満次郎
玉井 博祐 地謡 門原 利光 馬場 富四夫
佐々木 輝雄 稲川 寿一

楊貴妃 西村 欽也 河村 総一郎 鹿取 希世
井上 松次郎 福井 啓次郎
後見 倉本 雅 富田 正代司 衣斐 正宣
竹内 澄子 地謡 織田 哲也 馬場 富四夫
高田 真六 吉田 俊彦

杜 耶後 竹内 澄子
若キリ 戸田 和 地謡 衣斐 正宣
山 玉井 博祐 地謡 馬場 富四夫
通小町 倉本 雅 佐藤 耕司
鬼頭 喜男

小鍛冶 飯富 雅介 鬼頭 英二 鬼頭 喜太郎
杉江 元 後藤 孝一郎 竹市 学
間 大野 弘之

〔要員券〕 五千元
当日員券 二千元
学生券 二千元
名古屋市昭和区山里町一三五
内藤 泰二方 電話八三三―三四四九

午後六時開演
宝生流仕舞「玉露」(衣裳愛)
このほど完成、四月から転宅した。
新住所「京都市左京区下鴨東高木町二四番地(〒606)
寄多流能「花月」(シテ長田鶴、ワキ西村欽也、笛・藤田六郎兵衛、電話〇七五―七八一―一八八五

野村又三郎社中 也留舞会 合同発表会

六月二十五日(日)正午開演
熱田 神宮 能楽殿

竹生島参 太郎冠者 古川 幸子 大矢 高義
昆布壳 昆布壳 各川 良三 庄司 武
口真似 太郎冠者 加藤 志津子 客 宮田 由布子 大矢 高義
名取川 旅僧 三宅 千生 何某 野村 信行

富士太鼓 田中 芳子 桐浴 弘光
山 山人 山崎 慎也 何某 井上 礼之助
しびり 狂言小唄 掛 川 村手 泰 主 村手 悦子
吉野 天人 柴田 鏡子
小袖曾我 田中 芳子 林 岫加子

大原 木 高橋 貞
海道下り 平山 みよ子
善 村手 悦子 小山 美保 堀田 淑子
七つになる子 貝 尽 し 堀田 淑子 日比 佐代子
正 山寺 章子 日比 佐代子
上歌、クセヌキ

薩摩守 舟頭 藤村 とし江 茶屋 大矢 高義
旅僧 宮田 由布子
悪太郎 悪太郎 徳田 文三 伯父 井上 礼之助 念仏僧 大矢 高義

〔御来場歓迎〕
主催 信也留舞会
主 信也留舞会
主 信也留舞会

名古屋観世九阜会定期能

七月二日(日)午前十一時始
熱田 神宮 能楽殿

熊坂 加藤 保彦 五木田 三郎 中所 宜夫
女 小島 芳雄

第六回野村四郎名古屋公演
能「松風」戯之舞を見る会
七月八日(土)午後二時始
熱田 神宮 能楽殿

不見不聞 野村又三郎 井上 松次郎 野村 信行 後見 大矢 高義

笹之段 大槻 文蔵
西行桜 山中 義滋 地謡 山本 章弘 朝野 義弘
船弁慶 武田 邦弘 地謡 赤松 禎友 朝野 義弘

松風 西村 欽也 河村 総一郎 藤田 六郎兵衛
柳原 富司忠

主催 中日新聞社
主 中日新聞社
主 中日新聞社
A席(正面指定席)七千元 日席(一階自由席)五千元
C席(二階自由席)四千元
入場券取扱所「松坂屋、三越、丸栄、名鉄、中日ビル」
CBC各プレイガイド、
中部日本放送文化事業部(電話〇五二―二四一―八一一)

二人静

観世流能「二人静」(重本昌三、前川光隆)はか仕舞五番。

6月8日 森田光春後援会

京都

第二回森田光春後援会

は六月十八日(日)京都観世会館で、観世流能「二人静」金剛流能「絃上」の二番が上演される。午後一時始(番組別項)

京都 豊春会(豊鶴三千春師主宰)では五月十四日、金剛能楽堂で平成元年年度春の能を開催。

能楽研究

野上記念法政大学能楽研究所は「能楽研究第十四号」をこのほど刊行した。

野上記念法政大学能楽研究所は「能楽研究第十四号」をこのほど刊行した。主な内容は次のとおり。「車屋福本」新考(三)：表章能謡同名異曲考(二)付、大和田建樹旧蔵番外謡本について：西野 春雄

第二回森田光春後援会番組

平成元年六月十八日(日) 午後一時始

京都観世会館

二人静

浦田 保利 能 井上 喜久 中村弥三郎 山本孝 立出ノ声 善竹幸四郎 後見 浅井 保親 地謡 越賀 隆之 深野新次郎 宮田 宏之 藤本 雅夫 藤野 隆之 藤本 雅夫 藤野 隆之 藤本 雅夫

山中演能後援会

が「能に親しむ会」

5月31日、能二番上演

山中演能後援会主催による「能に親しむ会」が五月三十一日(水)阿倍野区阪南町の山中能舞台

卯月の舞台から

観世会

「弱法師」シテ慶次郎。白地縫箔に紺水衣。三ノ松の一セイ、ハ深き思ひを人を知ると、胸中をほろりと吐露してホッと息をつくと、己が境遇を悔れながら一縷の光を求め、その感情表出のさき気ない巧みさが舞台に入

「船弁慶」前後ノ替。ワキ弁慶。金治郎の着せりフの後、アイを呼び出し宿を借りる段が無く、静の同行を危惧する弁慶が義経の意を体して静の痛浴を勧める間客になる。シテ静は六郎。面は孫次郎系。白濁(観世水鏡)。網目地蝶菊文様紅入唐織(網目を金で埋める)。網目は海を、また義経を

「名古屋城夏まつり」はことし第二十四回をむかえ、きたる八月五日(土)熱田神社境内・特設舞台で催される。午後五時半開演。主催能楽協会名古屋支部、後援

杜若 藤井久雄 小寺俊三 後援会会長 吉田 督識 挨拶 藤井久雄 小寺俊三 附祝言 事務所 京都市東山区八坂上町三七六 電話〇七五五六一六六二五

友社 目18-18 984 6393 00070 能 上演 宮で

10日間連続能上演 能楽協会名古屋支部協力

狂言 太刀奪 後見 観世 喜正 地謡 井上 礼之助 大野 弘之 高木 美智子 青木 武蔵 佐五 小島 林 木島 芳 藤田 芳 藤田 芳

流元 金流 流本 宗家 流元 流本 宗家 櫓書店 電話(291)2488-9 振替東京3-3552 電話(231)1990 振替京都1-113 千101 東京都千代田区神田小川町2-1 千604 京都市中京区二条通鉄屋町東入

城 割烹・小料理 熱田神社 能楽殿 喫茶部 住吉小路(中区栄3-10) 電話 241-0248

正しいメガネでしあわせを…… 日進堂 名古屋市西区那古野2-20-23(円頓寺本町) 451 TEL (571) 6181-3

CBC
土曜劇場

(月~土) 18:00~18:30
(日) 17:00~17:30

「こぼれ」で始まる地元のニュー番組

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋 0-36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

— 70円

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

〔6月〕	18日(日) 宝生会定式能 (有料)	25日(日) 狂言也留舞 (来場歓迎)
〔7月〕	2日(日) 名古屋親世九草会 (有料)(番組①面)	8日(土) 名野朝日狂言会 (有料)(番組②面)
9日(日) 朝日狂言会 (有料)(番組②面)	15日(土) 朝日狂言会 (来場歓迎)(番組②面)	16日(日) 朝日狂言会 (有料)(番組③面)
23日(日) 名古屋官庁楽団生大会 (来場歓迎)	30日(日) 青陽会定式能 (有料)(番組③面)	
〔8月〕	5日(土) 名古屋新能 (於神楽殿前) (有料)(番組④面)	
26日(土) 衣裳正宜後援会能 (第5回記念会) (有料)	27日(日) 久田徹三リサイタル (有料)	
〔9月〕	2日(土) 山本追善会 (有料)	3日(日) 山本追善会 (有料)
9日(土) 山本追善会 (有料)	10日(日) 山本追善会 (有料)	
15日(土) 山本追善会 (来場歓迎)	16日(日) 山本追善会 (有料)	
17日(日) 山本追善会 (有料)	23日(日) 山本追善会 (来場歓迎)	
24日(日) 山本追善会 (来場歓迎)	27日(水) 山本追善会 (有料)	
30日(土) 中日文化センター芸術発表会 (来場歓迎)		
〔10月〕	1日(日) 名古屋親世九草会 (来場歓迎)	7日(土) 名古屋親世九草会 (来場歓迎)
8日(日) 名古屋親世九草会 (来場歓迎)	10日(日) 名古屋親世九草会 (来場歓迎)	

(2面につづく)

能楽協会名古屋支部主催の「大衆能」は九月九日(土)熱田神宮能楽殿で催される。

番組は、喜多流能「女郎花」(シテ長田鶴) 観世流能「井筒」(シテ梅田邦久) 宝生流能「乱」(シテ竹内澄子)

狂言「鏡男」(シテ井上祐一) 舞囃子・金剛流「山姥」(シテ吉川周子) 正午始。

大衆能は9月9日 能「女郎花」「井筒」「乱」

初四日市新能 八月一日 鶴森神社で 四日市市でことし初めて「四日市新能」を開催する。主催は、能楽協会名古屋支部(支部長 西村欽也氏)。

今春役員改選により、支部長、副支部長を次のとおり決定した。

(支部長) 西村欽也氏(ワキ方) (副支部長) 梅田邦久氏(シテ方) 高安流

方親世流(野村又三郎氏) 狂言方(和泉流) 寛一氏(大鼓方大倉流)

第24回 名古屋薪能 能3番 狂言・仕舞上演 8月5日、熱田神宮で

「名古屋薪能」はことし第二十回をむかえ、きたる八月五日(土)熱田神宮神楽殿前・特設舞台上で催される。午後五時半開演。主催は能楽協会名古屋支部、後援名古屋市、熱田神宮。

今回は、観世流能「小袖置我」 観世流能「草子洗小町」宝生流能「鶴鶴」の能三番、和泉流狂言「括」(ひつくり)・金剛流仕舞「笠之段」金春流仕舞「松風」 火入れ式は午後六時半ごろ熱田神宮・長谷晴男権司により行われ、西尾武喜名古屋市長のあいさつが予定されている。雨天順延。

前売りは千八百円。(当日券二千五百円)。市内各ブレイガイド能楽殿、出演名楽師宅で取扱っている。

(番組①面掲載)

市新能」が八月一日(火)、四日市の鶴森神社で催される。

能「船弁慶」(シテ梅田邦久) 狂言「樺樹」(野村又三郎) デザイン博白馬会場で

新作能面展

日本能面巧芸会主催 日本能面巧芸会では、名古屋市百年記念事業のメイン・イベントとして世界デザイン博の白馬会場で、五十七種類、九十点の「新作能面展」を開催する。

会場、世界デザイン博白馬会場 白鳥センター1階プラザ3階会議室。

日時、七月十五日(土)二十三日(日) 七月十五日から二十日まで午後九時半(午後六時、二十一日から二十三日まで午前九時半)午後九時。出展は五十七種類九十点(出品者七十三名)

主催、日本能面巧芸会、後援(予定)愛知県教委、名古屋市教委、能楽協会名古屋支部。

問い合わせは、小島莊雲氏(自宅電話八九六〇二七)保田紹雲氏(自宅電話四四一〇一五三八)

茶 壺 狂 茂山忠三郎

善竹幸四郎 安東伸元

後見山口幸生

附祝言 松野 恭敬

事務所 京都市東山区八坂上町三七六 電話〇七五五六一六六二五

松野 洋樹 宇高 通成 (終了予定 午後五時)

10日間連続能上演 能楽協会名古屋支部協力

「夏の夜のファンタジー」として催される「名古屋夏まつり」は、城内で行われる能の上演が大きな関心を得ているが、ことしは世界デザイン博協賛として、八月五日から十四日まで連日にわたる「能の夏まつり」が開催される。能と狂言に親しむ企画。演能スケジュールは次のとおり。開演は午後八時。

△八月五日(土) 仕舞「通小町」(小島一英) 能「救世」(シテ近藤幸江) 狂言「花月」(シテ祖父江修一) ワキ高安流久、笛・鹿取希世、小鼓・後藤嘉津幸、大鼓・鬼頭英二、地謡・高橋一、須部甫、松山幸親

△八月六日(日) 仕舞「笠之段」(今沢美和) 「女郎花」(松山幸親) 半能「巴」(シテ前野郁子) ワキ杉江元、笛・大野誠、小鼓・河村真之、大鼓・河村真之、地謡・久田徹三、高橋一、松山幸親

△八月七日(月) 仕舞「腰」(高橋一) 「花笠」(前野郁子) 能「吉野天」(シテ松山幸親) ワキ飯富雅介、笛・鹿取希世、小鼓・福井啓次郎、大鼓・寛一、大鼓・鬼頭好信、佐藤友彦、地謡・久田徹三、高橋一、須部甫

△八月八日(火) 仕舞「世之段」(須部甫) 「殺生石」(清沢一政) (鉄輪) (シテ久田徹三) ワキ西村欽也、ワキツレ飯富雅介、笛・大野誠、小鼓・後藤孝一、大鼓・河村真之、大鼓・助川龍夫、地謡・梅田邦久、清沢一政、須部甫

△八月九日(水) 仕舞「班女」(今村嘉男) 能「千手」(シテ須部甫)

七月二日(日)午前十一時始 熱田神宮能楽殿

主演 小島 芳雄 五木田三郎 中野 宣夫 親世 直也 観世 直也 佐々木 直也 奥川 恒治

名古屋親世九草会定期能(第三回)

七月二日(日)午前十一時始 熱田神宮能楽殿

主演 小島 芳雄 五木田三郎 中野 宣夫 親世 直也 観世 直也 佐々木 直也 奥川 恒治

第六回野村四郎名古屋公演 能「松風」 戲之舞を見る会

七月八日(土)午後二時始 熱田神宮能楽殿

主演 野村四郎

後見 大矢 高義

管之段 大槻 文藏

西行桜 山中 義滋

船弁慶 武田 邦弘

能 野村 四郎

後見 大矢 高義

野村 四郎

後見 大矢 高義

不見不聞

野村又三郎 井上松次郎 野村 信行 後見 大矢 高義

管之段 大槻 文藏

西行桜 山中 義滋

船弁慶 武田 邦弘

能 野村 四郎

後見 大矢 高義

野村 四郎

後見 大矢 高義

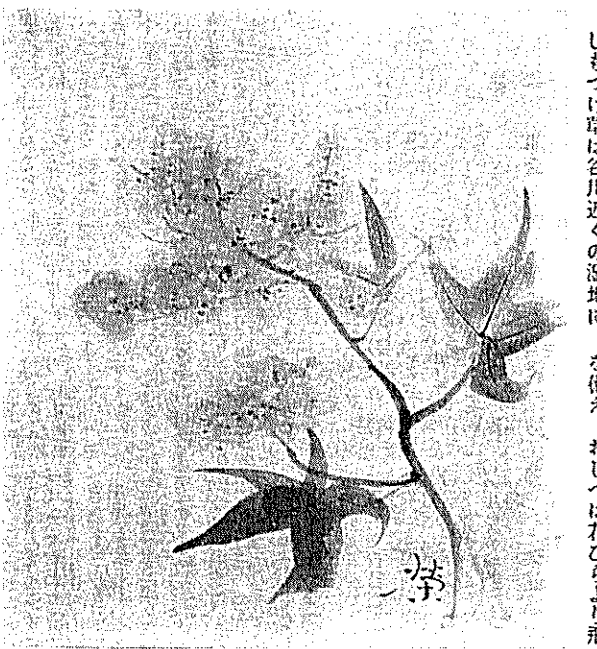
五月雅日記

京鹿子

えと文 二井栄逸

きよながのこ(京鹿子)が、咲く頃になった。六月から七月にかけて、樹間にけぶるように咲くこの花は、しもつけ(下野)によく似た花で、ほんとうに優雅でしかも繊細である。

ピンクの花序を京鹿子の鹿子紋に見たて、京鹿子となづけられた此の花を見てみると、唐織(からおり)に身をつつんだ館のおみな達を連想するのである。それほどに花のむらがり、五裂から七裂した葉との調和が心憎い程よい。



しもつけ草は谷川近くの湿地に

野生する見事さから、高原の女王とよばれたり、高野のおとめ等とよばれたりする。京鹿子でも、しもつけ草でも、紅色の花を無数につけて泡立ったように見え、露を受けると紅の色が一段と映えるのが美しい。花そのものは小さいけれど、よく見ると、ちゃんと五枚の花びらと雄蕊を備え、おしべは花びらより飛び

出してむらがっている。下野草の方は、もともと下野(しもつけ)の園藝木匠の日光や、那須あたりに多く見られたようで、そのためにしもつけになんで、しもつけ草と呼ばれ、栃木県の花に指定されているが、栃木県の特産物ではない。又、京鹿子から変化した花に、純白の穂花(はばな)の咲く、夏雪草というのがあるが、これはなかなか見つけることは難しく、今では幻の花として憧憬されている。山野草は少しづつ減ってゆくのはたしかである。此頃、報道機関はしきりに山野草の絶滅の危機を報じ始めた。それは野生動物の運命と同じこと、人間共が心しなければならぬ問題なのである。(平成元年・六・一・夜)

長良川新能8月4日

能「紅葉狩」鬼揃狂言「鈍太郎」

岐阜市が主催「伝統文化の夕べ」

「伝統文化の夕べ」として、岐阜・長良川畔で催される「長良川新能」は、きたる八月四日(金)岐阜グランドホテル前河原の特設舞台で催され、観世喜之師、和泉元秀師らが来演する。長良川新能は今回が三回目で、第一回(昭和六十一年)は岐阜青年会議所三十五周年を記念して催され、約五千名の観客で大きな話題をよび、昨年の第二回は岐阜市制百年記念・中部未来博協賛として数千人の観客で盛況をかざる大きなイベントとして市民の関心が高まってきている。

この催しはこれまで岐阜青年会議所主催で実施されてきたが、今年からは「長良川・光と炎のファンタジー」の一連の事業のひとつとして、岐阜市と岐阜教育委員会が主催。主幹・岐阜市・岐阜市教育委員会。主幹・社団法人岐阜青年会議所。後援・岐阜県教育委員会、岐阜商工会議所(創立百周年記念)。

「至之段」(五木田三郎)「藤戸」(長山礼三郎)「舞踊子」(船坂)「シテ観世喜正」狂言「鈍太郎」(シテ和泉元秀)能「紅葉狩」鬼揃(シテ観世喜之、ワキ西村欽也)午後五時開場午後六時半開演。入場は無料だが、整理券が発行される。この整理券は、七月五日(水)午前十時から岐阜市役所本庁舎一階ロビーで発行、配布されるが、とくに遠隔地(岐阜市外)の方には次の要領で郵送の申し込みを受け付ける。申し込み先(〒500)岐阜市神田町2丁目、岐阜商工会議所3階、(社)岐阜青年会議所伝統文化継承委員会。申し込み期間、六月二十六日(月)～六月三十日(金)当日消印有効。申し込み方法、返信用封筒に住所、氏名を明記のうえ62円切手を貼り同封のこと。※郵送受け付けは、申し込み期間内の先着千通までとし、一通につき

観世流謡曲本

ちくさ正文館

ちくさ駅前 電話01137

演能カレンダー

(T面のつづき)

14日(土)	名古屋	融	忠	雲雀	山	川	嶺	と	上
15日(日)	武蔵	融	忠	雲雀	山	川	嶺	と	上
21日(土)	故郷	融	忠	雲雀	山	川	嶺	と	上
22日(日)	故郷	融	忠	雲雀	山	川	嶺	と	上
28日(土)	青	融	忠	雲雀	山	川	嶺	と	上
29日(日)	青	融	忠	雲雀	山	川	嶺	と	上

第三十一回 朝日狂言会

七月九日(日)午後一時三十分始

入間川	井上松次郎	佐藤友彦
川上	和泉元秀	井上祐一
縄	善竹玄三郎	善竹長徳
彌山伏	井上礼之助	善竹幸四郎
大野弘之	井上祐一	佐藤友彦

名古屋観世会 夏の素謡会

七月十五日(土)午前九時半始

西王母	松山幸親	大谷荒男
船弁慶	加賀敏彦	小沙保
百々	須部甫	柳原富司
猿々	祖父江修一	伊藤温通
巻	清沢一政	河村真之介
須磨源氏	伊藤健一郎	福井啓次郎
遊	川久保彰	福井啓次郎
八	長田郷	佐藤孝一郎
中之舞	吉田定男	柳原富司
須磨源氏	伊藤健一郎	福井啓次郎
班	松浦信一郎	比江鶴子
唐	長田郷	河村真之介
乱	梅田邦久	後藤孝一郎

NHK教育テレビ 「趣味講座」仕舞入門

「羽衣」キリ(九月六日、十三日、二十日) 小謡曲目「高砂」「賀茂」「一角仙人」「羅生門」

青陽会定式能(第三十三期)

七月三十日(日)午前十時半始

この催しはこれまで岐阜青年会 事務所主催で実施されてきたが、今年からは「長良川・光と炎のフナタジ」の一連の事業のひとつとして、岐阜市と岐阜教育委員会 主催、岐阜県教育委員会、岐阜商工会議所(創立百周年記念) 番組は次のとおり。 仕舞「鶴之段」(小林喜久)

NHK教育テレビ 「趣味講座」 仕舞入門

7月から3カ月間放送

NHK教育テレビは、七月から「趣味講座」として仕舞入門のテーマで、七、八、九月の三カ月間にわたり毎週水曜日(土曜日の場合は、能楽愛好者のための放送として期待されるときに、一般の人にも判りやすい内容で、能の普及のための企画として関心がよせられている。放送の企画スケジュールの概要は次のとおり。

NHK「趣味講座」 仕舞入門 (放送) 七月、八月、九月の毎週水曜日、教育テレビ午後七時三十分から、九月の毎週土曜日午後八時三十分まで三十分間。 ※再放送、同じ週の土曜日午後六時三十分から。

「出演」講師II友枝昭世師 司会II葛西アサウナサ、生徒II公寛三、(素人の女性) (内容) 七月五日、仕舞のたのしみ。 仕舞曲目「人間五十年」(七月十二日、十九日、二十六日) 「湯谷」クセ(八月二日、九日、十六日) 「狸々」キリ(八月二十三日、三十日)

紅梅記 花子・大般若・船弁

爽かな五月晴が昔の銭湯とビヤホールを思い出させる。四月以降にのびた梅の若枝は五月末になるとアブラ虫がつく。葉の消遣である。泰山木の花の強い香り。六月始めには菖蒲で羅生門の銘を持つのが鮮やかな花を開く。雨中也よい。 春から夏の演能にうつる。

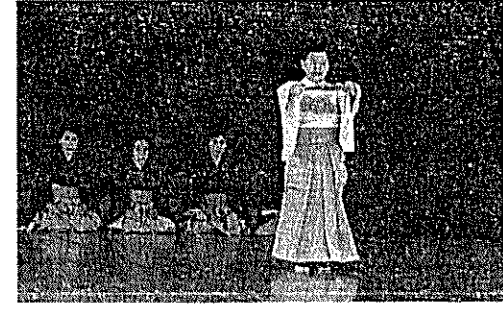
五月七日井上家追善狂言会。松次郎・祐一・晴浩ほか(三人)の孫の三代で祖父・父(松次郎氏から教えて)の追善会を催す。 祐一・花子(披き)は見ごたえあり。あこがれ・焦燥・しのび・満足・迷惘・驚きの順にひたすら女恋しきの熱い気持ちをあらわしていき。始め東京三分、名古屋七分で、それが次第に稽古を積んだ八折一のわざで、全体、父松次郎氏よりおだやかで円(まる)くさまりもよい。それに八折心Vの心得もある。好感の持てる狂言芸です。あと楽屋で小謡は十六回謡いましたと神妙に語った。

「羽衣」キリ(九月六日、十三日、二十日) 小謡曲目「高砂」「賀茂」「一角仙人」「羅生門」 最終回は「まとも」 なおテキストは六月中旬発売予定です。

翠詠会の伊勢 神宮奉納行事 翠詠会(主宰・生駒里望師)の研究、および中日文化センター名古屋(栄)・岐阜・四日市の生駒里望の受託生による伊勢神宮奉納行事は五月二十一日、伊勢神宮内宮の参集殿で、連吟「野宮」「誓願寺」「江口」の三番はじめ仕舞二十番を上演、伝統古典芸能の美学研究の成果を深緑の神苑の舞台で発表、奉納した。翠詠会の

同曲の作者は不明。しかし謡曲文は壮大かつ幻想的。英國のエッセイ「マザーの言葉」(J・アディソン)が頭に浮ぶ。次に「古今謡曲解題」(丸岡桂)によれば、三蔵、三蔵法師の別名を載せ、永享四年(一四三三)、翌年世阿弥却來花・著)に別名の演能があった由。なお記念パンフへ寄稿する堂本正樹氏によれば、能楽タイムズに長く連載する「水脈」の初期に同曲を取り上げ、復曲をすすめたのが事の始まり。また面は般蛇が同曲・真蛇が山姥と断ずる好文に接する(水脈は欠号のため重見でできず)。なおまた演出にもどるが、配られたテキスト(演能、重宝)では経文を得て唐に帰国するようであるけれども、「解題」はさらに天竺へ進むとあるが。

人面蛇身、蛇の正体を備える深沙神は沙悟浄となつていく(注西遊記)。頭は蓬髪とのか。さてその同曲が黒頭(後シテ)、蛇系のおモチを用いた演出もうなずける。因みに西遊記のことであるが、能の関わりが同書が頭から去らなく大層困った。もう一度テレビ館でみたい(Rでは放送されたはず)。



伊勢神宮奉納は昭和六十年から隔年行われ、今回は三回目である。中日新聞本社後援。写真は翠詠会の奉納行事II伊勢神宮内宮参集殿で

名古屋観世会 夏の素謡会

七月十六日(日)午後一時始

雲雀山 川瀬とよ子 柳原富司忠 鹿取 希世 駒之段 時 小笠原賢司

安宅 勸進帳 高橋 幸江 近藤 幸江 中川 雅章 武田 邦弘 久田 徹二 本山 久江 同山 祖父江修一

松 虫キリ 加賀 敏彦 杜 若キリ 今村 嘉勇 経 正キリ 松山 幸親 仕 舞 舞

定家 觀世 左近 藤井 徳三

藤戸 片山九郎右衛門 林喜一郎 地謡 清沢 一政

殺生石 梅田 邦久 高橋 幸江 松山 幸親 本田 邦弘 武田 邦久 勸 勤

附祝言 主催名 古屋 観世 会 入場料 四千元 (全館自由席) 能楽殿及び出演楽師宅 入場券申込み先

〔御来場歓迎〕 主催 呉 寛 竹 三 一 男 会

青陽会定式能(第三十三期)

七月三十日(日)午前十時半始

熱田 神宮 能楽 殿

忠 度 中川 雅章 杉江 元 後藤 英二 鬼頭 幸三 井上 祐一

班女 高橋 敏一 飯富 雅介 後藤 孝一 河村 一郎 高安 勝久 後藤 孝一 井上 松次郎

加敦 盛キリ 清沢 一政 井 筒 須部 甫 山 姥クセ 久田 徹二

葵上 近藤 幸江 前野 都子 高安 勝久 河村 真之介 柳原 富司忠 切原 富司忠

お冷し 野村又三郎 井上礼之助

附祝言 主催 青 陽 会

〔有料〕 当日券 三千元

第24回名古屋新能

八月五日(土)午後五時半開演 (雨天順延) 熱田神宮神楽殿前・特設舞台

金剛流仕舞 笠之段 百々 康治 地謡 小林忠三 菊川幸三 金春流仕舞 松風 伊藤雄二 地謡 鈴木高寿 廣瀬雅弘 観世流能 熊沢恵美子 五郎祖父江修一 十郎清沢一政

小袖曾我

後見 今沢美和 地謡 須部幸親 高橋一英 近藤幸江 地謡 加藤保彦 梅田邦久

火入式 熱田神宮権宮司 長谷晴男 御挨拶 名古屋市長 西尾武喜

草子洗小町

飯富 雅介 河村真之介 福井啓次郎 後見 水藤元三 地謡 本田一政 福生芳雄 梅田邦久 地謡 加藤保彦 梅田邦久

鶉飼

西村 欽也 吉田定男 杉江元 福井良治 池田茂 大野弘之

附祝言

主催能楽協会名古屋支部 当日券 二千五百円(前券券 千八百円) 入場券は市内各プレイガイド、能楽殿、出演楽師宅 火入式終了後、降雨の場合は以後演能を打切らせて頂きますので御了承下さい。

友社 目18-18 84 3393 0000 70

デザイン博覧会で 狂言公演 8月16日 和泉宗家ら来演

梅若六郎襲名披露能「井上家追善狂言会」九阜会「やるまい会」

竹尾 邦太郎

「菊慈童・遊舞ノ楽」先代六郎が初舞台と云ふ番記念に勤めた由緒ある梅若の能を当代六郎がその襲名披露に舞う。白菊を持ち遊舞ノ楽、途中菊をパタリと落し唐団扇に替えて舞を進む。すると二ノ松に抜けて唐団扇をカザンて枕を見込むと面を切り、再び舞台に入ると扇を逆手に持ち替え、左袖返して軽やかにくるくると小廻りする。常座で水を拘うのも戯れる如く、キリは廻りながら三ノ松まで行き留拍子。欣喜する神童の無邪気が印象的だった。(39分)

「花籠・女御留」シテは先代六郎の女御留。三ノ松で文と形見の花籠を唐傘といった感じに渡されて戸惑いを隠せない風情が、その理不尽を胸に秘めアシライで中入する僅かな間にも込み出る。後シテは唐織直折。舞クセも慎まし気、キリに正中で右膝を着き子方にアシライ控え目な気分もよく、地がトメた。(1時間21分)

「末広がり」祝言の会らしくスツパ礼之助は段段目・長袴・小サ刀。気分は専ら舞の伝授にあらうらしく、踊される側の太郎冠者・信行にも不審は稀薄に見えた。そのため小気味よいテンポで叱責するシテ又三郎に、附に落ちないといった一種困惑感な面持でそれを受ける信行の間(ま)がよく合意、キリの連舞も和やか。(33分)

「大般若」古曲復曲に意欲的な当代六郎のシテで当地初演。装束付や囃子事にも新しい趣向が見える。七度生まれかわり西へ大般若経を求め不届の沙門三蔵(ワキ欣哉)、それを七度阻んだ深沙大王(後シテ)が三蔵の意気に感応して自ら経を授ける。前シテは深沙大王の化身の異人。尉妻を常の様に折返さず後ろに垂らして東へ(面は蛙(かわず)の異形。紺地無紅縫着流、紺地牡丹文様法被を着る。縫箔の金の葡萄唐草文様が通かしルクロ

が当たる」の言葉に郷愁を覚える大人も多からう。(11分) 「花子」シテ祐一の披き。土鳥帽子に素襦袢。重々しい出がアト妻(友彦)を欺く決意の程を窺わせ、深情けのアドが強烈なプレッシャーをかける前場から緊迫感が漲る。一夜の許しを得た祐一の、居ても立っても居られぬ気分の中入もよく、一方権柄すくで身替りにさせられた太郎冠者(弘之)の恐怖と露見後の懸命な弁明。そして舟泊する御内儀に危機を逃れたと見た弘之のしゃあしゃあとした面(つら)もよい。

後場は背地藤文様を茶浅黄段糸瓜文様の素襦袢を替えて右肩脱ぎ。仕万語に意気揚々と男女の機微を興奮気味に語り語うのが即ち忘我の惚気。キリ近く、謡いながら一ノ松に抜け、八月細々と残りたりや、あち名残り借しやの、で少々声に疲れがみえたが、披きとあつて初々しく新鮮で立派な「花子」、抑れを排除したところこの曲の身上があると思つた。(1時間14分)

「無布施經」シテ元秀。布施にこだわりの、「ああ浅間散哉」と自省すれば、それが却つてまた引金となつてこだわり続け、自家撞着に懊惱する仕儀になる。厚顔な個の俗物性を鮮やかに取り取り、秀逸の舞台。へ南無妙法蓮華經、の謡留。アド元弥の成長も著しい。(46分)

「腰折」シテ祖父(おおじ)松次郎、アド山伏・碧浩の祖父と孫の競演。アドは未だ腰が決らず少々重味に欠ける(就中、運ビ)が口跡は明晰で歯切れがよい。祖父の腰の伸縮の度のア痛、ア痛に真実味がある。(23分)

「石橋・大獅子」小書で前シテ(邦久)は尉。負柴に杖をつく。ワキ(欽也)に石橋の訓れを語って中入すると、狂言の会らしく登籠を付けたアイ(又三郎・礼之助・良治)の仙人が出る。オモ又三郎は籠を揺りつけた杖を担ぐ。壺獣のこたごを言い、酒を酌み、小舞を舞うひょうひょうとした仙界的な豪快な舞を引き立てる。白(邦久)、赤(欽也)、構感でなく、手枕で横臥するなどという人を喰った千之丞の筆描に、欺か

れまいとして、「ヤイ磁石、誰(たら)すなやい、誰すなやい」と、思わず己が声を励ます忠三郎。両者快調だった。(33分) 「船井慶・重前後ノ替」シテ鏡之丞。面小面・襟赤白・白摺箔(点立蒲文様)。唐織は先月の同曲、六郎と同じ。へ頼みでも頼みなきは人の心なり、とワキに面をそむける辺りのすなわねた風情が可憐。酒を酌められてシオリを解くが、再びしゃくり上げるように、へ涙に咽ふばかり、とシオリ純情も切ない。物着に前折鳥帽子を着け、イロエは抜く。序ノ舞の途中、スミで子方を見込むと一ノ松に抜け、勾欄に寄つて再び子方を見込むとたらたら返つて背を見せ、右膝ついてシオリ返りは六郎と同断。へ舟子ども、と常座近く月ノ扇にアイ船頭(信行)は平伏し、へはや籠をとくとくと、と下居してシテが子方にアシライと子方は床几を立つ。鳥帽子は右手を添えて説いた。中入はシオリながら後髪引かれるかに一旦止まり、意を決して入る。船中の場はアイがワキツレを叱責することもなく、波浪を鎮める年割きも無くて言葉で描写し、あっさりしていた。

後シテは半巻を掲げず、本幕で三ノ松に出ると長刀を徐に構えて名宜り、へ声をするべに、と一旦落し退き、早雷で一ノ松に走り出て空拍子踏み、へ知盛が沈みしその有様に、と構えたと長刀を振る

「風理」シテ元秀。アド元弥見所を引っぱりこまざるにはおかない力一杯の熱演。「鬼」「鶉飼」の小舞の結構は太郎冠者物に見せる元秀の良くなれた味わい。(27分)

「磁石」スツパ忠三郎、連江ノ人に千之丞。兩人の言葉の追い駆けこの快調なテンポが荒唐無稽の話に説得力をもたせる。抜き身を鞘に納めた途端、くるくると小廻りしてパタンと倒れるだけでなく、手枕で横臥するなどという人を喰った千之丞の筆描に、欺か

い波の足。白地袴袴衣をエモンに着て袖を折込み、白地金立蒲文様半切。働きは船中の面々を間近に威嚇する辺り迫力があつた。長刀を構え直し、一氣に子方に迫るが、ワキに折り伏せられんとするとの、面をテラス空しい表情も印象的。キリは、へ弁慶舟子に力を合はせ、に、最後の足掻き、二ノ松勾欄に足をかけるがそれも虚しく、三鼓の流しで走り込み囃子の残り留。子方山中雅志君披露に素時しかった。(1時間38分・5月21日・やるまい会)

1989年6月・7月 放送予定 (6月) NHK・FM能楽鑑賞 (午前8時~9時) 18日(日) 金春流「生田」「土蜘蛛」高橋 汎 25日(日) 観世流「部 野」大西 智久 (7月) NHK・FM能楽鑑賞 (午前8時~9時) 2日(日) 観世流「芭 蕉」梅若 万三郎 9日(日) 喜多流「班 女」栗谷 菊生 16日(日) 宝生流「籠太鼓」「鶉飼」三川 泉利 23日(日) 観世流「自然居士」浦田 保利 30日(日) 観世流「調水 壺」梅若六郎ほか (テレビ) 教育テレビで「趣味講座」仕舞入門 7月・8月・9月の毎週水曜日午後7時30分より。(関連記事③面) 7月5日 仕舞のたのしみ 7月12日・19日・26日「人間五十年」(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

幽 詠 会 片山九郎右衛門 名古屋観世九阜会 観 世 喜 之

檜書店 千101 東京都千代田区神田小川町2-1 電話(291) 2488-9 振替東京 3-3 552 電話(231) 1-990 振替東京 1-113



名古屋・本山駅 電 762-2434 代表

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中区千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋 0-36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

一 部 70円

当日券 二千五百円(前売券 千八百円)
入場券は市内各ブレイガイド、能楽殿、出演家宅等
※火入式終了後、降雨の場合は以後演能を打ち切らせて頂きますので
御了承下さい。

デザインで狂言公演

8月16日 和泉宗家ら来演

一九八九年デザインイヤーにちなみ、名古屋市制百年を記念する「世界デザイン博覧会」は七月十五日から白鳥、名古屋城、名古屋港の三会場で開催、十一月二十六日まで行われるが、同博覧会のメイン会場である白鳥中央会場で、期間中の八月十六日、和泉流狂言が上演され、和泉宗家は狂言界の共同社が参加する。

今回のデザイン博覧会内はもとより外園からも参加して催されるイベントに、伝統文化の積極的な参加が薄いなかで、狂言のイベント公演の意義は大きい。

公演は、永六輔氏の司会で、アトラクション「狂言を看よう」。主催は和泉宗家後援会。

狂言装束展と 薪狂言上演

名古屋市制百年記念行事として、八月十七日から八月二十二日まで徳川美術館で「狂言装束展」が

第6回天王新能

8月6日 津島・天王川公園

津島で毎年行われる「天王新能」は、この日第六回をむかえ、八月六日(日)津島市天王川公園の特設水上舞台で催される。午後五時開始。主催は天王新能鑑賞会、津島青年会議所、後援：津島市、津島教育委員会、佐藤町、立田村、八開村。

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

(7月)

23日(日) 名古屋官庁楽団宝生会大会 (来場歓迎)

30日(日) 青陽会定式能 (有料)

(8月)

5日(土) 名古屋新能 (於神楽殿前) (有料)

26日(土) 次妻正宜後援会能 (有料)

27日(日) 久田徹ニリサイタル (有料)

(9月)

2日(土) 山本追善会 (有料)

3日(日) 山金本追善会 (有料)

9日(土) 大観世定式能 (有料)

10日(日) 世雲世定式能 (有料)

15日(祝) 名古屋観世能 (来場歓迎)

16日(土) 名古屋観世能 (有料)

17日(日) 名古屋観世能 (有料)

23日(祝) 和泉宗家能 (来場歓迎)

24日(日) 和泉宗家能 (来場歓迎)

27日(水) 和泉宗家能 (有料)

30日(土) 中日文化センター能楽発表会 (来場歓迎)

(10月)

1日(日) 名古屋準楽会 (来場歓迎)

7日(土) 三寶電機全社大会 (来場歓迎)

8日(日) 三寶電機全社大会 (来場歓迎)

10日(祝) 名古屋花会大会 (来場歓迎)

14日(土) 名古屋花会大会 (来場歓迎)

15日(日) 武田福栄会大会 (来場歓迎)

21日(土) 猫恵会大会 (来場歓迎)

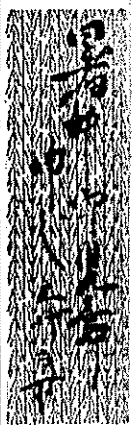
22日(日) 故橋岡久太郎氏追善淡文会大会 (有料)

28日(土) 青陽会定期能 (有料)

29日(日) 寺観能 (来場歓迎)

(◎面につづく)

5月6日・六郎親名披露能
「香第一」保志君、悠志君の熱演。久しぶりの子供狂言のものはのとしたムードが懐かしい。一冊



熱田神宮能楽殿 運営委員会

委員長 熱田神宮権宮司
長谷 晴 男

観世左近

清和 芳宏 芳伸

中日文化センター特別教室

観世元昭

社団法人鏡仙会

観世鏡之丞

観世栄夫

幽詠会

片山九郎右衛門

梅若研能会

梅若万三郎

大槻清韻会

大槻秀夫 大槻文藏

大阪市中央区上町A番7号

梅若盛義

大阪国際フェスティバル能

梅若盛義

名古屋観衛会

山本博通

井上嘉久

名古屋観世九阜会

観世喜之

高吉橋 高木美智 青木武智 加藤保弘 有賀滋子

鳳鳴会

武田志房

藤井久雄

完楽徳久 完治人三

神戸市中央区熊内町二一〇

幽花会

片山慶次郎

千603 京都市北区小山下花ノ木町二番

名古屋淡交会

橋岡慈観

竹翠会 若松宏守

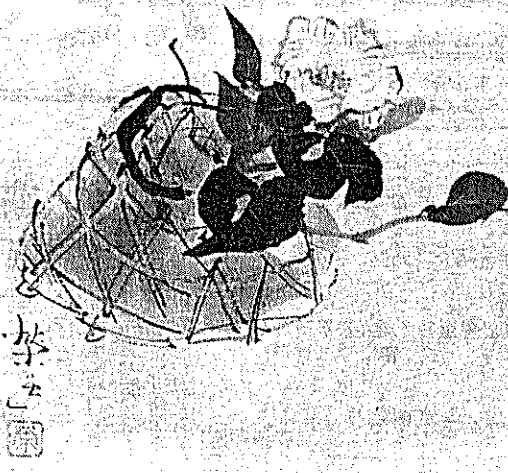
昇が後場の葎社御綱を引き立てる。白(邦久)、赤(徹二)、橋懸での飛返り、勾欄に足を掛け睥睨するところなど、観衆の躍動感が清

198
[6月] NI
18日(日)
25日(日)
[7月] NI
2日(日)
9日(日)
16日(日)
23日(日)
30日(日)
(テレビ)
7月・8月
7月5日
7月12日
(放)

五月雅日記

沙羅双樹

逸 栄 井 二 文 と え



すべすべした美しいなつづき... 夏つばきは、別名を沙羅の木と

明石で初の薪能

7月25日「松風」「土蜘蛛」上演

明石市での薪能の上演が初めて... 有志により切望されてきたが、このたび明石市制七十周年記念行事の一環として「明石薪能」が七月二十五日(火)明石公園(特設能舞台)で開催されることになり、能「土蜘蛛」(シテ久田徹二)が上演される。

よばれています。... 花は純白で五弁花、六月から七月にかけて咲き出します。

清水寺の鐘の聲... 諸行無常の聲やらん... 地主権現の花の色

日	月	演目	会場
3	5	奉迎	明石市役所内
5	5	奉迎	明石市役所内
11	5	奉迎	明石市役所内
12	5	奉迎	明石市役所内
19	5	奉迎	明石市役所内
23	5	奉迎	明石市役所内
25	5	奉迎	明石市役所内
26	5	奉迎	明石市役所内
3	12	奉迎	明石市役所内
10	12	奉迎	明石市役所内
24	12	奉迎	明石市役所内

会長に春日文英氏... 岐阜能楽同好会... 岐阜能楽同好会が設置され、同時に各教場の代表者により岐阜能楽同好会が発足してこととして十年になるが、去る三月理事会で役員改選が行われ、新会長に春日文英氏を選任した。

第24回名古屋薪能

八月五日(土)午後五時半開演

熱田神宮神楽殿前・特設舞台

第五回記念会

衣斐正宜後援会能



武田詠楽会

武田 小 兵 衛
武田 欣 司
武田 邦 弘

財団法人 鎌倉能舞台

中 森 晶 三
中 森 貫 太

山 本 眞 賀

邦 謡 会

梅 田 邦 久
須 部 一 政
清 沢 美 和
今 田 美 和
本 田 勲

壺 泉 会

泉 嘉 夫

初 陽 会

武 田 宗 和

名古屋 橋 岡 会
名古屋市昭和区丸屋町五ノ三五
山田紀子方

笙月会 中 川 雅 章
長浜市地福寺町八ノ二九
電話(059)630630番

毎日文化センター
風 韻 会
殿 島 修 二

名古屋 観 生 会
野 村 四 郎
東京都杉並区永福四ノ三〇一〇
電話(03)3321529
名古屋 観 生 会
名古屋千種区日和町四ノ一〇
小嶋方 電話七五一一八八〇番

下 田 雄 三
豊中市曾根東町四ノ一二二

雄誠会中部地区連合会
名古屋 和 石 会
一 宮 竹 石 会
岐 原 花 石 会
下 原 雄 石 会
萩 原 雄 石 会
高 山 雄 石 会
倭 文 之 屋 社 中 会

松 音 会
泉 泰 孝
泉 雅 一 郎
東京都杉並区宮前四ノ一九一四
電話(03)3333222八二八〇番

大 垣 浦 声 会
名古屋 大垣市竹島町善念寺
住所 京都市左京区下鴨之本町五八
浦 田 保 利

洗心会 奥 村 富 久 子
〒606 京都市左京区永観堂西町二〇
電話(075)7710767番

春 鶯 会
梅 若 善 高
〒565 豊中市新千里南町三丁目1812
電話(06)83117854
〒120 東京都足立区綾瀬二丁目182
電話(03)66041740九

久 田 観 正 会
久 田 徹 二
大倉流小鼓
松 月 会 久 田 舜 一 郎
都 謡 会 前 野 郁 子
松 詠 会 松 山 幸 親

名古屋 修 諷 会
梅 若 修 一
上 田 観 正 会 能楽堂
社団法人 観 正 会
上 田 観 正 会
上 田 拓 貴 弘
神戸市長田区大塚町二丁目一ノ一四
電話(078)6911549九番

豊 嶋 能 の 会
豊 嶋 三 千 春

金 春 欣 三
東京都杉並区成田東四丁目35ノ20
電話(03)3315738二番

弘「野宮」(浦田保利)「船弁」(大西智久) 天宅左近、中野栄一、加藤文義、上田大介。 能「松風」見留(シチ観世鏡之丞、ツレ観世鏡夫、ワキ中村弥三、七八、九一二、一一二一代表。)

第24回名古屋新能

八月五日(土)午後五時半開演 (雨天順延) 熱田神宮神楽殿前・特設舞台

金剛流仕舞 笠之段 百々 康治 地謡 小林忠三
金春流仕舞 松 風 伊藤雄二 地謡 鈴木忠三

観世流 熊沢惠美子 五郎 祖父江修一 十郎 清沢一政
小袖曾我 間 佐藤友彦 寛 敏一 鹿取 希世

火入式 熱田神宮権宮司 長谷晴男
御挨拶 名古屋市長 西尾武喜

草子洗小町 飯富 雅介 河村真之介 藤井啓次郎 藤田六郎兵衛
 後見 水藤元三 地謡 本田 一 殿 藤生 芳雄
 梅田邦久 加藤 保彦 田中 武 祖父江修一

和泉流狂言 引 括 野村又三郎 大矢 高義 後見井上礼之助

鵜飼 西村 欽也 吉田 定男 池田 茂
 後見 戸田 博祐 地謡 稲川 幸三 衣斐 正宜
 玉井 博祐 稲川 幸三 衣斐 正宜
 鬼頭 嘉男 吉田 俊二

宝生流 龍 佐藤 耕司

附祝言 主催 能楽協会名古屋支部
 当日券 二千五百円(前券券 千八百円)
 入場券は市内各プレイガイド、能楽殿、出演楽師宅
 ※火入式終了後、降雨の場合は以後演能を打切らせて頂きますので
 御了承下さい。

〔11月〕 祝(日) 同日
 3日(日) (祝) 同日
 5日(土) (祝) 同日
 11日(日) (祝) 同日
 12日(日) (祝) 同日
 19日(日) (祝) 同日
 23日(日) (祝) 同日
 25日(日) (祝) 同日
 26日(日) (祝) 同日
 3日(日) (祝) 同日
 10日(日) (祝) 同日
 24日(日) (祝) 同日
 会) 池田米寿(鳳声会) 敬
 称略

第五回記念会 衣斐正宜後援会

八月二十六日(土)午後一時始 熱田神宮能楽殿

おはなし 後援会会長 神津 善行
鶴 柴田 昌宏 山名 達郎 宝生 英照
 後見 辰巳 孝 内藤 泰二 衣斐 正宜 高橋 英雄
 武田 孝史 地謡 佐野 恭憲 大坪 喜美雄 寺井 良雄

通小町 西村 欽也 飯島 佐之六 大倉 源次郎 藤田 六郎兵衛 藤生 芳雄
 後見 内藤 泰二 地謡 佐藤 耕司 鬼頭 嘉男 吉田 俊二 武田 孝史

附祝言 主催 衣斐正宜後援会
 事務所 名古屋市中村区名駅3-26-26 平松昌彦方
 電話052-586111
 入場料 一般四千円、学生千円

1989年7月・8月 放送予定
 〔7月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
 23日(日) 観世流「自然居士」浦田保利
 30日(日) 観世流「調「氷」」梅若六郎ほか
 〔8月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
 6日(日) 一調・独吟集「景」清「桜間道雄ほか
 13日(日) 宝生流「社」若「近藤乾之助
 20日(日) 観世流「教」盛「山本順之雄
 27日(日) 観世流「融」藤「井久雄
 〔テレビ〕教育テレビで「趣味講座」仕舞入門
 毎週水曜日午後7時30分より。
 7月26日「人間五十年」
 8月2日(水)「湯谷」(一)▽8月9日「湯谷」(二)
 ▽8月16日(水)「湯谷」(三)
 8月23日(水)「狸々」(一)▽8月30日「狸々」(二)
 (再放送(土)午後6時30分より)
 (放送予定につき変更の節はご理解下さい)

<p>稽古場 名古屋千種区今池四丁目 1513 浅井ビル 電話(三三三)三三七三六</p>	<p>稽古場 大垣市竹島町善念寺 住所 京都市左京区下鴨芝本町五八 浦田 保利</p>	<p>豊嶋能の会 豊嶋 三 千 春</p>	<p>菊扇会 後援会 廣田 泰三</p>	<p>金剛流 景雲会 国際能楽研究会(I.N.I.) インターナショナル能楽インスティテュート (日本・カナダ・アメリカ・ニュージール ド・ドイツ・フランス・台湾) 新居能面の会 宇高 通成</p>	<p>内藤 泰二</p>	<p>佐野 由 於</p>	<p>倉本 雅</p>	<p>金剛 永 謹</p>	<p>廣田 後援会 廣田 陸 一 廣田 幸 稔</p>	<p>喜多 流十六世 宗家 喜多 六 平 太</p>	<p>社団法人 能楽協会 理事長 喜多 流十六世 宗家 喜多 六 平 太</p>	<p>大阪 喜多 会 和島 富 太郎</p>	<p>高安 会 西村 欽 也 飯富 雅 介 杉江 元</p>	<p>福王 茂 十 郎</p>	<p>春 敲 会 金 春 晃 実</p>	<p>廣瀬 瑞 弘</p>	<p>寶生 欣 閑</p>	<p>寶生 欣 閑</p>
---	---	----------------------------------	--	---	--------------	---------------	-------------	---------------	---	---------------------------------------	--	-----------------------------------	---	-----------------	---------------------------------	---------------	---------------	---------------

水無月の舞台から

竹尾邦太郎

「通盛」シテ慈観。舟中、浦の秋色を愛でるツレ（二英）が、俄に冷気を感じて現実に戻り、愛を世の業と悲しむ。とシオルのを見て思わす御頭に右手を載せた細やかな気持。そして、暗海月を埋んで清光なし、と、面をテラス一条の曙光を求めめるかの風情。慈観はそれらを写實的に克明に見せる。クドキで、主従泣く泣く、と両者すつと立つと、へきるにても、と中正すつと奥を見遣るツレを痛まげに後から見守る態のシテの思もよい。中入地、へ涙もともに零るらん、は双シオリ。入水の場は、振り切られて後を追うところなども巧み。へ底の水屑と、の返シに立つたらたら退るとハッとテラシタが、水に沈む時の空気を求める姿も、絶望の表情とも見えて妙。

後シテは面今若。花ノ丸・源氏番文様紅地縫箔、白大口、花菱亀甲文様紺地法被の美しい姿。訣別の盃の場のしんみりとしたクセを地（宗和・邦久ら）が引き立て、一転、後髪を引かれるのを絶ち切るようなカケリは、最後一ノ松に抜けたのが効果的。へ近江の園の住人に、と、武者殿いするかに強々と踏み舞拍子。そしてすると一氣に舞台に入るのが、へ頼を揚げて駆け来る、を生かした。気品の中に深さを見せ、慈観の資性が良く出た。ワキ欽也、僧臨に見せる消雅の境地。（一時間26分）

「鐘の音」シテ友彦・アノ礼之助。金の値を運の音と取り違え、何となく胸に落ちないと思いつつもそこは軽率な太郎冠者、独り合点の独り相撲のはしきぶりを友彦こまかく見せる。その得々としたはしきぶりが痛にさわる主。「あちへ行け、あちへ行け。退りをらう、退りをらう。憎い奴の」は少々シテが気の毒。因に五山筆頭の建長寺の鐘を良しとする台本の中で、共同社は極楽寺を第一とし、建長寺を最下位に置いて、「シテシテシテシテ」ひびき（き）

ふなり、とシオル。下歌・上歌を地（幸・正直ら）に翻わせ、へ慈観として行末を、と運ぶ。へ石の鳥居、は権懸から柱を右手に巻き込むように音高く杖を当てる。へあら面白の花の匂ひやな、は思入れたつぷりに脇正の方を見、施行の場は袖の中程を抱え込み、ワキを持って受けた。額が張り、薄い彩色の肌理（きめ）の荒い面は少々老成して拗けた印象だった。クセを抜き、盲目ノ舞、イロエも抜けた。日想感は、へ見えたり見えたり、と心持伸び上り、へ満目青山は心にあり、と扇をハタタと胸に当てたのは強い感じがした。へ貴賤の人行き違ひの、はスミと、退るところなどの確かな描写だったが、へ今よりは更に狂はじ、は何か弾みをつけるように沈んで杖を捨て安座、双シオリしたが、大仰な感じがしなくても良かった。キリは、へあらぬ方へ逃げ行けば、と、ワキが後から追いつくというより横から縛りつく様だった。ワキ（雅介）とシテ（泰二）の晩年の差を云々してみても詮無い事ではあるが、全体にしんみりとしたムードとは言えず、高踏のワキの滋味が欲しいところだった。（50分）

「酔宴」シテ酔虎・礼之助、アノ友彦・ス（酔）とカラい遊（はじかみ）に掛けての秀句較べは、いみじくも当時の行商人の質の高さを見せつけ、昨今のスッパ紛いが横行する世相を痛烈に風刺するが如くである。

和解に至るはのほのとした味わいは、のけぞって大笑する笑ヒトメに羅如。（17分）

「揚貴妃」シテ英照、ワキ欽也。しつとりとした情緒。三婦人の一に相応しい気品の中にあつたう華やかさと、また哀愁味がよく調和して、熱田社ゆかりの一曲に好舞台を得た。

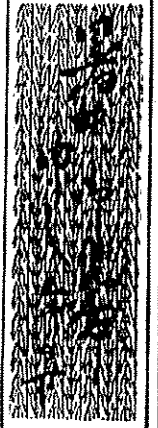
證の鏡を受けて平伏するワキに、へ私語なれど、とワキに向い、シオルシテが、心を取り直して、へされども、と直ス通り。また、恋慕の念に耐えず、へ此奴も友を恋ひ、と心そこにあらざる態に遠く右方を眺め進む胸の裡。更に、覗きいして歩み出すワキに、へよ

「騙法師」シテ泰二・前黄の権柄に金の水衣。一セイ・サシを三ノ松で誂い、へ中有の道に迷

友社
目18-18
184
1393
000
0070
円円円

能と狂言に親しむ会
9月27日 5周年記念能

山本博之師17回忌
9月2日追善能



親睦会 祖父江修一
多治見市日ノ出町2丁目
電話（〇五七二）三六五六

伊勢金春会
村富次
伊勢市市町一四一
電話（〇五七二）二四五六

豊嶋十郎 〒211 松戸市下矢切五五一五 電話（〇四七三）一九八二	京都・高安流 岡次郎右衛門 向日市上植野町地田一ノ五四 電話（〇五）九三四一四〇六	森好会 森茂好 森常好 〒151 東京都渋谷区代々木四一三八一 電話（〇三）37014609	谷田宗二朗 〒603 京都市北区衣笠街道町31-7 電話（〇七五）八五五（〇三）八二	龍吟会 藤田六郎兵衛 名古屋市中区下二丁目一〇番九号 電話（〇五二）五七一五七六三	幸圓次郎 〒164 東京都中野区中央四一四七一 電話（三三八）九四一三番	幸義太郎 〒116 東京都中野区丸山二二二四 都営丸山アパート一三三〇号 電話（三三七）五六七二番	野中正和 〒174 東京都板橋区宮本町五七一 電話（五五八）八四二七番
---	--	--	--	--	--	--	---

森田光春 京都市東山区八坂上町三七六	幸友会 福井啓次郎 福井良久 福井良治 柳原富司忠	桂会 後藤孝一郎	飯島佐之六 〒920 金沢市香林坊2-18-8	大倉正之助 〒101 東京都新宿区下落合二一四一五ノC	大倉源次郎 〒584 大阪府吹田市江坂町五一七一二	亀井俊一 保忠雄 保実雄	前川光隆 前川光長 名古屋市中区御室三橋町一ノ六 名古屋市中区東区一ノ二五 ニッシンビル六階六〇二号室 電話九三五一〇一〇番
-----------------------	---------------------------------------	-------------	----------------------------	--------------------------------	------------------------------	--------------------	---

瀬尾乃武 〒171 東京都豊島区西池袋1-30-10-305	名古屋和泉会 大垣狂言の会 和泉元秀	大蔵狂言会 大蔵彌太郎 基基義嗣	茂山千五郎 茂山正義 茂山真吾 茂山千三郎 京都市上京区中筋通り石薬師上ル	茂山忠三郎 〒606 京都市左京区北白川大宮町47-1 電話（〇七五）七〇二二〇一	名古屋和泉会 狂言共同社	狂言やるまい会 野村又三郎 〒460 名古屋市中区正木二丁目16-25 電話（三三二）七五五三番
-----------------------------------	--------------------------	------------------------	---	---	-----------------	---

伊勢金春会
村富次
伊勢市市町一四一
電話（〇五七二）二四五六

若い御二人の門出に
ふさわしい結婚式場
名古屋 若宮八幡社
各種合会や宴会にも御利用下さい
(駐車場完備)
名古屋市中区栄3丁目35-30 電話(241)0810

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中区千種区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7 9 8 4

振替口座 名古屋 0-36393

購読料 1年 700円

郵送の場合 1年 1200円

一 部 70円

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

- 〔8月〕
26日(土) 衣裳正宜後援会能 (有料)
27日(日) 久田徹ニリサイタル (有料)(番組②面)
- 〔9月〕
2日(土) 山本博之師17回忌追善能 (有料)(番組③面)
3日(日) 金 春 会 能 (有料)(番組③面)
9日(土) 大 衆 能 (有料)(番組③面)
10日(日) 大 衆 能 (有料)(番組③面)
15日(祝) 大 衆 能 (有料)(番組③面)
16日(土) 名 古 屋 観 世 大 衆 能 (有料)(番組③面)
17日(日) 宝 生 会 定 式 能 (有料)(番組③面)
23日(祝) 瑞 鳳 会 大 衆 能 (来場歓迎)(番組③面)
24日(日) 和 泉 会 大 衆 能 (来場歓迎)
27日(水) 能 と 狂 言 に 親 し む 会 (有料)(番組④面)
30日(土) 中日文化センター芸能発表会 (来場歓迎)
- 〔10月〕
1日(日) 名 古 屋 卓 楽 会 (来場歓迎)
7日(土) 三 菱 電 機 全 社 大 会 (来場歓迎)
8日(日) 邦 邦 協 会 大 会 (来場歓迎)
10日(祝) 朝 日 報 社 大 会 (来場歓迎)
14日(土) 名 古 屋 函 花 会 大 会 (来場歓迎)
15日(日) 武 田 楽 会 大 会 (来場歓迎)
21日(土) 瑞 鳳 会 大 衆 能 (来場歓迎)
22日(日) 故 橋 岡 久 太 郎 氏 追 善 淡 交 会 大 会 (有料)
28日(土) 青 陽 会 定 期 能 (有料)
29日(日) 幸 福 会 大 衆 能 (来場歓迎)
- 〔11月〕
3日(祝) 幸 友 会 秋 の 会 大 衆 能 (来場歓迎)
5日(日) 幸 友 会 秋 の 会 大 衆 能 (来場歓迎)
11日(土) 朝 日 報 社 大 会 (来場歓迎)
12日(日) 朝 日 報 社 大 会 (来場歓迎)
19日(日) 朝 日 報 社 大 会 (来場歓迎)
23日(祝) 朝 日 報 社 大 会 (来場歓迎)
25日(土) 朝 日 報 社 大 会 (来場歓迎)
26日(日) 朝 日 報 社 大 会 (来場歓迎)



第24回名古屋新能盛會

狂言「引括」能「鱒魚」

能と狂言に親しむ会

9月27日 5周年記念能

能と狂言に親しむ会(観世流シテ方・梅田邦久師、藤田流笛方・藤田六郎兵衛師主宰)は、一人でも多くの人に能に触れる機会を、と昭和六十年結成され、能楽講座はじめ照明能、ろうそく能、名古屋新能、新作能、セントラルパルク能などを催して能楽の普及に大きな役割を果たしてきているが、きたる九月二十七日(水)熱田神宮能楽殿で「五周年記念能」が催される。当日は藤田師の舞台生活三十年にもあたり、能「半商」狂言「仏師」舞臺子「龍虎」「清経」一瞥「中之舞」などの上演。とくに半商は立花供養の小書で、花道に半商は立花供養の小書で、花道の川瀬敬郎氏が立花。「花」と「能」のコンセプトを求めて上演される。(番組④面)

山本博之師17回忌

9月2日追善能

観世流山本博之師逝いて十七回忌に当たり、山本勝一、山本真賀、山本順之諸師により、九月二日、熱田神宮能楽殿で追善能が催される。午後一時始。

故山本博之師は名古屋観世会として三十有余年にわたり指導に当たりそのゆかりはきわめて深く能楽界の発展につくし、昭和四十二年勲五等双光旭日章に叙せられていた。演能は能「三輪」(山本勝一)「葵上」(梅若六郎)で葵上は古式の小書で上演される。(番組③面)

頭の建長寺の鐘を良しとする台本の中で、共同社は極楽寺を第一とし、建長寺を最下位に置いて、「龍法師」シテ奏二・萌黄の鐘に響きの水衣。一セイ・サシを三ノ松で謡い、ハ中有の道に迷

恋慕の念に耐えず、ハ此寂も友を恋ひ、と心そこにあらざる態に遠く右方を眺め追る胸の裡。更に、暖かいして歩み出すワキに、ハよ

宝福会、三重県教職員連合会、山本博之師、山本勝一、山本真賀、山本順之、能「三輪」など九番はじめ仕舞、連吟など。

野中正和 〒174 東京都板橋区宮本町五七一 電話(五五八)八四二七番	親修会 祖父江修一 多治見市日ノ出町2丁目 電話(八五七)三六五六	清風会 今村嘉勇 岩倉市東新町下境52-11 電話(八五七)七三三八	正風会 〒名古屋市中村区御器所3-23-19 御器所パークマンション802号	衣斐正宜後援会 〒名古屋市中村区名駅三二六二六 電話(〇五二)五八六一二二〇番	宝生流 嘉宝会 名古屋市中村区川名本町二ノ五一	吉田俊彦	竹腰勝一	司宝会 名古屋市中村区島田二丁目三〇一 島田橋住宅三三三電話(八五七)七三七二	金剛流 周星会・名古屋 周星会・岐阜 吉川周子	名古屋金春会 〒名古屋市中村区西崎町三二六 電話(八五七)七六一二二五七	林鉄郎	近藤修彦	渡部道三	寛三男 〔お断り〕暑中広告の掲載は紙面の都合にて勝手ながら七月号、八月号に分けて掲載させて頂きました。願不同と併せ何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。		
翠生駒里翠 名古屋市中東区社ガ丘3ノ1503 電話(〇五二)七〇三三二五七	中日文化センター 謡曲・仕舞教室 名古屋(栄) 岐阜・四日市	賀水会 加賀敏彦	重陽会 菊池重郷 大山市大宇相生五九一六 電話(〇五六)四四五一番	緑名会 田中武 〒488 尾張旭市城山町三ツ池六一九八 電話(〇五六)三三三〇四番	水雲会 水藤元三	松和会 中村和男 各務原市那加桜町2丁目15番地 電話(〇五八三)二七九四番	大阪能楽会館 大西智久 〒500 豊中市北桜塚2-10-3	東京都世田谷区三軒茶屋二一〇三二 電話(〇三)四二二二六三七番	誠交会 奥善助	名古屋観世会	伊勢金春会 中村富次 伊勢市宮町一四一七 電話(八五七)二四五六番	二井栄逸 松阪市殿町1412の3 電話(〇五九八)二二一〇二六	長田驍後援会 〒511-21 津市高野尾町三三五一四六 電話(八五七)〇六九七番	喜多流 山本才 〒名古屋市中村区北千種3-3-10 合同宿舎千種東住宅30号 電話(〇五二)七二二一五七四番	高安流 岡同門会 清水坂水 高利直 森野三郎 藤弘 北田耕三 塩田 中村山 伊田 伊藤久湖 伊藤 清谷 利久湖 信昭	高安流 飯富良人

志月雅日記

螢

えと文 二井栄逸

星の光と螢の光は、まったくよく似ています。
 こないだ、細あみの螢籠を古道真屋で見つけてきましたので、籠の花入の中に「トシ」の代りにこの螢かごをしのばせ、花は、底においた小皿に、カルカヤとカワラ



う会という趣向なのです。半部のシテと、玉露のシテは親子関係ですし、季節も夏から新秋にかけての曲です。この趣向にいたしました。
 玉露は夕顔の娘で、母が突然はかない死を遂げたのち、四歳の時乳母に伴われて筑紫へ下りました。その後、紆余曲折の運命をたどった玉露は、源氏と紫の上のほからいで万事をやさしい花散里に託され、其の後内侍に任せられた。
 源氏物語に取材した数曲のうちこの玉露は例外的感があります。他の曲は、麗しく、哀れに幽玄を第一とするものと違い、物狂風を四番目能に作られていますが、はげしい狂乱とか、救われたい哀れとかいうたぐいの深刻性はなく、むしろ抒情的で、憂愁のうちに一脈の清麗さがたじよう曲であります。
 夏の夜は短かく、半部を終え、玉露の後半になると九時を廻って

演能案内

第四回 久田徹二「能」リサイクル

八月二十七日(日)午後一時半始

独吟 三井寺 久田徹二
 舞臺子 松 久田徹二

大阪城新能

8月23日 能3番上演

大阪城新能は八月二十三日(水)大阪城西の丸庭園で行われる。主催は売新聞大阪本社・読売テレビ、後援大阪府、大阪市、大阪21世紀協会。午後五時三十分始。

演能は、能「張良」(シテ観世鉄之丞)半能「井筒」(シテ梅若盛彦)狂言「清水」(茂山忠三郎)能「紅葉狩」(宝生英照)仕舞・金春流「生田敬盛」(金春晃夷)喜多流「松風」(高林白牛口二)金剛流「善知鳥」(広田隆一)

入場料一般三千円(前売二千三百円)学生二千円(前売千三百円)問い合わせは読売新聞大阪本社

広田後援会能

10月1日 金剛能楽堂

広田後援会は十月一日第七十三回後援会能を金剛能楽堂で開催する。

演能は、能「頼政」(シテ広田隆一、ワキ岡次郎右衛門)狂言「抜段」(茂山正義、網谷正美)能「葵上」(シテ広田隆一、ツレ広田隆一)ワキ谷田宗二朗

前売券四千五百円(当日券五千円)学生券二千円(前売千五百円)〇七五(七八)一八八五、三四二一

山本博之十七回忌追善能

九月二日(土)午後一時始

熱田神宮能楽殿

仕舞 小柳 波

独吟 山 純

舞臺子 山 純

仕舞 小林 八

独吟 山 純

舞臺子 山 純

仕舞 武馬 正和

独吟 山 純

舞臺子 山 純

仕舞 赤広 一雄

独吟 山 純

舞臺子 山 純

仕舞 山田 信吾

独吟 山 純

舞臺子 山 純

仕舞 山田 信吾

独吟 山 純

舞臺子 山 純

富耀会
 柳原 富司 忠
 〒466 名古屋市昭和区山里町七四八
 電話(八三三)一〇三二番
 小鼓教室
 名古屋市中央区 朝日神社内(丸善前)

谷口 正喜
 京都市上京区中立売通室町西入室町スカイハイツ610号

河村 真之介
 603 京都市北区出雲路神楽町二一
 ショックコートビル1103
 電話(〇七五)二五二一四七七〇

河村 総一郎
 466 名古屋市昭和区前山町一丁目二三
 電話(〇五二)七六一四八八二

寛 鉦 一
 吉田 定男

長生会
 鬼頭 喜太郎
 好 信
 大友 英二

助 川 竜夫

第30回 大衆能
 九月九日(土)午前十一時開演
 熱田神宮能楽殿

能楽講座
 能と狂言に親しむ会
 梅田 邦久
 藤田 六郎兵衛

朝日カルチャーセンター
 囃子教室
 小鼓 後藤孝一郎
 丸栄スカイル10階

栄能楽舞台
 名古屋市中区栄五丁目一三番
 電話(二六二)一一八三番

楽諷庵舞台
 名古屋市中区栄五丁目一三番
 電話(八三三)七〇〇一

西川 企画
 〒451 名古屋営業所 名古屋市西区名取
 電話(〇五二)二〇一三
 〒500 岐阜市北野町五丁目一六
 電話(〇五八)二〇九八六九番

葵心庵舞台
 尾張旭市東大道町原田二四九三ノ二
 電話(〇五六一)五〇二三四番
 電話(〇五六一)五〇二三四番
 電話(〇五六一)五〇二三四番

1989年8月・9月 放送予定

〔8月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
 20日(日)観世流「教 盛」山本 順之
 27日(日)観世流「融」藤井 久雄

〔9月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
 3日(日)観世流「阿漕」「放下備」水原 康夫
 10日(日)宝生流「烏帽子折」「鉄輪」金井 章計
 17日(日)観世流「梅 枝」五木 田武
 24日(日)金剛流「住 吉」種田 道雄

(テレビ)教育テレビで「趣味講座」仕舞入門
 毎週水曜日午後7時30分より。

8月23日(水)「狸々」(一)▽8月30日「狸々」(二)
 (再放送(土)午後6時30分より)

9月15日(祝)金春流能「俊 寛」高橋 汎
 9月23日(祝)観世流能「大般若」梅若 六郎

「趣味講座」仕舞入門
 9月6日(水)「羽衣」(一)
 9月13日(水)「羽衣」(二)
 9月20日(水)「羽衣」(三)
 9月27日(水)「能舞台で舞う」(最終回)
 講師 友枝 昭世

(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

金春流 仕舞
 鞍馬 天狗
 広瀬 雅弘
 地謡 鈴木 高寿
 伊藤 瑞穂
 二 弘高寿

山本博之十七回忌追善能

九月二日(土)午後一時始

能 組

舞臺子海 能 組 熱田 神宮 能楽 殿

狂言 魚 説法 佐藤 友彦 井上 祐一

仕舞 東岸 居士 山崎 英太郎

梅若 六郎 河村 祐二

山本 眞賀 山本 眞賀

後見 山崎 英太郎 地謡 河村 祐二

山崎 英太郎 地謡 河村 祐二

山崎 英太郎 地謡 河村 祐二

山崎 英太郎 地謡 河村 祐二

山崎 英太郎 地謡 河村 祐二

山崎 英太郎 地謡 河村 祐二

山崎 英太郎 地謡 河村 祐二

山崎 英太郎 地謡 河村 祐二

山崎 英太郎 地謡 河村 祐二

山崎 英太郎 地謡 河村 祐二

山崎 英太郎 地謡 河村 祐二

山崎 英太郎 地謡 河村 祐二

山崎 英太郎 地謡 河村 祐二

山崎 英太郎 地謡 河村 祐二

山崎 英太郎 地謡 河村 祐二

山崎 英太郎 地謡 河村 祐二

山崎 英太郎 地謡 河村 祐二

山崎 英太郎 地謡 河村 祐二

名古屋金春流同門会番組

九月三日(日)午前九時始

能 組

仕舞 小 眞賀 眞賀 眞賀 眞賀

仕舞 眞賀 眞賀 眞賀 眞賀

仕舞 眞賀 眞賀 眞賀 眞賀

仕舞 眞賀 眞賀 眞賀 眞賀

仕舞 眞賀 眞賀 眞賀 眞賀

名古屋金春会能

九月三日(日)午後一時半始

能 組

仕舞 小 眞賀 眞賀 眞賀 眞賀

仕舞 眞賀 眞賀 眞賀 眞賀

仕舞 眞賀 眞賀 眞賀 眞賀

仕舞 眞賀 眞賀 眞賀 眞賀

仕舞 眞賀 眞賀 眞賀 眞賀

仕舞 眞賀 眞賀 眞賀 眞賀

仕舞 眞賀 眞賀 眞賀 眞賀

仕舞 眞賀 眞賀 眞賀 眞賀

仕舞 眞賀 眞賀 眞賀 眞賀

仕舞 眞賀 眞賀 眞賀 眞賀

仕舞 眞賀 眞賀 眞賀 眞賀

仕舞 眞賀 眞賀 眞賀 眞賀

仕舞 眞賀 眞賀 眞賀 眞賀

第30回大衆能

九月九日(土)午前十一時開演

能 組

喜多流 能 組 熱田 神宮 能楽 殿

女 郎 花 高安 勝久

井 筒 飯富 雅介

鏡 須部 一英

和泉流 狂言 井上 祐一

鏡 須部 一英

和泉流 狂言 井上 祐一

鏡 須部 一英

和泉流 狂言 井上 祐一

鏡 須部 一英

和泉流 狂言 井上 祐一

鏡 須部 一英

和泉流 狂言 井上 祐一

鏡 須部 一英

和泉流 狂言 井上 祐一

鏡 須部 一英

和泉流 狂言 井上 祐一

鏡 須部 一英

和泉流 狂言 井上 祐一

鏡 須部 一英

和泉流 狂言 井上 祐一

鏡 須部 一英

和泉流 狂言 井上 祐一

紅梅記

織茂三郎氏の死、松風、朝日狂言会

七月三日、朝日狂言会の演目をきく。また二十日前後梅雨明け宣言が...

入場券取り扱い C.B.C. 三越百貨店プレイガイド

助川 竜夫 (8月) N 20日(日) 27日(日) (9月) N 3日(日) 10日(日) 17日(日) 24日(日) (テレビ) 毎週 8月23日 9月15日 9月23日 「趣味講座」 9月6日 9月1日 9月2日 9月2日

観世会定式能 (四回)

九月十日(日)十二時半始
熱田 神宮能楽殿

富士太鼓

高安 勝久 吉田 定男 鹿取 希世
佐藤 友彦 柳原富司忠

遊行

柳ヶセ 浦田 保利 中川 雅章
井上 嘉久 地謡 須部 雅章

阿野

井上松次郎 佐藤 友彦 後見 大野 弘之

附祝言

主催名 古屋 観世会
当日券 八千円(自由席)

能千手

後見 宝生 英雄 地頭 辰巳 孝
ツレ 衣斐 正宜

能山姥

金児 晶子 主催 観世会
〔御来場歓迎〕

能恋重荷

西村 敏也 筑 敏一 鬼頭喜太郎
野村又三郎 福井啓次郎 鹿取 希世

友社 118-18 8 4 3 9 3 円 円 円 円 円 円 円 円

デザイン博協賛能 10月18、19日、名城会場で 能楽協会名古屋支部主催

名古屋宝生会定式能 (第33期)

九月十七日(日)午後一時始
熱田 神宮能楽殿

能歌

衣斐 正宜 加藤 純一 吉田 俊彦
柴田 昌宏 福井啓次郎 藤田 六郎兵衛

能雀山

飯富 雅介 吉田 定男 鹿取 希世
西村 敏也 後藤 孝一郎

能熊坂

飯富 雅介 河村真之介 池田 学茂
井上 祐一 福井 良治 竹市 茂

附祝言

主催名 古屋 宝生会
〔有料〕要員券 当日券五千円

鳳鳴会大会

九月二十三日(祭)午前九時始
熱田 神宮能楽殿

能弱法師

笹山 忠 小島 一英 松本 千俊
高橋 正三郎 山本 幸男 祖父江修一

辛都婆小町

浅井 一元 一切 正直 小川 博久
河村真之介 藤田 六郎兵衛

能巻

西村 敏也 河村真之介 助川 龍夫
野村又三郎 柳原富司忠 藤田 六郎兵衛

能遊

山本 一 河村真之介 助川 龍夫
柳原富司忠 藤田 六郎兵衛

能善

長谷川京子 河村真之介 藤田 六郎兵衛
柳原富司忠 藤田 六郎兵衛

能善

武田 文志 武田 友志 武田 清和
武田 志房 武田 志房

能文月の舞台から

竹尾 邦太郎
文字通り夢幻境に入っていく趣に
拍子は踏まず留置。(1時間19分)

能九皇会

〔半幕〕シテ保彦。面若女。
襟白二・紅白段唐織。扇持つ手が
何となくもじもじと聴かし気な

能能と狂言に親しむ会

九月二十七日(水)午後一時始
熱田 神宮能楽殿

中川雅章師は昨年大垣市の市制七十周年記念の能楽大会で「翁」を上演、今回は能「竹生島」のシテを勤める。

善知鳥 長谷川京子 河村真之介 藤田 六郎兵衛
期入 武田 文志 武田 友志

流剛金流 元宗本発行 檜書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
電話 (291) 2488-9 振替東京3-3552
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入
電話 (231) 1990 振替京都1-113

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 0-36393
購読料 1年 700円
郵送の場合 1年 1200円
— 郵送部 70円

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

(9月)

17日(日) 宝生会定式能 (有料)
23日(祝) 鳳鳴会大会 (来場歓迎) (番組①面)
24日(日) 和泉流狂言大会 (来場歓迎) (番組①面)
27日(水) 能と狂言に親しむ会 (有料) (番組②面)
30日(土) 中日文化センター芸術発表会 (来場歓迎)

(10月)

1日(日) 名古屋音楽会 (来場歓迎) (番組②面)
7日(土) 三友電機全社大会 (来場歓迎) (番組②面)
8日(日) 邦楽協進会 (来場歓迎) (番組②面)
10日(祝) 名古屋音楽会 (来場歓迎) (番組②面)
14日(土) 名古屋音楽会 (来場歓迎) (番組③面)
15日(日) 武田流音楽会 (来場歓迎) (番組③面)
21日(土) 瑞穂会大会 (来場歓迎) (番組④面)
22日(日) 故郷岡久太郎追善演劇大会 (有料)
28日(土) 青陽会定期会 (有料)
29日(日) 幸詠会大会 (来場歓迎)

(11月)

3日(祝) 幸友会秋の会 (来場歓迎)
5日(日) 幸友会秋の会 (来場歓迎)
11日(土) 朝日カルチャーセンター能楽発表会 (来場歓迎)
12日(日) 親愛会定式能 (有料)
19日(日) 親愛会定式能 (有料)
23日(祝) 親愛会定式能 (有料)
25日(土) 親愛会定式能 (来場歓迎)
26日(日) 親愛会定式能 (来場歓迎)

(12月)

3日(日) 歳末助け合い協賛能 (有料)
10日(日) 豊泉会 (有料)
24日(日) 豊泉会 (有料)

(演能変更の節はご了承下さい)

デザイン博協賛能

10月18、19日、名城会場で

能楽協会名古屋支部主催

能楽協会名古屋支部(西村欽也 支部長)は、名古屋で開催中の世界デザイン博に協賛して八日本の伝統芸術の真髓「能」のテーマで、きたる十月十八日、十九日の二日間、名古屋城内「本丸ステーション」で公演する。

日本の伝統芸術の真髓「能」

狂言 清水

トモ 清沢一政
胡蝶 祖父江修一
胡蝶 久田 敬二
梅田 邦久

能土蜘蛛

飯富 雅介
西村 欽也
杉江 元

狂言口真似

玉井 博祐
竹内 澄子
戸田 和

紅葉狩

飯富 雅介
西村 欽也
杉江 元

主催 能楽協会名古屋支部

能 薪 能

能「竹生島」狂言「昆布売」

10月7日 大垣 曾根城公園

春日局ゆかりの地
曾根城趾
春日局ゆかりの地として、大垣市の観光名所・曾根城趾の曾根城公園で「曾根城趾・薪能」が十月七日(土)午後四時から催される。

演能案内

鳳鳴会大会

九月二十三日(祭)午前九時始

盛井 久 村上 郁子 木下 義徳

藤 法 戸 高橋 忠 小島 一英 山森 幸男 祖父江修一

景 清 尾関 守彦 村上 清

求 塚 加藤 武 竹島 猛

辛都婆小町 浅井 一元 小川 博久

遊行 柳 山本 一 河村真之介 藤田六郎兵衛 柳原富司忠 藤田六郎兵衛

能巻 松本 千俊 山崎 佐東子 武田 尚浩 地詔 小川 明宏 岡 久

後見 武田 尚浩 地詔 小川 明宏 岡 久

武田 宗和 地詔 小川 明宏 岡 久

武田 文志 地詔 小川 明宏 岡 久

武田 重徳 地詔 小川 明宏 岡 久

木本 仁之 地詔 小川 明宏 岡 久

山森 幸男 地詔 小川 明宏 岡 久

村上 清 地詔 小川 明宏 岡 久

一柳 正直 地詔 小川 明宏 岡 久

松井 弘 地詔 小川 明宏 岡 久

葛 城 石井 鍾子 河村真之介 藤田六郎兵衛 柳原富司忠 藤田六郎兵衛

大和 柳原富司忠 藤田六郎兵衛

和泉流狂言大会

九月二十四日(日)午前十一時始

熱田 神宮 能楽 殿

狂言組

鶏 舞 足立 米子 男 前川 美紀 教 手 林 朝子

磁 石 人 商人 増田 昭典 人 商人 中西 純子

千 鳥 太郎冠者 富田 智之 酒屋 人 藤本 敏

柑 子 太郎冠者 小柳 保志 酒屋 人 井上松次郎

蚊 相 撲 大名 丹辺 文彦 太郎冠者 長坂 登

空 腕 太郎冠者 村松 敦子 主人 酒井 雅子

伯 養 勾 頭 佃野 芳朗 何 某 頭 長坂 登

盆 山 盗 人 小柳 悠志 何 某 井上松次郎

山崎 通い 林 朝子

石河 藤五郎 足立 米子

小島 大 原 木 鼓 まり

貝 尽 し 前原 美紀

中北 宇多子

塗 大名 西野 彰恵 太郎冠者 酒井 雅子

杭 人 商人 高橋 美子 主人 加藤 弘

磁 石 人 商人 高橋 美子 主人 加藤 弘

仏 師 スッパ 中北宇多子 田舎人 鼓 まり

棒 縛 太郎冠者 藤本 栄 次郎冠者 藤田 政行

主 狂 言 共 同 社

(終演予定 五時二〇分)

(御来場歓迎)

狂言 蓮 井上松次郎 井上礼之助 佐藤 友彦 奥川 恒治 西村 欽也 河村 欽也 後藤 孝一郎 藤田 六郎兵衛 塚 清 尾関 守彦 加藤 武 竹島 猛 中川 雅章 木本 仁之 村上 清 藤田 六郎兵衛

中川雅章師は昨年大垣市の市制七十周年記念の能楽大会で「翁」を上演、今回は能「竹生島」のシテを勤める。

候へ、とワキの旅僧(欽也)に回向を乞うのも異ならず、その不審を強引に納得させるのにも喜ぶの人品が邪魔をして妖気めいたものにアシライながら面使も堂々と

床几に掛ることは無く、舞台に入つてからは、毎年数枚の空を、と正中や、下に安座。掛合にワキにアシライながら面使も堂々と

春月雅日記

はつ秋の頃

えと文 二井栄逸

新秋九月になりますと、沼地や池などで羽化し、高地に移って夏をやり過ぎた秋茜(あきあかね)が、紅の色も一入鮮かに、一せいに群(むれ)をなして下りてきます。秋茜という赤トシボは、秋をつれて里に下りてくる天の使者のようなものです。その天の使者を待っていたように、初秋の野辺には花々が咲きみだれます。

きぶね菊、にしきはぎ、りんどう、野菊、蓮華(れんげし)、白露(はくろ)がやってきました。白露は太陽の九月七日頃、この頃になると、花々の葉に降りた露は、暑い夏に見られる露と違い、大ききも小さくなり、あたかも白い粉を吹きつけたように見えることがあるので、白露(はくろ)といわれるようになりました。吹く



名古屋市制百年記念公演 やるまい会 狂言の夕

10月2日 テレビピアホールで

狂言やるまい会(野村又三郎師主宰)は、「名古屋市制百年」を記念して、きたる十月二日、東海テレビホールで「狂言の夕」を公演する。

演目は祝賀の意をこめた「三番奥」と「二人持」「宗論」で東京から野村万之丞師、京都から茂山千五郎師が来演、異流の競演が注目される。

「三番奥」(野村又三郎、佐藤友彦、笛・一増船二、小鼓・福井啓次郎、後藤中野新聞、東海テレビ)

名古屋城夏まつり の演能盛會

日までに十日間催され、能と狂言に親しむ会の企画、能楽協会名古屋支部の協力で、名古屋城を背景とする舞台上に連日、夜のファンタジ

風が心地よいそがれ時になると花野の空は秋茜が舞う舞台となります。このように自然の移ろいは美しいものなのです。私は、この自然の歩みの中で祖先から受けつたものを正しく伝承し、そして新しいものをとんとんと創りだそうと意欲をもちます。その対象に感動し、こころを集めて描いた作品であればこそ、その存在理由があると思えます。人々は、誰でもそうした作品を求めたいに違いないと思っています。

セザンヌが市井人としていかに不能者であり、取り付きにくい人間であり、いわゆる天才型の画家ではありませんでしたか、彼は飽くことなく造形画面をめざした画家であり、雨の日も、風の日もその把握のために燃した執念があったればこそ、人々を感動させたのでありましょう。

リンゴを描きだしたら、それが腐るまでもその造形の把握に取り組んだからこそ見る人はセザンヌの静物に感動したのであります。

(平成元年八月三十一日記)

能と狂言に親しむ会 五周年記念能

九月二十七日(水)午後一時始

熱田 神宮能楽殿

一管中之舞 藤田六郎兵衛

虎 柳原真之介 助川 龍夫
龍 柳原真之介 助川 龍夫

清 経片山九郎右衛門 寛 誠一 大野 誠

舞獅子 乱 河村隆一郎 鬼頭喜太郎
素囃子 藤田六郎兵衛 鹿取 希世

狂言 佛 野村又三郎 大矢 高義

能半 梅田 邦久 立花川瀬 敏郎
師 西村 敏也 吉田 定男 藤田六郎兵衛
立花供養 藤井啓次郎

間 井上礼之助

後見 味方 玄 松山 幸親 橋本 頼道
武田 欣司 地謡 須藤 一政 片山九郎右衛門
橋本 雅夫 清沢 武田 邦弘
祖父江 修一 武田 邦弘

附祝言 主催 能と狂言に親しむ会 (終了予定 四時頃)

入場料 全自由席五千元、学生三千元

取扱い 松坂屋・三越・名鉄・中日
各プレイガイド 池田屋(六二五)
お問い合わせ 五七一一五七六三
藤田六郎兵衛

各地だより 能「調伏曾我」

太鼓・鬼頭喜太郎、間・網谷正美、後見・金剛殿、地謡・豊嶋三三ほか)

入場料 一般五千元、学生二千五百円。

'89 中日文化セン 芸能発表会

九月三十日(土) 午前十時始

熱田 神宮能楽殿

素囃子、狂言、舞獅子、仕舞、連時、連調、連管
など中日文化センター能、狂言教室出演。

〔御来場歓迎〕

名古屋卓楽会秋季大会

十月一日(日) 午前九時始

熱田 神宮能楽殿

〔御来場歓迎〕

秋の邦謡会

十月八日(日) 午前九時始

熱田 神宮能楽殿

素囃子 卷 絹 二木 椰子 河村真之介 助川 龍夫
野 守 高沢寿美子 河村真之介 助川 龍夫
野 佐藤 英生 河村真之介 助川 龍夫

素囃子 采 女 半田 智子 河村隆一郎 藤田六郎兵衛
山 姥 加藤井知子 河村隆一郎 助川 龍夫
素囃子 立廻り 坂野 嘉子 小野 朗 助川 龍夫

素囃子 仕舞 江 口クセ 山本 泉 助川 龍夫
素囃子 老 松 小林富美子 河村隆一郎 助川 龍夫
天 鼓 長谷川田鶴 河村隆一郎 助川 龍夫
素囃子 卒都婆小町 パンシキ 田中 純一 西矢 義雄 助川 龍夫
仕舞 若原 瑞穂

舞獅子 井 筒 深川寿美子 河村隆一郎 藤田六郎兵衛
熊 坂 徳田 文代 河村真之助 助川 龍夫

名古屋 幽花会秋季大会

十月十四日(日) 午前十時始

熱田 神宮能楽殿

素囃子 正 尊 前 加藤 千晴
和 高橋 和哉
義経 藤原 健二
竹内 英雄 山本 泉

仕舞 半 鐘 之 段 坂野 嘉子
舞獅子 松 風 吉川 信得 河村隆一郎 助川 龍夫
舞獅子 善 知 鳥 梅田 邦久 河村隆一郎 助川 龍夫

附祝言 主催 邦 久

〔御来場歓迎〕

観修会秋の会番組

十月十日(祭) 午前九時半始

熱田 神宮能楽殿

〔御来場歓迎〕

素囃子 三 井 寺 林 博 敬 上田 寿夫 安田 茂哉
舞獅子 敦 盛 澄川 幸子 河村隆一郎 藤田六郎兵衛
舞獅子 船 波 加藤 祐子 河村隆一郎 助川 龍夫
天 鼓 内田 隆子 河村真之介 藤田六郎兵衛

素囃子 三 井 寺 林 博 敬 上田 寿夫 安田 茂哉

舞獅子 敦 盛 澄川 幸子 河村隆一郎 藤田六郎兵衛

舞獅子 船 波 加藤 祐子 河村隆一郎 助川 龍夫

天 鼓 内田 隆子 河村真之介 藤田六郎兵衛

〔御来場歓迎〕

多治見市日ノ出町2の2
電話(052)221365六番

仕舞 藤 翠
舞獅子 老 北田 尚子 鬼頭英二 助川 龍夫

舞獅子 養 羽 衣 女クセ 藤沢 悦子
衣キリ 梅田 悦子
老 北田 尚子 鬼頭英二 助川 龍夫

千五郎師が来演、異流の鏡演が注目される。
「三番目」(野村又三郎、佐藤友彦、笛・一増庸二、小鼓・福井俊俊、中・日新聞、東海テレビ)

名古屋城夏まつりの演能盛會
ことしの「名古屋城夏まつり」は世界デザイン博覧会として、とくに能の上演は八月五日から十四日まで十日間催され、能と狂言に親しむ会の企画、能楽協会名古屋支部の協力で、名古屋城を背景とする舞台上に連日、夜のファンタジー・夜能がくりひろげられ、大きな関心をよんだ。



〔写真〕「清経」①シテ清沢一政②ツレ生駒里翠

紅梅記

寄贈本、金春能、二つの追善能のこと
八月二十日前後、庭でこおろぎが鳴き出し、赤トンボが飛びかち、そして二十七日台風来。
九月の秋の能は期待に富む。

この夏は三冊の本を贈らる。まず毛利孝一博士の「脳卒中再体験記・またいたいた命」のこと。M医師はわが家の主治医、中学(旧制明倫)の先輩、故勝沼精蔵博士の愛弟子。趣味は、昨年二月寒といきのある日の診察がもうすむ頃におこされた。治療・調病生活・回復、再び診察室へ。これを記録される。何冊目の著書であろうか。これまでのうち最上の書。なおM先生は狂言愛好者である。

集中治療室前後、在宅回復期備の二部構成、百九十頁の長篇で月別に二年越の理想の文が各頁を刻み、広汎な素養に裏付けされた告白が告白をうむ。複雑な生と死を鋭く凝視する。また診察室にもどられてからの心境はいよいよやさしくかつ深く、まこと有難い。入院時の十日間ほどの日記が載る。始めの方は筆を走らせるだけである。やがて元の字に戻り「朝やけが美し」とある。生の充足時である。

日下十日間催され、能と狂言に親しむ会の企画、能楽協会名古屋支部の協力で、名古屋城を背景とする舞台上に連日、夜のファンタジー・夜能がくりひろげられ、大きな関心をよんだ。

各地だより
能「調伏曾我」
10月8日 豊春会秋の会
金剛流・豊嶋三千春師主宰の豊春会は、十月八日、金剛能楽堂で秋の能を開催する。今回は豊嶋三千春師の舞台四十五年記念に当たり、金剛流では重習・三番習に次ぐ重い能として位置づけられている「調伏曾我」を上演する。午後一時始。

三人の会
金剛流・松野恭徳、宇野恭徳の「二人の会」は九月十日、金剛能楽堂で上演。「二人の会」は今回で丁度十回目。結成十周年の催し。なお第十一回公演は明年九月九日(日)能「井筒」(宇野通成)「藤屋」(松野恭徳)の上演。

大鼓・鬼頭喜太郎、間・納谷正美、後見・金剛流、地盤豊嶋三三(か)入場料一般五千元、学生二千五百円。
豊嶋後援会(京都市東山区知恩院山内林下町四五五、電話〇七五六一一五四〇八番) 松野恭徳、宇野通成

更には十六日先代、先代の親世喜之進追善能。五十回忌と十三回忌をあわせて催す。当主喜之氏は恋重荷。先代の名古屋における信頼は厚く、先代また戦後の名古屋能楽復興に尽力された。先代は気さくな方で、私の能評判記も喜之氏で始ったと思う(新東海八朝日系)か「能」人能楽協会Vで。

九月三日金春能。本田光洋・泉消、金春昇八(てるちか)・船弁慶(か)第二部。一年の成果を問う多彩な第一部がある。年一回の金春能の観能は是非おすすしめたい。得る所あろう。

熊井 昭
筒井 君
坂 徳文
河村真之助
福井啓次郎
藤田六郎兵衛
助川 竜夫
希世

名古屋 幽花会秋季大会
十月十四日(日)午前十時始
熱田 神宮 能楽殿
片山慶次郎
河村大前川 光長
久田舜一郎 杉市和

藤江 小町
富田まさ子
富岡 道代
比江島孝子
河村大前川 光長
久田舜一郎 杉市和

井筒 寛茂
西村 欽也
河村大前川 光長
久田舜一郎 杉市和

重荷 波方 晃
石原 雅子
富田 フク
和泉 千代
小泉いづ子
清水テツエ

武田謳楽会秋季大会
十月十五日(日)午前九時始
熱田 神宮 能楽殿
片山慶次郎
河村大前川 光長
久田舜一郎 杉市和

〔御来場歓迎〕
主 観
祖 父 江 修 一
多治見市日ノ出町2の2
電話(宅)三三三三五六六番

〔御来場歓迎〕
主 観
藤 沢 悦子
梅 田 弘子
別 所 和子
鬼 頭 英二
福 井 啓次郎
藤 田 六郎兵衛
助 川 竜夫
鬼 頭 英二
福 井 啓次郎
藤 田 六郎兵衛
助 川 竜夫

能 楊 貴 妃
西村 欽也
後藤孝一郎
太田ふみ子
松陰 真澄
野中 淳子
並河 益子

〔御来場歓迎〕
主 観
武 田 謳 楽 会
武 田 邦 楽 弘 会

1989年9月・10月 放送予定
〔9月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
24日(日)金剛流「住吉詣」種田道雄
〔テレビ〕教育テレビで「趣味講座」仕舞入門
毎週水曜午後7時30分より。
9月20日(水)「羽衣」(一)
9月27日(水)「能舞台で舞う」(最終回)
講師 友枝昭世
〔10月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
1日(日)観世流「碓氷」観世元洋男 藤田新太郎
8日(日)金春流「富士太鼓」観世本今大 藤田新太郎
15日(日)宝生流「奥盛」藤田新太郎
22日(日)観世流「松坂」藤田新太郎
29日(日)観世流「龍坂」藤田新太郎
◎NHK・教育テレビ(午前9時~10時)
10月10日仕舞・一編
「船橋」桜間雄雄「奥盛」後藤三「葛城」木原康次
柿本豊次ほか
(放送予定につき変更の節はご理解下さい)

若い御二人の門出に
ふさわしい結婚式場
名古屋若宮八幡社
各種会合や宴会にも御利用下さい
(駐車場完備)
名古屋市中区栄3丁目35-30 電話(241)0810

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社
名古屋市千種区千種2丁目18-18
(郵便番号 464)
電話 (731) 7 9 8 4
振替口座 名古屋 0-3 6 3 9 3
購読料 1年 700円
郵送の場合 1年 1200円
一 部 70円

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

〔10月〕	
21日(土)	瑞 恵 会 大 会 (来場歓迎)
22日(日)	故 橋 岡 久 太 郎 追 善 別 会 能 (有料) (番組①面)
28日(土)	青 陽 会 定 期 能 (有料) (番組①面)
29日(日)	幸 福 会 大 会 (来場歓迎) (番組①面)
〔11月〕	
3日(祝)	幸 友 会 秋 の 会 (来場歓迎) (番組②面)
5日(日)	風 韻 会 大 会 (来場歓迎) (番組②面)
11日(土)	朝 日 カ ル チ ャ セ ン タ ー 能 表 演 会 (来場歓迎)
12日(日)	銀 宝 生 会 定 式 能 (有料) (番組③面)
19日(日)	泉 会 定 式 能 (有料) (番組③面)
23日(祝)	和 清 会 大 正 能 (有料)
25日(土)	久 田 能 楽 会 大 正 能 (有料)
26日(日)	久 田 能 楽 会 大 正 能 (有料)
〔12月〕	
3日(日)	歳 末 助 け 合 会 協 賛 能 (有料)
10日(日)	豊 泉 会 能 (有料)
24日(日)	乱 能 (有料)
〔平成2年1月〕	
3日(水)	能 楽 協 会 名 古 屋 支 部 開 初 式 (能 楽 協 会 関 係 者 の み)
6日(土)	名 古 屋 学 生 能 楽 連 盟 学 生 能 (来場歓迎)
15日(祝)	名 古 屋 学 生 能 楽 連 盟 学 生 能 (来場歓迎)
27日(土)	青 陽 会 定 期 能 (有料)
28日(日)	名 古 屋 淡 交 会 (来場歓迎)
〔2月〕	
4日(日)	名 古 屋 宝 生 会 定 式 能 (有料)
11日(日)	名 古 屋 寶 生 会 定 式 能 (有料)
18日(日)	名 古 屋 寶 生 会 定 式 能 (有料)
25日(日)	春 能 (来場歓迎)

(演能変更の節はご了承下さい)

「三番叟」「難波」上演

16日 若宮八幡社神楽殿舞台披露

名古屋総領守・若宮八幡社(名古屋市中区栄三三五)は仁徳天皇を祭神として、大祭の若宮まつりには、かつて披露まつりとして市民に親しまれてきており、また同神社の宝物「福寿草」は、からくり仕掛けで名古屋市文化財に指定されているが、ことし仁徳天皇の生誕千七百年にあたり、記念事業として能舞台機式の神楽殿の運営

八日に舞台披露が行われる。能楽堂は同市康生町の岡崎公園内で木造平屋建、銅板ぶき二百七・三平方。敷地は八百七十六平方。観客席は階段状で三百席。うち五十席は屋根つき。岡崎市は能の愛好者が多く市内十六団体、五千人の建設陣情があり、市町村が本格的な能楽堂を建設したのは全国でも珍しい。

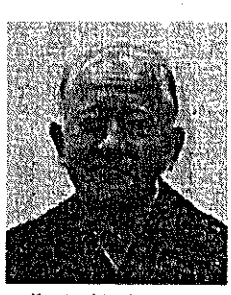
舞台披露は二十八日午後四時から落成式につき、四時五十分から新能「翁」の上演。翁・観世栄夫、千歳・観世桃夫、三番叟野村又三郎、面箱野村信行、笛・藤田六郎兵衛、小鼓・後藤孝一郎、福井良治、後藤嘉津幸、大鼓・河村繪一、後見・鈴木一雄、武田欣司、地頭・梅田邦久諸師ほか。

さらに十月二十九日に岡崎市・岡崎市教委による能楽同好会大会。十一月には親善会(三日)龍泉会等双光旭日章受章。

岡崎に能楽堂誕生

岡崎城二の丸能楽堂

10月28日 舞台披露「翁」



和泉流狂言方・井上松次郎氏は名古屋市長に就任して、市功績者表彰を受賞、十月一日記念式典に参列、表彰を受けた。氏は名古屋狂言共同社代表、能楽協会名古屋支部副支部長、支部長を歴任、昭和五十四年度名古屋市芸術賞受賞、昭和六十三年勲五等双光旭日章受章。

井上松次郎氏が名古屋市政功績者表彰

(四日) 幸部会(二十六日)などの演能が予定されている。

附 祝 言
大和舞
主 催 猶
熊 沢 恵 美 子 会

その遊輪をバネにしてすら、島の海士の月にだに、と水桶にやさしく手を添えて汲みしめ、と、途中左袖被り腰を屈めて松の前を廻って常座からするすると松に寄

ば妻と別れなければならぬのに、敢えて目を開けて貰うという、その強烈なエゴを元秀は一所懸命に見せる。だからこそアド表・元弥

「祿宣山伏」狂言共同社同人の総出演。当初予告の番組は「三入片輪」だったが、新聞社共催がこれを急遽させたか...

袖に風を孕ませ、野外狂言の風情一入である。誰かされ浮かされて(ほう)けたアド元秀が、時にふと師匠の顔付を見せるのも愛敬

を分け合っているところから来る生々しさは少々辟易。(24分・8月19日・新狂言・於栗公園)

日本芸術院会員	
故橋岡久太郎27回忌追善別会能	
十月二十二日(日)午前十一時開演	
能 葵	熱田 神 宮 能 楽 殿
能 朝	野 口 敦 弘 一 郎
能 葛	飯 富 雅 介
能 女 郎	飯 富 雅 介
能 幸 謡	飯 富 雅 介
能 龍	飯 富 雅 介
能 百	飯 富 雅 介
能 胡	飯 富 雅 介
能 海	飯 富 雅 介
能 草	飯 富 雅 介
能 子	飯 富 雅 介
能 洗	飯 富 雅 介
能 小 町	飯 富 雅 介
能 草 子	飯 富 雅 介
能 大 仙 供 養	飯 富 雅 介
能 大 仙 供 養	飯 富 雅 介
能 大 仙 供 養	飯 富 雅 介
能 大 仙 供 養	飯 富 雅 介
能 大 仙 供 養	飯 富 雅 介

二十周年記念	
幸 謡 会	
十月二十九日(日)午前十時始	
能 龍	飯 富 雅 介
能 百	飯 富 雅 介
能 胡	飯 富 雅 介
能 海	飯 富 雅 介
能 草	飯 富 雅 介
能 子	飯 富 雅 介
能 洗	飯 富 雅 介
能 小 町	飯 富 雅 介
能 草 子	飯 富 雅 介
能 大 仙 供 養	飯 富 雅 介
能 大 仙 供 養	飯 富 雅 介
能 大 仙 供 養	飯 富 雅 介
能 大 仙 供 養	飯 富 雅 介
能 大 仙 供 養	飯 富 雅 介

紅梅記

谷川徹三先生追憶、演能、深沙大将のこ

十月一日名古屋市制百周年記念式典あり。井上松次郎氏(狂言共

ここで(注、人工的洗練を加えれば加えるほど、自然にみえ

立教の予科で文学概論(昭和十

一、モウルトン著文学の近代的研

文論(アラン)を教わった。きれ

いのでやさい東西の字を黒板に書

かれる。卒論も先生にみていただ

く。W・ペイターの「ルネッサン

ス・芸術と宗教」を、それから五

十年余そつと師事した。奥様との

円空旅行同伴・放送立会・食事・

鼓鬼頭喜太郎、後見・吉田俊彦、

衣斐郷志、地謡・内藤泰二、衣斐

正宜、鬼頭喜男、佐野登、稲川寿

一、寺部一威、浦野正二、織田哲

が公開される。

開演は午前十時から午後五時。

観覧料一般千円、高生七五百円、

小中生五百円。(十月二十日休演)

物に入れていた。これからは先生

のお声を思い出しながら種々著書

を眺むしかな。

雲上の先生に「そもさん」「説

破」「生とは何でしょうか」先生

曰く「生涯一書生。人間が人間に

なることです」。笑顔をもちて。

私の追憶は止まる。念仏三・四遍

唱えた。天使祝詞も。

付谷川徹三先生は能を愛され、

法政館の所長であり、花伝書の

現代訳もされる(良書)。野上豊

一郎、弥生子夫妻とは親交があっ

た。その功績大。

なお私は卒業後英文科の助手に

なるはずであった。それが就職

風韻会能

十一月五日(日)午前十時半始

熱田神宮能楽殿

組

運吟頼 政

仕舞三 院

五之 院

女 足立悦子

能 丸

替之型

舞獅子通 小町

舞獅子 戸

舞獅子 山田富美

〔御来場歓迎〕

近藤 幸江

岡崎市鴨田本町十一ノ三

電話(052)二二二五九

〔御来場歓迎〕

近藤 幸江

岡崎市鴨田本町十一ノ三

電話(052)二二二五九

〔御来場歓迎〕

近藤 幸江

岡崎市鴨田本町十一ノ三

電話(052)二二二五九

〔御来場歓迎〕

近藤 幸江

岡崎市鴨田本町十一ノ三

電話(052)二二二五九

名古屋宝生会定式能(第433期)

十一月十九日(日)午後一時始

熱田神宮能楽殿

組

花月

飯富 雅介

吉田 定男

福井 良久

藤田 六郎兵衛

井上 祐一

永井 喜美

山本 信隆

石原 謙子

村瀬 幸子

名古屋宝生会定式能(第434期)

十一月十九日(日)午後一時始

熱田神宮能楽殿

組

花月

飯富 雅介

吉田 定男

福井 良久

藤田 六郎兵衛

井上 祐一

永井 喜美

山本 信隆

石原 謙子

村瀬 幸子

(10月) 22日(日)

(11月) 5日(日)

12日(日)

19日(日)

◎NHK

11月3日

11月22日

能楽

片山清司

梅田邦久

大槻文蔵

観世

松山幸親

加賀敏彦

高橋一

中川雅章

葉月・長月の舞台から（その一） 「久田徹二・能リサイタル」 本博之17回忌追善能「金春会」 「大衆能」

竹尾 邦太郎

「小鍛冶・黒頭」 シテ徹二。珍しい黒頭の小書で、前シテが面白かった。面は喝食、所謂半僧半俗の面でその曖昧味がどことなく化身を暗示する。茶地経活腰巻の装束が、右手に稲穂を持つ。幕内からの朗々とした呼掛はワキ（雅之助）の心胆に響くこと充分。草薙ノ剣の武勇譚を描写するクセなど、ワキにアキラウ辺りも思い入れたっぷりに、へ拍も立ち退けと、と、キッと面を切り、すつくと立ち上る勢いは気力充実して、強く拍子一つ踏むのが文字通り、怒ち、敵を蹴散らす趣だった。中入地に一ノ松に抜け、勾欄に寄って下居し、左手を載せて下を見ながらの狐の狐に扮し、更に、へ御力をつけ申すべし、と遙かに平伏するワキを見込み、稲穂を後手に奪に走り込むが、稲穂はふっさりとした尻尾そのもの、最後に本体を表わすところを加突に見る思いだった。

後場はワキの、へ誦上再拜、でシテが半膝で下半身を見せ、早苗で一氣に一ノ松に出て左足を勾欄に掛ける。その姿は両袖をびんと張った石橋の小獅子に似、猛々しい黒頭は金色の牙飛出の面と相俟つて如何にも靈狐。舞動も俊敏さの中に重厚味が感じられ、ワキと相俟つたとき台上静めき合うような重畳感があった。へ天地に響きて、と面を切る大ききまよく、キリは、へこれまでなりと、と狐足で跳上ると三ノ松に走り、飛び返ってトメた。地は邦弘・正人ら。一部歯切れが悪く残念。（57分・8月27日・久田徹二「能」リサイタル）

「三輪・諸神楽」 シテ勝一。前は面深井、水晶の数珠を持つ敬虔な初老の婦人の佇まいは、夜寒に衣を所望する辺りも傾まじやかで静謐なムード。後は黒頭折・白地黒狩衣・緋大口、玲瓏たる増の面の神々しさが四辺を払う。クセに床几を立ち作物を出す。へ糸線

友社 18-18 84 393 円内 000 70

能 催 2番

動協賞能「はきたる」十二月三日（日）熱田神宮能楽殿で、協会支部能楽師の出演により、能四番、狂言二番、狂言により上演される。力なき、真力なき、...

した被衣の下からゆくり打杖が現われ、被衣を取ると腰に巻きつけてゆく無言の庄迫感が素晴らしい。拮抗するワキ也も充実ぶりを示した。（56分・9月2日・山本博之17回忌追善能）

「小鍛冶」 鬼頭尚久君の初シテ。前後共直面。そのためばかりでなく、謡の口吻もきつぱりと張りがあり、挙措きびきびと小気味よく爽快だった。前シテ、へ遠山にかかると、と右を眺める辺りも堂に入り、草薙剣の働も仲々のもの。中入来序で壮重に構へ入り、一ノ松過ぎてすらすら退いてゆく辺りの呼吸も大人顔負け。後シテ、壇上相俟つ打つ気魄にも真剣味があった。（56分）

「景清・松門ノ出」 シテ光洋。ツレ丸（芳樹）に伴うトモは金春流のためワキ方（雅介）が勤める。そのためシテとの問答に劇的緊迫感が生れて舞台が締まる。シテは大口姿で、名のある武士の成れの果の印象が強く、自己の生き様に嫉妬を覚え、それを客観視も出来ようという一種の諦観も見せる。ツレとトモを追い帯した後の述懐には寂寥感一入。地との掛合に屈折した心情を吐露し、へ腹立ちや、と両手を大きく開いて打ち合わせる激情と、行末の不安に、へ腹腹しく由なき言ひ事、と大仰に両手を掲げてから合掌してワキに許しを乞う弱気とが、鷹屋の中の閉鎖的な小世界で錯綜するところが象徴的で興味津々だった。床几に掛けた合戦譚では、鷹屋を出た解放感もあり、その得意を光洋は生々として見せる。心理の陰影を踏えた現代的な演出は、キリの、へさらば留る行くぞとの、で別れを促すかに娘丸を一寸押す辺りにも覗えた。シオリ留った。（1時間23分）

「女郎花」 シテ長田（喜多）、遠来の地謡（丹芳・宗生ら）に励まされて好演。就中、前シテ、女郎花を手折らんとする他（勝久）を咎める問答での如何にも腹のすわった潔癖な老翁ぶりや、古歌を解する風雅の僧と知った後で逆に一本手折れと促すところ、また女郎花をめぐる謂れを説明する問答での親密度を地してゆく辺りなど、神経が長く行き届いていた。アイ（高橋）の語りも立派。後はツレの敬鐘のような謡に興を削がれたが、変声期の少年の起用のむすかしさを考えさせられた。なお箱は六郎兵衛が代った。（1時間19分）

「鏡見」 初めて鏡なる物を見

秋の叙勲

和泉淳子 日本史上初女性狂言師誕生記念
和泉祥子 十世三宅藤九郎襲名
和泉元彌・金岡初演披露

清手 金原 孝典 高井 真智子 吉田 孝一 後藤 孝一郎 吉田 定男 後藤 定男 鹿取 希世 鹿取 希世

料理 蓬菜軒

本 店 熱田区神戸町三四 電話(051)868678
神宮東門店 熱田区神宮一 電話(052)559800

二井栄逸師画抄集

90 能画カレンダー

ご好評を頂いております能画カレンダー1990年版。B3 (タテ51.5cm×ヨコ38.0cm) 表紙とも7枚の美麗カレンダーです。

- ◎ 予約特価 1部 1100円、郵送の場合送料とも1部 1450円 (2部以上の場合、部数にかかわらず送料は一律500円、例・3部の場合送料とも3800円)
- ◎ 予約申込み期限 10月30日(それ以後は1部 1800円、ただし部数によりお応えできない場合がありますのでご理解下さい)
- ◎ お申し込み方法 ハガキで部数明記のうえ当社へお申込み下さい。代金は振替、切手、現金書留いずれでも結構です。

申し込み先 能 楽 の 友 社
〒464 名古屋市中区千種区千種2-18-18 電話(052)731-7984
振替口座 名古屋 0 - 36393

た男（祐一）己の顔が映る不思議に無邪気にはしゃぐ。早速妻（友彦）への土産とするが、使用法を知らぬ妻は綺麗な裏面を喜ぶ。果して表を見た妻は、そこに女を見や夫の説明を聞かばこそ、ヒステリックに地団駄を踏む。「さて、目に出る、とはこのことか。祐一、友彦のコンビに脂がのってき」（22分）

「井筒」 シテ邦久。作物の井筒は又の低い方で、井筒の女の成長の過程を暗示する。邦久はそれを充分考慮し、へ葉平の面影、と水鏡を見込むところでは、闊り寄って身を乗りださんばかり。膝を着いて左肘を井筒に掛け、縋りつかんばかりの姿に渾やかな恋慕の情を追真的に見せた。喜夫・徹二との並ぶ番組は如何なものか……。

「乱」 シテ澄子（宝生）。扇面散しの赤地唐織を蓋折り、赤地に金の青海波文様大口。恰幅の良さが頻々に相応しく、酔歩波を蹴立てる乱れ足など旨かった。地は富四夫・孝門ら。後見は泰二・勝一。（35分・9月9日・大衆能）

付記 三番とも季節感あり大衆能を標榜するこの会に相応しいが、「女郎花」は適当か……また、啓蒙のため、と言われればそれ迄だが秘曲「乱」もどんなものか。もし披キの場に使われるなら尚更。更に、狂言「鞍馬天狗」「山姥」「乱」と並ぶ番組は如何なものか……。

面打教室 於名古屋・栄朝日神社

毎週木曜日及び土曜日(それぞれ月4回)
(教室の見学・能面お求めになりたい方お気軽にお越し下さい)

日本能面巧芸会

会長 林 龍 雲
事務局 名古屋市中区錦1丁目3-31 丸満ビル3F 昇栄化学内 電話(052)211-4451

能楽大会のビデオ撮影は西川企画へ!

舞姿の勉強と記念に是非どうぞ!

当社のビデオ撮影はNHKのテレビ放送番組を20年間制作してきた専門技術により、きっとご満足いただける自信があります。

ビデオプロダクション 西川企画

テレビ放送番組企画制作
テレビCM企画制作
記録ビデオ撮影

名古屋営業所(〒451)名古屋市中区名駅2-20-3輪の内荘 小原方 電話(052)571-5816
(〒500)岐阜市北野町20-2 TEL (0582) 63-9869

株式会社 セントラルパーク

本社 名古屋市中区東区泉1丁目23-36(NBN泉ビル)

PHONE 052-961-6111
F A X 052-953-2910

定家 二井栄逸

えと文

去年の暮、青山高原へスケッチに出かけたことがありましたが、その帰りのこと、山峡の道を通りぬけた瞬間、目の前が急にひらけ一面にそよぐ枯尾花が夕日に映えて、何とも素晴らしい美しさに出会いました。

それこそつかの間、かいま見た美しさでしたが、いつまでも心に残る風景です。

十一月半ばを過ぎると、野に山に照葉(てるは)の色どりを見せていた木の葉は一枚一枚、ひらひらと舞い落ちて、冬枯れの景色へと移ってゆきます。

ひっそりとかたすみにも赤く染まった葉が、

私はよく寒菊を霜の菊と呼びますが、霜の降る頃になると、葉が美しく紅葉して、黄色の小花とよく調和して、霜枯れの野をいろどりますし、つわぶきは枯れ野に鮮黄の灯を燈します。

私は、このような物さびた野が



式子内親王と申し奉るあり。初めは、賀茂の斎宮にそなわり、程なくおりのみせ給うに、定家卿及ばずながら御志浅からざりけり。或る時参り給いて、「歎くとも恋うとも迷わん道やなき、君かつらぎの峰の白雪」と、口ずさむように申させ給う。この御けしからずみめわろき人なりければ、斎院御通しにも及ばず、そのおんつらにてやとばかり仰せられて、うちそぶかせ給へば、御言葉の下より定家、「さればこそ夜とは契れかつら

ぎの、神もわが身も同じころに」と、よみ給いけるとなん。史実からも、年輪から考えてもこうした事実は考えられませんが、式子内親王は歌人としてすぐれた才能の持主であり、其の師、藤原俊成の子として生れた定家も当時の歌壇の有力な存在でありましたから、二人の間にこのような説話が伝えられたのも王朝的な情趣といえましょう。

幽遠のななから伝わってくる凄麗な哀愁と苦惱、清純な愛欲がもたらす生死を超えた人間の無限の悲歎、奥深い象徴詩曲のような後半を意識しての前半の舞台も又すばらしいのです。

北国の旅僧が定家のゆかりの、時雨の亭に雨やどりしている、式子内親王の霊が現われ、定家に思われたことから、その執念が、嵩となつて墓石にはいまいと、悲恋の苦しみに耐えられないことを語ります。

さびさびとした動きの少ない初回にも驚いしれぬ霜枯れの物さびた風趣がたまたまよいです。曲見に無色唐織をつけたシテは他の曲にもよく見られるシテの姿でありますが、この曲特有の生命力の充実と、修辭の典雅さが見るものを幽遠の世界にひびきかたててゆくのです。(平成元年十月三十日記)

各地だより

能「融」十三段之舞
梅若万紀夫能の会
大阪文化祭参加公演
第四十五回梅若万紀夫能の会大阪公演は十一月十九日(日)大阪能楽会館で開催。

大阪 梅若万紀夫能の会
第四十五回梅若万紀夫能の会大阪公演は十一月十九日(日)大阪能楽会館で開催。

比舞「真盛」キリ(泉 嘉夫)
「班女」舞アト(長山礼三郎)
「善知鳥」(梅若萬紀夫)
狂言「栗焼」(茂山忠三郎、安東伸元)
能「融」十三段之舞(梅若万紀夫、ワキ福王茂十郎、笛・一噌幸弘、小鼓・久田舜一郎、大鼓・大倉正之助、太鼓・三島元太郎、間・茂山忠三郎、後見・泉嘉夫、中村裕、地謡・長山礼三郎、阿部信)

梅若万紀夫能の会

梅若万紀夫能の会
梅若万紀夫能の会
梅若万紀夫能の会

能「龍田」(シテ仲村勇)狂言「千鳥」(善竹忠重)能「通小町」(雨夜之伝)シテ梅若修一、ツレ梅若盛義)能「安達原・黒頭」(シテ井戸和男)ほか狂言。

梅若万紀夫能の会
梅若万紀夫能の会
梅若万紀夫能の会

故 洪井義信師の思い出

故 洪井義信師の思い出
「初花よりも珍らかに」
「尚謡」坂本英夫氏が刊行

謡の口語訳「謡謡集」、能謡誌「尚謡」を刊行する坂本英夫氏(神戸市兵庫区下沢通二丁目一六四〇七)は、親世流シテ方。故洪井義信師の思い出をまとめた「初花よりも珍らかに」と題する著作を刊行した。

洪井義信師は大正九年一月生れ。三十歳を過ぎて職分家の内弟子となり、三十年洪井鶴声会で師範披露能、五十七年重要無形文化財能楽総合指定保持者、日本能楽会会員、神戸観世会をはじめ関西能楽界に活躍、五十八年八月十一日逝去。

内容は全四十五頁。「出会い」「工具時代」「書生時代」「洪井義信師の活躍」「初花よりも珍らかに」の各章にわかれ故人の人物と幅広い活躍を述べにふさわしい著作である。十月十一日発行。

問い合わせは「尚謡」発行所、坂本英夫氏(電話〇七八一五七八一〇五三五番)

之、森俊勝)「俊寛」(後藤裕子、中村朝子、小林晴、赤地哲夫)「恋重荷」(関谷正一、大前貴久、枝戸村孝次)「山姥」(坂井満、

久田観正会秋の会

十一月二十六日(日)午前十時始
熱田 神宮 能楽 殿

紅葉狩	竹内モハル	松風	間山美恵子	賀茂	近藤とこ代	教	梅村 辰子	羽衣	服部喜美子	杜若	村松 綾	葛城	平野 裕子	天鼓	露木サチ子
吉野天人	吉田 定男	清経	久田舜一郎	猩猩	久田舜一郎	猩猩	久田舜一郎	猩猩	久田舜一郎	猩猩	久田舜一郎	猩猩	久田舜一郎	猩猩	久田舜一郎
木賊	岩田 春江	井筒	吉田 定男	班女	後藤孝一郎	卷絹	後藤孝一郎	弱法師	後藤孝一郎	山風	吉田 定男	山姥	後藤孝一郎	鸚鵡小町	久田 徹二

歳末助け合い協賛能

十二月三日(日)午前十時半始
熱田 神宮 能楽 殿

泰山府君	後藤孝一郎	雁	井上礼次郎	三井寺	河村真之介	半	吉田 定男	三井寺	河村真之介
泰山府君	後藤孝一郎	雁	井上礼次郎	三井寺	河村真之介	半	吉田 定男	三井寺	河村真之介

大蔵弥右衛門を襲名
国立能楽堂で大蔵会

大蔵弥右衛門を襲名
国立能楽堂で大蔵会

大蔵弥右衛門を襲名 国立能楽堂で大蔵会

「大蔵彌右衛門虎教二百五拾年 記念大蔵会」が十月二十二日、国立能楽堂で催された。

この会は二十四世宗家大蔵彌太郎が彌右衛門、長男基綱が彌太郎、次男基義が吉次郎を襲名する記念会。...

紅梅記

一帖、大蔵会、絵入狂言記説

十一月三日、文化の日の前に紅い梅の鉢植えを求め、九月九日重陽の節句には白と黄の鉢しなな...

十一月は能・墨染松(金剛松)が舞われる。またこと久方振り、必見。また名古屋市政功績者表彰を受けられた井上松次郎氏(七五歳)...

十月二日は福岡久太郎氏(芸術院会員、能)の追善能。福岡能の愛好者多く、観世左近元滋・元正二代の大道が開かれるのに喜ぶ...

能「隅田川」上演

岐阜誠交会(奥善助師)

「秋季能楽大会」を十一月五日、岐阜市市民会館大ホールで開催、能「隅田川」...

に心がはずむ。前後したが前半は風情十分であった。...

五流の「仕舞」観賞

明寿一月九日能楽殿

能楽友の会では、能・狂言鑑賞のための多様な企画を催しているが、明寿一月に特別例会として「五流の仕舞をくらべて観る」...

新・彌右衛門氏は枕物狂。...

曲名「屋島」「松風」「舟弁慶」

講師・観世流・梅田邦久師、金春流・本田光洋師、宝生流・衣笠正宣師、金剛流・宇高通成師、喜多流・長田順師。

参加申込み、能楽友の会(名古屋)電話052-727-7211、...

◎面協賛能のつづき

Table listing names of performers and their affiliations, such as 野村文三郎, 佐藤友彦, 後見 戸田 澄子, etc.

紅葉

附祝言

入場券 千五百円(全自由席) 前売券 各出演演師宅 お問い合わせ熱田神宮能楽殿 (電話052-682-1751)

壺泉會能

十二月十日(日)午後一時始

熱田神宮能楽殿 講演 能と歌舞伎 南山大学文学部教授 安田文吉

三井寺

玉井 博祐

西村 欽也 高安 勝久 河村真之介 鹿取 希世

株式会社 セントラルパーク 本社 名古屋市東区泉1丁目23-36(NBN泉ビル) PHONE 052-961-6111 F A X 052-953-2910

名古屋市制百年記念 祝賀乱能

平成己巳歳師走下四日 巳之下刻

(十二月二十四日午前十一時始) 蓮葉富春殿門坤申(ひつじさる)

御能奉行

長谷晴男

高砂

友彦

末広

後藤孝一郎

西王母

大野弘之

福之神

鬼頭嘉男

熊坂

水藤元三

鹿取

河村繪一郎

井上

藤田六郎兵衛

鬼頭

吉田定男

草子洗小町

飯富雅介

玄象

小島一英

狂言

竹内澄子

釣針

吉田定男

天鼓

竹内澄子

門鑑千五百文

熱田神宮能楽殿運営委員会

友社 18-18 8 4 3 9 3 0 0 0 円円円

賞

十回の授賞が行われてきて...

長月の舞台(その二)と神舞月の舞台から

「観世会」「舞雲会」「九臈会追善別会」「宝生会」「淡交会追善別会」

「富士太鼓」

「富士太鼓」シテ盛義。物着者に水衣を脱ぎ、舞衣を重折って鳥兜をつける...

「禁野」

「禁野」とは禁猟区。隠密裡こそ悦楽に、隠れもない「射手」と広言して仰らぬシテ大名(松次郎)は通りがかりの人...

「恋重荷」

「恋重荷」シテ喜之。重荷に挑む前シテ。女御を思慕する心の丈(たけ)を、「持ち上げる」所作に凝縮して見せる...

「竹の子」

「竹の子」隣の畑へ出た竹の所有権を主張してシテ敷主(弘之助)が庇理屈をこねる...

「雲雀山」

「雲雀山」シテ興道。前は。へた道狭き埋草、と子方にアシ...

「一期長」

「一期長」前シテ雄三、互いに面識のない朝長所縁の二組の人々...

「因幡堂」

「因幡堂」大盃でぐいぐい飲む女に又三郎が畏怖する顔がよい...

「姑・梓ノ出」

「姑・梓ノ出」シテ盛義。襟白二・白摺袴・無紅唐織は萌黄紺段蒲公英文様...

「諸神楽」

「諸神楽」の二番で、「諸神楽」は従で舞うとあるが詳細は書上げなく、今回は五段神楽(藤田流)...

福之神 鬼頭 嘉男

近藤 幸三 杉浦 幸三 佐久間 健治 杉浦 幸三 佐久間 健治

城 割烹・小料理 ●熱田神宮能楽殿喫茶部 ●住吉小路(中区栄3-10) 電話 241-0248

外科・せけいけい外科・皮膚、泌尿器科 東山整形外科 TEL 781-7835 東山公園駅下車 オークランドビル2F

観世流・金剛流 宗家本流行元 檜書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
電話 (291) 2488-9 振替東京3-3552
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入
電話 (231) 1990 振替京都1-113

能楽の友

発行 能楽の友社

名古屋市中千区千種2丁目18-18

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋 0-36393

購読料 1年 700円
郵送の場合 1年 1200円
一 部 70円

◆演能カレンダー◆ (熱田神宮能楽殿)

- 〔12月〕
24日(日) 名古屋市制百年記念乱能 (有料) (番組①面)
(平成2年1月)
3日(水) 能楽協会名古屋支部福初式 (能楽協会関係者のみ)
6日(土) 名古屋学生能楽連盟学生能 (来場歓迎)
15日(祝) 名古屋清韻会 (来場歓迎) (番組②面)
27日(土) 青陽会定期能 (有料) (番組③面)
28日(日) 名古屋淡文会 (来場歓迎)
- 〔2月〕
4日(日) 名古屋宝生会定式能 (有料)
11日(日) 名古屋観世会定式能 (有料)
18日(日) 名古屋九世会定例能 (有料)
25日(日) 名古屋春蔵 (来場歓迎)
- 〔3月〕
4日(日) 梅猫会能 (有料)
11日(日) 大蔵狂言會 (来場歓迎)
18日(日) 大蔵月会60周年記念 (来場歓迎)
21日(祝) 高安会 (有料)
25日(日) 豊泉会 (来場歓迎)
- 〔4月〕
1日(日) 中野電力会社大 (関係者)
7日(土) 中野電力会社大 (来場歓迎)
8日(日) 中野電力会社大 (有料)
15日(土) 中野電力会社大 (来場歓迎)
21日(土) 中野電力会社大 (来場歓迎)
22日(日) 中野電力会社大 (有料)
28日(土) 中野電力会社大 (来場歓迎)
29日(日) 中野電力会社大 (来場歓迎)
30日(休) 中野電力会社大 (来場歓迎)
- (演能変更の際はご了承下さい)

第11回観世寿夫記念 法政大学能楽賞

金春惣右衛門氏 受賞 後藤淑氏

法政大学(阿利真二総長)は、昭和五十四年に「観世寿夫記念法政大学能楽賞」を設定し、すでに「授賞理由」近著「中世仮面の歴史民俗学的研究」(多賀出版、昭和六十二年刊)は、氏の研究成果を大いに示している。

〔授賞理由〕多年、金春流太鼓方として優れた技芸を示すとともに、常に安定した堅実な技によって演能の底流を支えている。能の響子を理論的に把握し、能の音楽としての響子全般に対する目配りの行届いている点も比類がない。

〔受賞者〕後藤淑(ごとう はじめ)氏

〔授賞理由〕近著「中世仮面の歴史民俗学的研究」(多賀出版、昭和六十二年刊)は、氏の研究成果を大いに示している。

新委員長に山本文彦氏 長谷晴男氏は顧問に就任

熱田神宮能楽殿運営委員長長谷晴男氏は、本年にわたり熱田神宮能楽殿運営委員長として尽力されてきたが、このたび「熱田神宮能楽殿運営委員会規約」に基いて、長谷晴男氏を退任させ、山本文彦氏を新任委員長に就任させた。山本文彦氏は、熱田神宮能楽殿運営委員会の顧問に就任し、長谷晴男氏は顧問に就任した。

山本文彦氏は、熱田神宮能楽殿運営委員会の顧問に就任し、長谷晴男氏は顧問に就任した。山本文彦氏は、熱田神宮能楽殿運営委員会の顧問に就任し、長谷晴男氏は顧問に就任した。

十回の授賞が行われてきているが、本年も各方面の識者により推薦された候補者について、選考委員(下川浩一、広末保、吉越立雄、観世栄夫、表章の五氏)により慎重に選考された結果に基づき、第十一回の受賞者として、金春流太鼓方・金春惣右衛門氏、昭和女子大学教授・後藤淑氏を決定した。

授賞理由は次のとおり。

〔受賞者〕金春惣右衛門(こんぱる そうえもん)氏

〔授賞理由〕多年、金春流太鼓方として優れた技芸を示すとともに、常に安定した堅実な技によって演能の底流を支えている。能の響子を理論的に把握し、能の音楽としての響子全般に対する目配りの行届いている点も比類がない。

〔受賞者〕後藤淑(ごとう はじめ)氏

〔授賞理由〕近著「中世仮面の歴史民俗学的研究」(多賀出版、昭和六十二年刊)は、氏の研究成果を大いに示している。

市制百年記念 乱能組

平成己巳歳師走下四日巳之下刻
(十二月二十四日午前十一時始)
蓬萊宮春殿門坤(ひつじさる)申樂所
(熱田神宮能楽殿・電話六二一七五二)

御能奉行 長谷晴男

- 高砂 池田茂 清沢一政 内藤泰二
佐藤友彦 福井良治 武田邦弘 前野郁子
河村大 杉江元 福井定男 良久
河村総一郎 地謡 河村真之介 福井定男 良久
後見 井上礼之助 高安 勝久 柳原富司 忠
後見 河村総一郎 地謡 河村真之介 福井定男 良久
井上礼之助 高安 勝久 柳原富司 忠
- 末廣 西王母 大野弘之 戸田和甫 吉川雅彦
舞 廣西村 太後藤孝一郎 後見 鬼頭嘉男
舞 西村 太後藤孝一郎 後見 鬼頭嘉男

草子洗小町

狂言小福 七つ子 水藤元三
熊坂 河村総一郎 佐藤博司 井上礼之助
王 鹿取 希世 能 玉井博司 井上礼之助
男 井上 佑二 加藤和男 福井良久
女 大矢 高義 保彦 加藤和男 福井良久
女 河村真之介 福井良久 加藤和男 福井良久
貴之 寛 敏一 福井良久 加藤和男 福井良久

天鼓 前原富司 井上松次郎 長田幸江 梅田邦久
後見 井上松次郎 近藤 寺江 河村真之介
弄鼓之舞 衣袂 正直

附祝言 主催 能楽協会名古屋支部
中 部 能 楽 師 会
御勸笑門鑑御土産券 千五百円 (全館自由席)
前席券 各出演楽師宅
お問合せ 熱田神宮能楽殿 宮(六八二)一七五二

蝸 牛泉 嘉夫 主飯富 雅介 後見 近藤 幸江
狂 象 吉田 定男 吉川 周子 地謡 杉江元 友久
女 象 吉田 定男 吉川 周子 地謡 杉江元 友久

釣針 竹内 澄子 主 河井 隆子 生駒 里翠
加今高吉生 加今高吉生 加今高吉生 加今高吉生
加今高吉生 加今高吉生 加今高吉生 加今高吉生

福之神 鬼頭 嘉男 近藤 幸江 杉浦 尚三 林 百々 康治
七つ子 水藤 元三 中村 和男 渡部 道三 佐久間 鉄
熊坂 河村 総一郎 佐藤 博司 井上 礼之助 福井 良久
王 鹿取 希世 能 玉井 博司 井上 礼之助 福井 良久
男 井上 佑二 加藤 和男 福井 良久 加藤 和男 福井 良久
女 大矢 高義 保彦 加藤 和男 福井 良久 加藤 和男 福井 良久
女 河村 真之介 福井 良久 加藤 和男 福井 良久 加藤 和男 福井 良久
貴之 寛 敏一 福井 良久 加藤 和男 福井 良久 加藤 和男 福井 良久

門鑑千五百文
〔編注〕乱能の番組は予定番組のため出演に未定のところがありま
すのでご了承下さい。(十一月十日現在)・十二月号に番
組掲載

熱田神宮能楽殿運営委員会
友彦がうまくからんだ。(23分)
「姑」シテ殿一、技キの昂り
が山中主人公の退る瀧ない胸の裡
に重なる印象の前シテだった。そ

科白が充分熱(こな)れぬ感じが
あった。(16分)
「雲雀山」シテ興道、前は。ヘ
ただ道狭き埋れ草、と子方にアシ

「朝長」前シテ雄三、互いに
持たずに成仏得脱、と合掌し
たが、成仏しきれたのかと思
った。(1時間4分)

忙のことに存じ上げます。小生
今般熱田神宮能楽殿運営委員
長に就任し、熱田神宮能楽殿
運営委員長に就任致しました。
願ひますれば昭和二十六年の春
熱田神宮能楽殿運営委員を拝命し
てより三十九年の永きに亘り、専
ら祭務を担当して幾多の貴重な体
験を積みつら、熱田神宮能楽殿建
立に際しては地鎮祭・竣工祭の祭
主をつとめ、次いで昭和三十九年
よりは同能楽殿運営委員長として
円滑なる運営と施設の改善の意を
用い、大過無く奉仕させて頂きま
したことは、偏に大神様の御加
護と、ご関係の皆々様のご指導の
賜ものと衷心より御礼申し上げます。
なお引続き同委員会顧問として
能楽興隆の為に微力を捧げる所存
でございますので、今後共一層の
ご好意を賜りますようお願い申し
上げます。

長谷晴男氏
長谷晴男氏は顧問に就任

冬月雅日記

(101)

冬

えと文

高浜虚子の句である。この寒桜は白色の冬桜のことをさしている。冬桜と寒桜はよく混同されている場合が多いけれど、虚子の句の場合は寒桜だからいいのではないかと思う。

植物学からいえば、カンザクラはヒカンザクラ(非寒桜)のことであり、花の色は鮮紅色であるが冬桜を寒桜とよぶ場合もある。

桜と言えは、らんまん(春に咲き鏡う姿が常盤であるが、十二月に入り、各地から初霜の便りをきく頃に満開になるという桜がこの冬桜である。

花は一重で白色から淡紅色で清楚であたかも梅花を見るようである。花期によって花の大きさや、つき方が違うが、四月にはやはり

桜

二井栄逸

多く開花するし、秋から寒中にも咲き、絶えず花が咲くのでフザクラ



ザクラ(不中断)ともいう。この冬は奈良の萬葉植物園の冬桜を見にゆこうと心に決めた。それは次の事が原因となった。先日友人から、群馬県東部の鬼石町にある松山公園のフザクラの写真を送ってくれたのである。その写真には遠山を背景にした冬桜が、梅の花と見紛う位爽やかに咲いていたのである。

のあたりの風景を想像していたら一昨日の積古日(その日はいけ花の積古日)に又花屋が冬桜を運んでくれた。花のつき具合もよいので、みんなにあたえ、思い思いにいけさせてみた。

(平成元年十二月七日記)

京都新聞文化賞

金剛流 広田隆一氏が受賞 能楽の普及と振興に尽力

平成元年年度の「京都新聞五大賞」の受賞者がこのほど決定、能楽の普及と振興の功績により金剛流シテ方・広田隆一氏が文化賞を受賞した。

同賞は、学術、文化に貢献した人たちに「文化賞」社会的な貢献者に「社会賞」さらにそれぞれの分野で「教育賞」「警察賞」「体育賞」が設定され、栄誉をたたえ表彰する五大賞で、文化賞は三十三年、今回は四氏が受賞した。

氏は大正十二年京都市生れ、先代金剛流宗家敏氏に師事、昭和三年初舞台、四十年重要無形文化財保

平成2年 新春放送

各地だよ

ほか仕舞十番。前売一階席五六〇円(当日六六〇円)二階席前売三六〇円(当日四二〇円) 問合せは神戸文化ホール事業部 電話〇七八一三五一三五三五。

1989年12月・1990年1月放送予定

〔12月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
 17日(日)金 春 流「初雪」「巻納」桜間 辰之
 24日(日)観 世 流「山 姥」山本 真賀
 ◎NHK・教育テレビ(午前9時~10時)
 ・12月23日(午前9時~10時)
 能「奥の細道」(金 春 流)桜間 金太郎
 〔1月〕NHK・FM能楽鑑賞(午前8時~9時)
 7日(日)宝 生 流「西 行 桜」三川 泉
 14日(日)新作「配 所・佐渡の月」金 春 信高
 狂 言「萩 大 名」野村 万之丞
 …… NHK能楽鑑賞会から ……
 21日(日)観 世 流「雲 林 院」橋岡 久馬
 28日(日)金 剛 流「老 松」金 剛 巖
 ◎NHK教育テレビ(午前3時~10時)
 ・1月15日(祝)狂言「萩 大 名」野村 万之丞
 …… NHK能楽鑑賞会から ……
 (放送予定につき変更の節はご理解下さい)

名古屋清韻会大会

平成二年一月十五日(成人の日) 午前十時半始

熱田 神宮 能楽殿

富士太鼓 岩田 正子 淺野 芳子 服部 幸子	巻 網 加藤 千一原 博彦 (クリ・サン・クセ省く)	山 姥 平岩 明	二人静 水野 絹子 (クセ省く) 緒方 陽子 富田 初子	仕舞 城キリ 堀 洋子 網キリ 吉川喜美子 若キリ 伊藤 敏子	仕舞 地謡 鈴木 京子 高木 あす子 鬼頭 貴代子 島津 尚子 御古井 富美子 春代 季子	能 組 熱田 神宮 能楽殿 地謡 増嶋 和夫 小川 真三 加藤 昭二 松野 明三	雑 地謡 伊藤 貴子 志田 清子 阿部 万子 松田 裕子 山本 信正 赤松 慎友	難 波 古井 佐季 後藤 孝一郎	実 盛 北原良一郎 伊藤 俊彦 地謡 山田 欣也 山田 欣也 地謡 高田 武雄	弱法師 渡辺 節子 西村 敏也 後藤 孝一郎 野村又三郎
---------------------------	-------------------------------	----------	---------------------------------	---------------------------------------	--	--	---	---------------------	--	------------------------------------

毎回能のほかに狂言仕舞上演。(自由席)申込みは能楽師又は熱田神宮能楽殿(〇五二一六八二一) 自由席二万五千円、当日券八千円 一七五一番)

青陽会定式能(第134回)

株式会社 セントラルパーク

本社 名古屋市東区泉1丁目23-36(NBN泉ビル)

PHONE 052-961-6111 FAX 052-953-2910

祝賀 逆 松 大 榎 秀夫	番外仕舞 大榎 文政 地謡 山本 正人 赤松 慎友	天 鼓 御牧 紀代 地謡 福井啓次郎	竜 田 長島みつこ 後藤 孝一郎	百 万 佐藤アヤ子 吉田 定男 福井啓次郎	藤 戸 殿島 博子 吉田 定男 福井啓次郎	鶴 亀 小川 記子 吉田 定男 福井啓次郎	後見 赤松 禎友 地謡 伊藤 貴子 志田 清子 阿部 万子 松田 裕子 山本 信正 赤松 慎友
---------------	---------------------------	--------------------	------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	---

主催名古屋清韻会 (終演予定 午後五時頃)

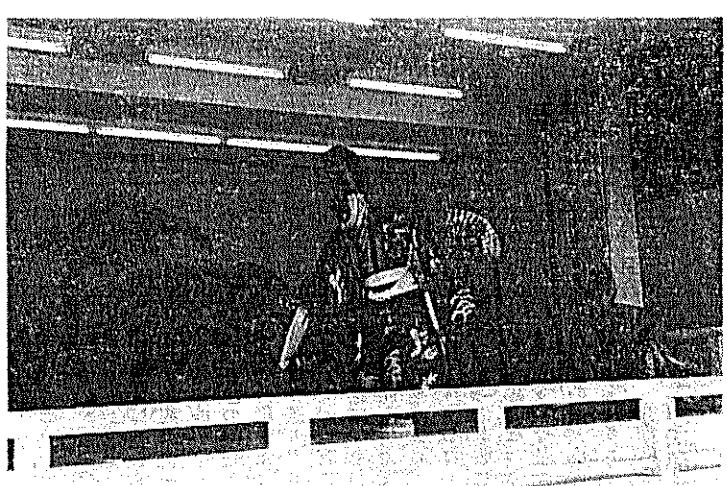
広田隆一(ひろたのりかず)氏は大正十二年京都市生まれ。先代金剛流宗家隆氏に師事、昭和三年初舞台、四十年重要無形文化財保持者。県立図書館、前川恒雄氏が選ばれてゐる。なお授賞式は十一月二十一日、京都新聞社で行われた。

◆◆◆ 平成2年 新春放送 ◆◆◆

- NHK教育テレビ
 - 一月一日(午後七時~八時) 能 宝生流「鶴亀」クセ入・宝生英雄、ツル東川尚史、カメ佐野玄直
 - 一月二日(午後七時~八時) 狂言 大藏流「福の神」大藏弥右衛門
 - 一月二日(午後七時~八時) 狂言 大藏流「棒しぼり」茂山千五郎、和泉流「越後屋」和泉元秀
 - 一月三日(午後七時~八時) 能 観世流「観世流」観世鏡之丞
 - NHKラジオ第2放送
 - (午前八時~九時)
 - 一月一日 金春流「声刈」金春信高
 - 一月二日 大藏流狂言「止動方角」善竹孝夫、和泉流狂言「若菜」野村万之丞
 - 一月三日 金剛流「墨染桜」(豊嶋潤三)

◆◆◆ 各地だより ◆◆◆

- 神戸新春能
 - 一月十五日 神戸文化ホール 新春を飾る「神戸新春能」は一月十五日、神戸文化ホールA中ホールにて神戸市制百周年を記念して神戸にゆかりある「敦盛」、「松風」「玄象」の能三番、観世宗家が来演し新春をかざる。
 - 能「敦盛」(シテ藤井徳三、ツレ越後隆之、笠田昭雄、上田隆司、ウキ中村弥三郎)
 - 能「松風」(シテ観世左近、ツレ藤井完治、ウキ福王茂十郎)
 - 狂言「素抱落」(茂山千五郎、茂山正義、茂山千之丞)
 - 能「玄象」(シテ吉井順一、竜神・田中幸文、姥・山田義高、師長・藤井宗人、ウキ江崎金治郎)



若宮八幡社神楽殿舞台披露 「三番叟」 井上松次郎

紅梅記

身辺雑事、墨染桜
と深沙大将の像
十一月下旬和泉狂言会(和泉元秀)の演目として、十二月三日、古屋市制百周年記念乱能が行われ、年末まで忙し。

十一月十五日頃早朝六時前後、次女祥子さんが十世三宅藤九郎を名のる。金剛を。十二月名古屋市制百周年記念乱能が行われ、年末まで忙し。

平成2年度 観世会定式能 予定
前記一階席五六〇〇円(当日六六九〇円) 二階席前記三六〇〇円
電話〇七八一三五五三三五
(当日四二〇〇円)
問合せは神戸文化ホール事業部

- 第一回 二月十一日(日) 十二時半始
度 観世 左近
羽衣 観世 元昭
和合之舞
- 第二回 四月八日(日) 十二時半始
松 久田 徹二
山本 勝一
観世 清和
- 第三回 六月十日(日) 十二時半始
祖父江修一
武田 志房
- 第四回 九月九日(日) 十二時半始
ナリ古橋 正邦
ヤス武田 邦弘
浦田 保利
大隈 文蔵
- 第五回 十一月十一日(日) 十二時半始
片山九郎右衛門
中川 雅章
小島 一英
観世鏡之丞

平成2年 青陽会定式能 予定
一回 一月二十七日(土) 正午始
番組①面掛
番組②四月二十八日(土)
楽 謡

- 第一回 一月二十七日(土) 正午始
番組①面掛
番組②四月二十八日(土)
楽 謡
- 第二回 四月二十八日(土)
楽 謡
- 第三回 八月五日(日)
山 姥 古橋 正邦
久田 徹二
- 第四回 十一月二十四日(土)
船弁慶 中川 雅章
前後之替
- 第五回 十二月二十四日(土)
菊慈童 須部 甫
三輪 武田 邦弘
藤 戸 小島 一英

十一月十六日は中区の若宮八幡社の舞台披露の日。仁徳天皇生誕千七百年記念事業として神楽殿をつくる。先月号に能舞台と書いたが、実は多目的用の建築。正面の板壁(鏡板)に能舞台の松、既述の堀江勲之助氏筆。借屋(きつくつ)として大きい姿に描かれている。現存の那古野神社・能舞台の松を基にされた(模した)由。そのは明治三三年(寺田左門治、金剛流名手。三番叟・山陽元清)の記録が始まりのよう。三一年が始まりとも。明治末まで名古屋の主要な演能場所。現在も使われて約百年の歳月を閲(けみ)す。それが今ここに受け継がれ、描かれたのはまことにうれしい。

十一月十六日は中区の若宮八幡社の舞台披露の日。仁徳天皇生誕千七百年記念事業として神楽殿をつくる。先月号に能舞台と書いたが、実は多目的用の建築。正面の板壁(鏡板)に能舞台の松、既述の堀江勲之助氏筆。借屋(きつくつ)として大きい姿に描かれている。現存の那古野神社・能舞台の松を基にされた(模した)由。そのは明治三三年(寺田左門治、金剛流名手。三番叟・山陽元清)の記録が始まりのよう。三一年が始まりとも。明治末まで名古屋の主要な演能場所。現在も使われて約百年の歳月を閲(けみ)す。それが今ここに受け継がれ、描かれたのはまことにうれしい。

十一月十六日は中区の若宮八幡社の舞台披露の日。仁徳天皇生誕千七百年記念事業として神楽殿をつくる。先月号に能舞台と書いたが、実は多目的用の建築。正面の板壁(鏡板)に能舞台の松、既述の堀江勲之助氏筆。借屋(きつくつ)として大きい姿に描かれている。現存の那古野神社・能舞台の松を基にされた(模した)由。そのは明治三三年(寺田左門治、金剛流名手。三番叟・山陽元清)の記録が始まりのよう。三一年が始まりとも。明治末まで名古屋の主要な演能場所。現在も使われて約百年の歳月を閲(けみ)す。それが今ここに受け継がれ、描かれたのはまことにうれしい。

- 青陽会定式能 (第134期)
平成二年一月二十七日(土) 十二時半始
熱田神宮能楽殿
- 神歌 加藤 保彦
千才 今村 喜男
馬場 敏彦
小島 一英
清沢 一政
 - 弓八幡 前野 郁子
地謡 須部 甫
近藤 幸江
今沢 美和
 - 弱法師 飯富 雅介
寛 敏一
福井啓次郎
應取 希世
 - 花月 玉木 孝男
雲院 中川 雅章
野守 須部 甫
地謡 馬場 敏彦
久田 徹二
祖父江修一
 - 草子洗小町 杉江 元
吉田 定男
柳原富司忠
大野 誠
 - 瘦松 井上礼之助
佐藤 友彦
 - 安達原 高安 勝久
飯富 雅介
後藤 孝一
鬼頭 英二
後藤 孝一
竹市 好信
 - 附祝言 後見 近藤 幸江
梅田 邦久
地謡 今沢 美和
今村 喜男
松山 幸親
清沢 一政
 - 主催 青陽会

- 青陽会定式能 (第134期)
平成二年一月二十七日(土) 十二時半始
熱田神宮能楽殿
- 神歌 加藤 保彦
千才 今村 喜男
馬場 敏彦
小島 一英
清沢 一政
 - 弓八幡 前野 郁子
地謡 須部 甫
近藤 幸江
今沢 美和
 - 弱法師 飯富 雅介
寛 敏一
福井啓次郎
應取 希世
 - 花月 玉木 孝男
雲院 中川 雅章
野守 須部 甫
地謡 馬場 敏彦
久田 徹二
祖父江修一
 - 草子洗小町 杉江 元
吉田 定男
柳原富司忠
大野 誠
 - 瘦松 井上礼之助
佐藤 友彦
 - 安達原 高安 勝久
飯富 雅介
後藤 孝一
鬼頭 英二
後藤 孝一
竹市 好信
 - 附祝言 後見 近藤 幸江
梅田 邦久
地謡 今沢 美和
今村 喜男
松山 幸親
清沢 一政
 - 主催 青陽会

弱法師 西村 敏也
後藤 孝一
藤田 六郎兵衛
野村 文三郎

